

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第202集

中堰遺跡

長野県佐久市平賀中堰遺跡発掘調査報告書

2013.1

社会福祉法人 佐久平福祉会
佐 久 市 教 育 委 員 会

中堰遺跡

長野県佐久市平賀中堰遺跡発掘調査報告書

2013.1

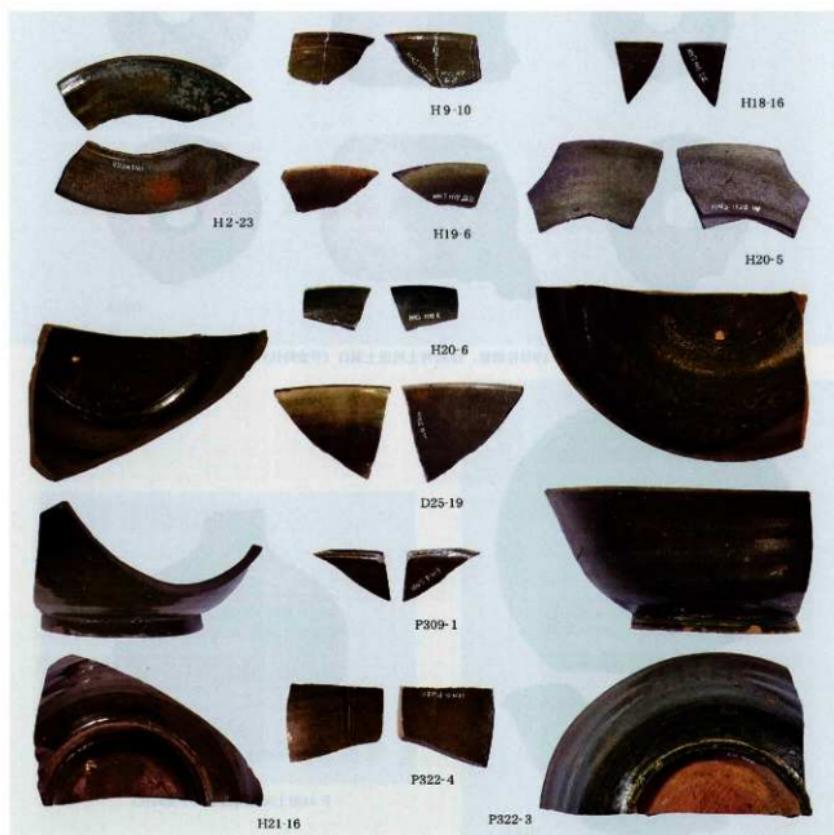
社会福祉法人 佐久平福社会
佐 久 市 教 育 委 員 会



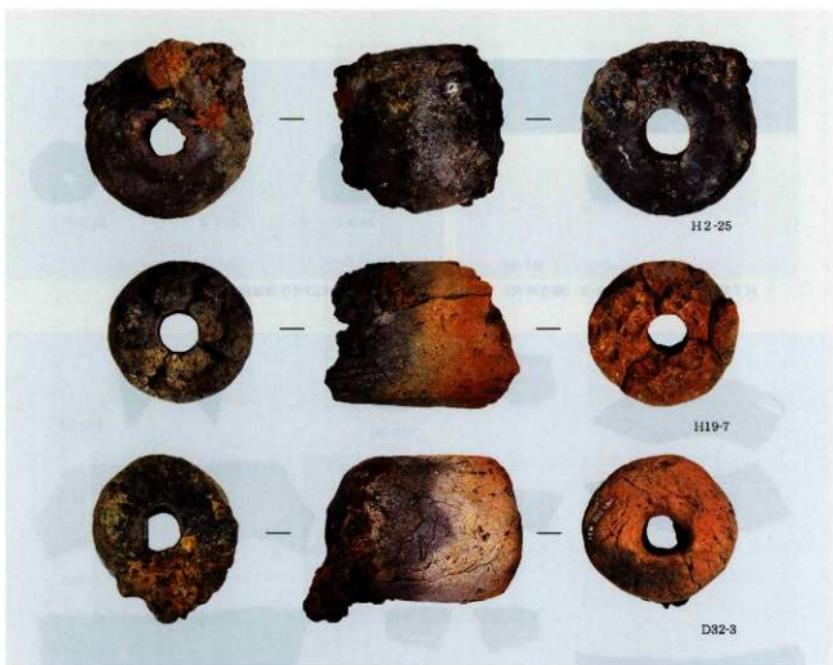
H 7 号住居址出土ガラス小玉（弥生時代）



H23号住居址出土白玉（古墳時代）



中壢遺跡出土綠釉陶器（平安時代）



H2・19号住居址、D32号土坑出土羽口（平安時代）



H12号住居址出土土師器碗（平安時代）



P44出土灰釉陶器壺（平安時代）

例　　言

- 1 本書は社会福祉法人 佐久平福社会 理事長 柳澤 秀樹による平成23年度佐久市特別養護老人ホーム整備運営事業に伴う中壢遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市長土呂860番地2 社会福祉法人 佐久平福社会 理事長 柳澤 秀樹
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 中壢遺跡(HNS) 佐久市平賀字櫻町738、740、741番地
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。

H-竪穴住居址 D-土坑 M-溝状遺構 P-ピット

- 2 スクリーントーンの表示は以下の通りである。



- 3 押図の縮尺は以下の通りである。

遺構-竪穴住居址・ピット・土坑 1/80 溝状遺構 1/80, 1/160

遺物-土器・石製品 1/4 石器 1/2 白玉 1/2 鉄製品 1/4 ガラス小玉 1/1

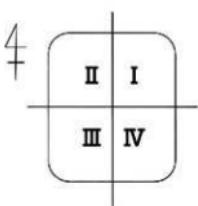
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。

- 5 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。

- 6 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。

- 7 遺物表中の〔 〕は推定値、〈 〉は残存値を表す。

- 8 遺物の出土地点は、下図の区割りによる。



日 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 調査日誌	2
第3節 調査体制	2
第4節 発見された遺構と遺物	3

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 自然環境	3
第2節 周辺遺跡	3
第3節 基本層序	7

第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 積穴住居址	9
第2節 土坑	46
第3節 溝状遺構	53
第4節 ピット	56
第5節 遺構外遺物	68

写真図版

抄録

挿 図 日 次

第1図 中堀位置図	1	第30図 H15号住居址遺物実測図	27
第2図 周辺道路位置図	6	第31図 H16号住居址遺構・遺物実測図	28
第3図 基本層序模式図	7	第32図 H17号住居址遺構・遺物実測図	29
第4図 調査遺構・試掘トレンチ配置図	7	第33図 H18号住居址実測図	30
第5図 調査区全体図	8	第34図 H18号住居址遺物実測図	31
第6図 H1号住居址遺構・遺物実測図	9	第35図 H19号住居址遺構・遺物実測図	32
第7図 H2号住居址遺構・遺物実測図	10	第36図 H20号住居址遺構・遺物実測図	33
第8図 H2号住居址遺物実測図	11	第37図 H21号住居址実測図	34
第9図 H3号住居址実測図	12	第38図 H21号住居址遺物実測図	35
第10図 H3号住居址遺物実測図(1)	12	第39図 H22号住居址実測図	36
第11図 H3号住居址遺物実測図(2)	13	第40図 H23号住居址実測図	36
第12図 H4号住居址実測図	13	第41図 H23号住居址カマド・遺物実測図	37
第13図 H4号住居址遺物実測図	14	第42図 H24号住居址遺構・遺物実測図	38
第14図 H5号住居址実測図	14	第43図 H24号住居址遺物実測図	39
第15図 H5号住居址遺物実測図	15	第44図 H25号住居址実測図	39
第16図 H6号住居址遺構・遺物実測図	15	第45図 H25号住居址遺物実測図	40
第17図 H7号住居址実測図	16	第46図 H26号住居址遺構・遺物実測図	40
第18図 H7号住居址遺物実測図	17	第47図 H26号住居址遺物実測図	41
第19図 H8号住居址実測図	18	第48図 H27号住居址実測図	41
第20図 H8号住居址遺構・遺物実測図	19	第49図 H27号住居址遺物実測図	42
第21図 H9号住居址遺構・遺物実測図	20	第50図 H28号住居址遺構・遺物実測図	43
第22図 H10号住居址遺構・遺物実測図	21	第51図 H29号住居址遺構・遺物実測図	44
第23図 H11号住居址遺構・遺物実測図	21	第52図 H30号住居址実測図	44
第24図 H12号住居址遺構・遺物実測図	22	第53図 H30号住居址遺物実測図	45
第25図 H13号住居址遺構・遺物実測図	23	第54図 H31号住居址実測図	45
第26図 H14号住居址実測図	23	第55図 上坑 遺構・遺物実測図(1)	46
第27図 H14号住居址遺物実測図(1)	24	第56図 上坑 遺構・遺物実測図(2)	47
第28図 H14号住居址遺物実測図(2)	25	第57図 上坑 遺構・遺物実測図(3)	48
第29図 H15号住居址実測図	26	第58図 上坑 遺構・遺物実測図(4)	49

第59回	土坑 遺構・遺物実測図(5)-----	50	第70回	ピット実測図(5)-----	60
第60回	土坑実測図(6)-----	51	第71回	ピット実測図(6)-1-----	61
第61回	M 1 号溝状遺構 遺構・遺物実測図-----	53	第72回	ピット実測図(6)-2-----	62
第62回	M 2 号溝状遺構実測図-----	54	第73回	ピット実測図(7)-1-----	62
第63回	M 3 号溝状遺構 遺構・遺物実測図-----	54	第74回	ピット実測図(7)-2-----	63
第64回	M 4 号溝状遺構 遺構・遺物実測図-----	55	第75回	ピット実測図(8)-1-----	64
第65回	M 5 号溝状遺構実測図-----	55	第76回	ピット実測図(8)-2-----	65
第66回	ピット実測図(1)-----	56	第77回	ピット実測図(9)-----	66
第67回	ピット実測図(2)-----	57	第78回	ピット出土遺物実測図-----	67
第68回	ピット実測図(3)-----	58	第79回	遺構外遺物実測図-----	68
第69回	ピット実測図(4)-----	59			

表 目 次

第 1 表	周辺遺跡表-----	5	第23表	H19号住居址遺物観察表-----	32
第 2 表	II 1 号住居址遺物観察表-----	9	第24表	H20号住居址遺物観察表-----	33
第 3 表	H 2 号住居址遺物観察表(1)-----	11	第25表	H21号住居址遺物観察表-----	35
第 4 表	H 2 号住居址遺物観察表(2)-----	12	第26表	H23号住居址遺物観察表-----	37
第 5 表	H 3 号住居址遺物観察表-----	13	第27表	H24号住居址遺物観察表-----	39
第 6 表	H 4 号住居址遺物観察表-----	14	第28表	H25号住居址遺物観察表-----	40
第 7 表	H 5 号住居址遺物観察表-----	15	第29表	H26号住居址遺物観察表-----	41
第 8 表	H 6 号住居址遺物観察表-----	16	第30表	H27号住居址遺物観察表-----	42
第 9 表	H 7 号住居址遺物観察表-----	17	第31表	H28号住居址遺物観察表-----	43
第10表	H 8 号住居址遺物観察表-----	19	第32表	H29号住居址遺物観察表-----	44
第11表	H 9 号住居址遺物観察表-----	20	第33表	H30号住居址遺物観察表-----	45
第12表	H10号住居址遺物観察表-----	21	第34表	土壙遺物観察表(1)-----	51
第13表	III11号住居址遺物観察表-----	22	第35表	土壙遺物観察表(2)-----	52
第14表	H12号住居址遺物観察表-----	22	第36表	土壙石器・石製品観察表-----	52
第15表	H13号住居址遺物観察表-----	23	第37表	土坑鉄製品観察表-----	52
第16表	H14号住居址遺物観察表(1)-----	25	第38表	M 1 号溝状遺構遺物観察表-----	54
第17表	H14号住居址遺物観察表(2)-----	26	第39表	M 3 号溝状遺構遺物観察表-----	55
第18表	H15号住居址遺物観察表-----	27	第40表	M 4 号溝状遺構遺物観察表-----	56
第19表	H16号住居址遺物観察表-----	28	第41表	ピット出土遺物観察表(1)-----	67
第20表	H17号住居址遺物観察表(1)-----	29	第42表	ピット出土遺物観察表(2)-----	68
第21表	H17号住居址遺物観察表(2)-----	30	第43表	ピット出土石器・石製品観察表-----	68
第22表	H18号住居址遺物観察表-----	31	第44表	遺構外遺物観察表-----	68

図 版 目 次

図版 1	中堀遺跡南側調査区全景 (北東から)	
	中堀遺跡南側調査区全景 (北西から)	
図版 2	中堀遺跡北側調査区全景 (北東から)	
	中堀遺跡北側調査区全景 (西から)	
図版 3	II 1 号住居址塹方全景 (南から)	
	H 2 号住居址全景 (南から)	
	H 2 号住居址北カマド (南から)	
	H 2 号住居址北カマド石垣 (南から)	
	II 2 号住居址北カマド塹方 (南から)	
	H 2 号住居址東カマド (南から)	
	H 2 号住居址東カマド塹方 (西から)	
	H 2 号住居址北東コーナー遺物出土状況	
図版 4	H 2 号住居址南東コーナー土坑	
	H 2 号住居址遺物出土状況	
	H 2 号住居址遺物出土状況	
	H 2 号住居址遺物出土状況	
	H 3 号住居址全景 (南から)	
	H 3 号住居址掘方全景 (南から)	
	H 3 号住居址遺物出土状況	
	H 4 号住居址全景 (南から)	
図版 5	II 4 号住居址掘方全景 (南から)	
	H 5 号住居址全景 (南から)	
	H 5 号住居址カマド (南から)	
	H 5 号住居址カマド塹方 (南から)	
	H 5 号住居址カマド掘方 (南から)	
	H 6 号住居址全景 (南から)	
	H 6 号住居址カマド (西から)	
	H 6 号住居址カマド掘方 (西から)	

図版 6	H 6 号住居址掘方全景 (南から)	
	H 7 号住居址全景 (東から)	
	H 7 号住居址跡跡掘方	
	H 7 号住居址全景 (南から)	
	H 8 号住居址主柱穴 P 4 墓石	
	H 8 号住居址主柱穴 P 3 墓石	
	H 8 号住居址主柱穴 P 1 墓石	
図版 7	H 8 号住居址主柱穴 P 2 墓石	
	H 8 号住居址カマド (南から)	
	II 8 号住居址カマド掘方 (南から)	
	H 8 号住居址掘方全景 (南から)	
	H 9 号住居址出土状況	
図版 8	H 9 号住居址全景 (南から)	

図版 8	H10号住居址炉跡	
	H10号住居址炉跡掘方	
	H11号住居址全景 (南から)	
	H12号住居址全景 (西から)	
	H12号住居址遺物出土状況	
	H13号住居址南側部分 (西から)	
	H13号住居址北側部分 (南から)	
図版 9	II14号住居址全景 (南から)	
	H14号住居址カマド掘方 (北西から)	
	H15号住居址全景 (西から)	
	H15号住居址遺物出土状況	
	H15号住居址カマド掘方 (西から)	

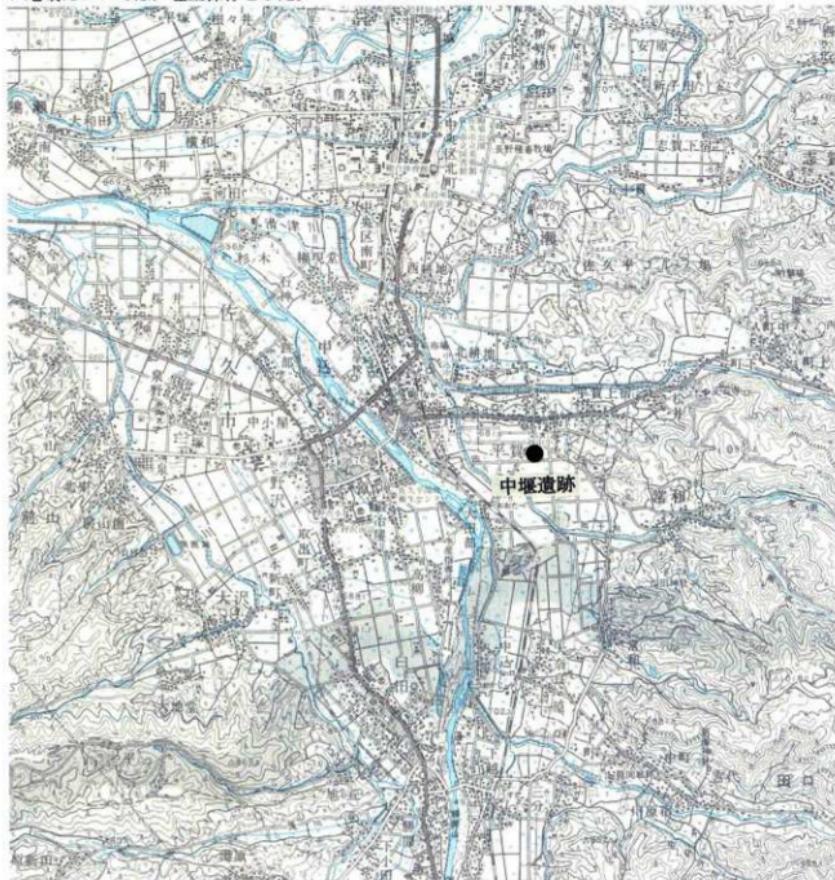
H15号住居址掘方全景（西から）	D16号土坑遺物出土状況
H16号住居址全景（南から）	D16号土坑全景
H16号住居址跡跡	D17号土坑全景
図版10 H16号住居址跡跡（廃土除去状況）	D18号土坑全景
H17号住居址全景（東から）	D19号土坑全景
H17号住居址跡跡	D20号土坑全景
H17号P298号ビット出土拂臼出上状況	D21号土坑全景
H18号住居址全景（南から）	図版18 D22号土坑全景
II18号住居址カマド（南から）	D23号土坑全景
H18号住居址カマド掘方（南から）	D24号土坑全景
H18号住居址掘方全景（南から）	D25号土坑全景
図版11 H19号住居址全景（南西から）	D26号土坑全景
H19号住居址カマド（西から）	D27号土坑全景
H19号住居址カマド掘方（西から）	D28号土坑全景
H19号住居址掘方（南から）	D29号土坑全景
H20号住居址全景（南から）	図版19 D30号土坑全景
H20号住居址掘方全景（南から）	D31号土坑全景
H21号住居址全景（南から）	D32号土坑羽口出土状況
H21号住居址鐵門遺跡	D32号土坑全景
図版12 H22号住居址全景（南から）	D34号土坑全景
H23号住居址全景（南から）	D35号土坑全景
H23号住居址カマド（南から）	D36号土坑全景
H23号住居址カマド掘方（南から）	D37号土坑全景
H23号住居址掘方全景（南から）	図版20 南側調査区M1号溝状遺構全景（東から）
H24号住居址全景（南から）	北側調査区M1号溝状遺構全景（東から）
H24号住居址跡跡	M2号溝状遺構全景（南から）
H24号住居址南壁露遺物出土状況	M4号溝状遺構全景（西から）
図版13 H24号住居址南西壁際遺物出土状況	M5号溝状遺構全景（北から）
H24号住居址南東コーナー遺物出土状況	南側調査区表土除去作業
H25号住居址全景（南から）	北側調査区表土除去作業
H25号住居址カマド（南から）	調査風景
H25号住居址掘方全景（南から）	図版21 H1・2号住居址出土遺物
H26号住居址全景（東から）	図版22 H2・3・4号住居址出土遺物
H26号住居址跡跡	図版23 H4・5・6・7号住居址出土遺物
H26号住居址遺物出土状況	図版24 H8・9・10・11・12号住居址出土遺物
図版14 H26号住居址遺物出土状況	図版25 H13・14号住居址出土遺物
H27号住居址全景（西から）	図版26 H14・15号住居址出土遺物
H27号住居址カド（西から）	図版27 H16・17・18号住居址出土遺物
H27号住居址カマド掘方（西から）	図版28 H19・20・21号住居址出土遺物
H27・28号住居址掘方（南から）	図版29 H21・23・24号住居址出土遺物
H28号住居址全景（南から）	図版30 H24・25・26号住居址出土遺物
H27・28号住居址ビット振り下げ後状態（南から）	図版31 H26・27号住居址出土遺物
II28号住居址カマド（西から）	図版32 H27・28・29・30号住居址、D1・2・3・4・6号土坑出土遺物
図版15 H27号住居址内ビット	図版33 D7・8・9・10・11・13・14・16・20・21・22号土坑出土遺物
H29号住居址全景（東から）	図版34 D25・26・28号土坑出土遺物
H30号住居址全景（南から）	図版35 D28・29・32・33号土坑、M1号溝状遺構出土遺物
H31号住居址全景（南から）	図版36 M1・4号溝状遺構、P6・8・22・43・44・66・170・183・258号ビット出土遺物
D1号土坑全景	図版37 P294・295・297・298・315・322号ビット、グリッピ出上遺物
D2号土坑全景	
D3号土坑全景	
D4号土坑全景	
図版16 D5・6号土坑全景	
D7号土坑全景	
D8号土坑全景	
D9号土坑全景	
D10号土坑全景（東から）	
D11号土坑炭化層確認状況	
D11号土坑空掘状況全景	
D12号土坑全景	
図版17 D14・15号土坑全景	

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経過

中堀遺跡は、佐久市の平賀地籍に位置する、縄文時代から中世を中心とする複合遺跡である。調査地域は、東方の北関東山地から佐久平に注ぎ込む滑津川の谷口扇状地と西方の千曲川によって形成された沖積地が交じり合う、標高688m内外を測る微高地上に位置する。

今回、社会福祉法人 佐久平福社会による佐久市特別養護老人ホーム整備運営事業に伴い、埋蔵文化財試掘調査を平成23年4月5～13日にかけて実施した。その結果、堅穴住居址等の遺構が多数発見されたことから、開発主体者との保護協議によって、遺構が破壊される建物部分についての発掘調査を佐久市教育委員会が主体となって行う運びとなった。なお、今回の工事によって遺構への影響がない地域については、埋土保存とした。



第1図 中堀遺跡位置図 (1:50,000)

第2節 調査日誌

平成23年度

- 4月 5～13日 試掘調査。調査の結果、豎穴住居址及び遺物が多数発見され、文化財保護協議の結果、建物部分の発掘調査を実施する運びとなった。
- 4月20日 平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。
- 4月27日 重機による南側調査区の表土除去作業。
ハウス・トイレ設置（原因者による）
遺構確認面までの深さは20～30cmと全体的に浅い。
- 5月 2日 発掘調査機材準備・搬入作業。
南側調査区測量基準杭設定。（原因者による）
南側調査区調査員による発掘調査開始。
- 5月 6日～ 住居址・溝・土坑等の遺構掘り下げ作業・遺構図面作成・遺構写真撮影。
雨天時は室内にて整理作業を行う。
- 5月31日 重機による北側調査区表土除去作業。（原因者による）
遺構確認面までの深さは南側調査区同様20～30cmと浅い。
- 6月 1日～ 北側調査区調査員による発掘調査開始。
- 6月 2日～ 調査員による住居址・溝・土坑等の遺構掘り下げ作業開始。図面作成・写真撮影。
北側調査区測量基準杭設定。（原因者による）
雨天時は室内にて整理作業を行う。
- 6月21・22日 現場調査終了。機材撤収。重機による埋め戻し作業。
- 5月10日～ 室内整理作業。遺物洗浄・遺物注記・遺物接合・図面修正・現場写真整理。
- 1月17日 埋蔵文化財変更契約。
- 2月10日 平成23年度発掘調査作業完了。
- 平成24年度
- 4月 4日 平成24年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。
- 4月 4日～ 発掘調査整理作業開始。遺物復元・遺物実測・遺物写真・遺物・遺構トレース・遺構・遺物図版作成・原稿作成・印刷製本・校正。
- 平成25年1月 平成24年度発掘調査整理作業終了。
- 1月 報告書刊行

第3節 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	土屋盛大
事務局	社会教育部長	伊藤明弘	
	社会教育部次長	藤牧浩（平成23年度）	
	文化財課長	吉澤隆	
	文化財調査係長	三石宗一	
	文化財調査係専門員	林幸彦（平成23年度）	須藤隆司 小林真寿
		羽田野卓也 富沢一明 上原学	
	文化財調査係	並木節子 神津一明（平成23年10月～）	
		井出泰章（平成23年4月～9月） 久保浩一郎（平成24年度～）	
嘱託職員		林幸彦（平成24年度～）	
調査主任	上原 学	佐々木宗昭 森泉かよ子	
調査担当者	上原 学		
調査員	浅沼勝男 阿部和人 安藤孝司 飯森成英 江原富子 小幡弘子 風間敏 狩野小百合 川瀬祥太 木内勇 菊池喜重 小井戸秀元 小林百合子 坂井一夫 堺益子 清水澄生		

滝沢三男 田中ひさ子 土屋武士 中嶋フクジ 中條勝良 比田井久美子 日向昭次
広瀬梨恵子 武者幸彦 柳澤孝子 油井重明 横尾敏雄 依田三男 渡辺長子 渡辺学

第4節 発見された遺構と遺物

遺構—堅穴住居址 31軒

弥生時代 7軒 古墳時代 3軒
奈良時代 1軒 平安時代 18軒他
溝状遺構 5条
土 坑 37基 平安時代
ビ ット 平安時代

遺物—土師器（壺・皿・甕・高壺） 羽口

須恵器（壺・高台付壺・甕）
弥生土器（甕・壺・高壺・甌）
灰釉陶器（碗・皿・甕） 緑釉陶器（碗）
石器（臼玉・搗臼・すり石・敲石・磨製石斧）
鉄製品（鍔先・紡錘車）

第II章 遺跡の環境

第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地・台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。

この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火碎流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（出切り）を形成している。

これに対し、南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主で地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した中堀遺跡は、南部の千曲川右岸に広がる標高687～688mの沖積地に位置する。

第2節 周辺遺跡

中堀遺跡周辺に目を向けると、縄文時代から中世に至る幅広い時期の遺跡が存在する。佐久市が作成した遺跡地図では北に平賀中屋敷遺跡群、樋村遺跡、後家山遺跡、東久保遺跡、寄山遺跡、東に平賀城跡、南には久留添遺跡、大奈良遺跡等が所在する。

これらの遺跡内における遺跡の状況を、実際に行われた発掘調査結果から、時代別に述べる。

縄文時代—平成15年には道路改良に伴い、低丘陵を背後に背負う河岸段丘上に立地する大奈良遺跡(29)から中期の堅穴住居址10軒・敷石住居址2軒、後期の敷石住居址1軒及び、土器・打製石斧が多く見出されている。また、北方には、佐久市でも代表的な縄文遺跡である寄山遺跡が所在する。遺跡は東の北関東山地から張り出した丘陵先端部の台地上に形成されている。この丘陵の先には現在は消滅しているが、巨大な池「志賀湖」が江戸時代まで存在していた。寄山遺跡の当時の情景は背後に丘陵地、眼下に大池といった状況で、集落の形成には恵み多い地域であったことが窺える。中期の住居址等の遺構に加えて土器・打製石斧等の遺物が多数発見されている。佐久市における縄文時代の遺跡の立地について、これまで、丘陵地域から発見されることが多かったが、近年では、大奈良遺跡のように、河川に近接する段丘上などの平坦部からも発見されるようになってきている。

弥生時代－北の城山小学校敷地内において、平成14年に行われた体育館建替えに伴う平賀中屋敷遺跡V(25)から後期の住居址1軒が、平成9～12年に道路改良に伴い南西600mの千曲川右岸段丘端部で行われた久瀬添遺跡(30)の調査から後期の竪穴住居址が4軒発見されている。久瀬添遺跡の住居址からは磨製石器の完成品及び石材片が認められることから、製品の製作が行われていた可能性を考えられている。また、北の滑津川右岸に発達した複合扇状地微高地上に樋村遺跡(13,14)、その東方向に張り出す低丘陵先端の台地上には後家山遺跡(16)・東久保遺跡(18)が存在する。後家山遺跡からは中期の竪穴住居址2軒、後期の竪穴住居址68軒、後期の木棺墓2基、環濠と思われる溝等が発見され、遺物は上器に加え、竪穴住居址から炭化した小型の木鏟、木棺墓からガラス小卡、螺旋状の鉄釧が出土している。東久保遺跡では後期の竪穴住居址3軒が調査されている。樋村遺跡では中期の竪穴住居址5軒、後期の竪穴住居址17軒及び環濠と思われる溝が発見され、この一帯では中期終わりから集落が形成されはじめ、後期にかけて規模が拡大していった様子が窺える。また、後家山遺跡・東久保遺跡については、その立地から、高地性集落的な性格が認められる。住居址の規模は中期後半が1辺4m内外と小型で、形態は隅丸方形、楕円形、円形に近い方形など様々である。柱穴は4本が整然と並ぶものの、不明確なものが存在する。炉は住居址のほぼ中央に位置するものが多く、大半は地面を窪めた地床炉である。後期になると形態は、ほぼ長方形に統一され、規模も大型化する。本遺跡周辺では長辺8m、短辺6mを越える住居址が樋村遺跡で発見されている。佐久市全域に目を向けると、平成18年に高速道路建設に伴い行われた西近津遺跡の調査から、長辺18mを測る巨大な竪穴住居址が発見されるなど、近年、1辺10mを越える大型の住居址が確認されている。柱穴については規則正しく4本掘り込まれており、その平面形態は楕円形を示すことが多い。これは円形の柱ではなく、板材もしくは割材を利用した可能性があり、木材加工技術の向上が考えられる。この他、入り口、棟持柱に関するピット等が確認できることも多い。炉は柱穴との間に主となる炉を設け、他に小型の炉を認める事もできる。炉の形態は、地面を掘り窪めただけの地床炉を主とするもの、地床炉の脇に一つないし数個の炉縁石を伴うこともある。また、土器片を敷き詰めた土器敷炉、土器の底部や輪切りにした口縁部を埋め込むもの等が存在する。

古墳時代－中期後半以降になると遺跡数が増加し始め、後期になると北方の樋村遺跡周辺で大規模な集落が形成される。昭和57・58年に調査を行った樋村遺跡(13)では後期の住居址だけでも273軒が調査され、さらに平成11・12年に行われた樋村遺跡II(14)の28軒をあわせると300軒を越す。調査を行った付近には未だ発見されていない住居址も相当数あることを考えると、古墳時代後期（6～8世紀初頭）には本遺跡北に広がる冲積地上には、安定した集落が営まれていたと考えられる。発見された住居址の大半は1辺4～6mの方形だが、前半期は1辺8～10mを測る大型も存在する。また、南壁のほぼ中央に方形の張り出し部を持つ住居址も現れる。ピットは基本的には4本規則正しく掘り込まれており、住居址コーナー付近に貯蔵穴を伴うことが多い。古墳時代も中期後半（5世紀後半）になると徐々に炉からカマドへと変化し、後期（6世紀）に入ると大半の竪穴住居址は壁にカマドを構築するようになる。構築場所は、時期によってある程度の規則性があったようで、古墳時代を通して、多くは北壁のほぼ中央に位置している。時期が下るに従い北東及び東カマドが認められるようになるが、北カマドに対する比率は低い状況である。また、極めて希だが樋村遺跡では南、西カマドも確認されている。この他、古墳時代の集落としては樋村遺跡ほどの規模ではないが、北の平賀中屋敷遺跡IV(24)、北東の開戸田遺跡(15)、扇田遺跡、南の大奈良遺跡からも生活の痕跡を認めることができる。

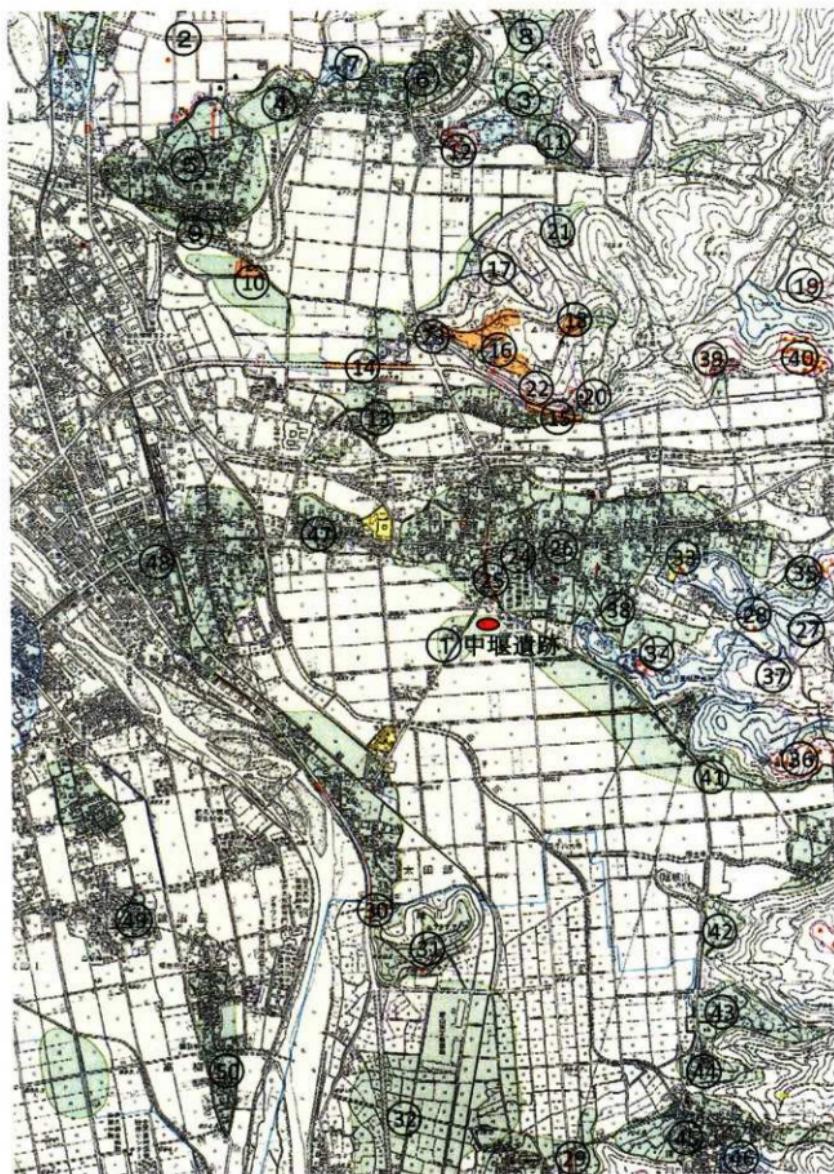
古墳については、東の山地から張り出す舌状の丘陵地斜面部には後期から終末期と思われる小古墳が点在し、南谷津古墳群(34)、西久保古墳群(36)、松井日影古墳群(35)、打越古墳群等を形成している。

奈良・平安時代－後家山遺跡で平安時代の竪穴住居址1軒、平賀中屋敷遺跡IV(24)で平安時代の竪穴住居址2軒、平成4年の道路改良に伴う中屋敷遺跡の調査で平安時代の竪穴住居址4軒が発見されている。小規模調査であるため遺構の発見数は少ないように見えるが、本遺跡の北側沖積地上には広範囲に渡り、遺構が発見されている。古墳時代のような大規模な集落ではないが、小規模な集落が広く展開しているようである。

中・近世一遺跡北側の地域には屋敷跡があったとされ、現在は、平賀中屋敷遺跡(26)と称されている。付近の調査では、北側の城山小学校体育館建て替えに伴う平賀中屋敷遺跡Vから、中世と考えられる南北方向の溝が発見されている。また、道路改良工事に伴う平賀中屋敷遺跡の調査では中世の土坑が認められた。遺物は、常滑の甕、古鏡等が出土している。また、東側には、山城である平賀城跡(27)が存在し、現在も郭・土塁・空堀・石積みを見ることができる。築城は平安末ともいわれ、平賀氏、大井氏と領主を交代つつ戦国期まで存続していたようである。しかし、戦国時代に大井氏が甲斐武田氏に攻め込まれ、平賀城も武田氏の支配下となつた後の詳細は不明で、廃絶時期もはっきりしていない。

No	遺跡名	所在地	遺跡番号	印	縄	弥	占	歷	中	近	備考
1	中城遺跡	平賀字中城	433	○	○	○	○				H23年調査
2	瀬戸遺跡群	瀬戸字深継・風琴・残塚・下原外	255	○	○	○	○	○			H11・12年調査
3	南南堂遺跡	瀬戸字南南道	338			○	○				
4	八反田遺跡	瀬戸字八反田	335								
5	東T台平遺跡群	瀬戸字東千石平・西千石平外	333	+		○	○	○			H11年調査
6	中反遺跡	瀬戸字中反・中風歌	336					○			
7	八反田城跡	瀬戸字八反田	347					○			
8	中条半遺跡	瀬戸字中城基・中城平	337	○		○	○				H元・2・3年調査
9	西屋京部遺跡	瀬戸字内屋敷添	334			○	○				
10	上の台遺跡	瀬戸	345			○					S57年調査
11	城山遺跡	瀬戸字城	348				○				
12	庭教古墳群	瀬戸字城敷	352			○					
13	穂村遺跡	平賀字穂村	344	○	○						S57・58調査
14	穂村遺跡Ⅱ	平賀字穂村	344	○	○	○					H11・12調査
15	瀬戸口遺跡	平賀字開戸田	343	○	○	○	○				H14・15調査
16	後家山遺跡Ⅰ・Ⅱ	平賀字後家山	341	○	○	○					H13・14調査
17	宍田遺跡Ⅰ・Ⅲ	瀬戸字宍田	340	○	○	○	○				H13・14調査
18	東久保遺跡	平賀字東久保・瀬戸字宮川	342	○	○	○					
19	西和田古墳群	内山字西和田	367			○					
20	東久保古墳群Ⅰ号墳	平賀字東久保	351			○					H13調査
21	宮田Ⅱ遺跡	瀬戸字宮田	332				○				
22	東久保古墳群	瀬戸字東久保・戸田・後家山	354			○					
23	後家山古墳群	瀬戸字後家山	353								S49後家山古墳調査
24	平賀字山景遺跡IV	平賀	432	○	○	○	○				H11年調査
25	平賀字中屋敷遺跡V	平賀字下屋敷	432	○	○	○	○	○			H18調査
26	平賀字中風歌遺跡群	平賀字中屋敷・下屋敷・上屋敷	432	○	○	○	○				
27	平賀城跡	平賀字城平・地・北谷津・淺谷外	447					○			
28	森木古墳	平賀字森木	463			○					
29	大糸良遺跡	大糸良・金石外	660	○	○	○	○				H15調査
30	久瀬南遺跡	太田郡字久瀬添・飛越・飯塚	434	○	○	○	○	○	○		H11・12年調査
31	離山遺跡	上中込・離山	658	○	○	○	○				
32	中反田遺跡	大糸良・中反田・田口・一田外	659			○	○				
33	上熊野古墳	平賀字上熊野	418				○				
34	山谷山古墳群	平賀字南谷津	419			○					
35	松井口影古墳群	内山字松井口影	449			○					
36	西山後古墳群	常和字西久保・城下・城手外	450			○					
37	城平遺跡群	平賀字城平・西井・常和字八十戸外	443	○	○	○	○	○			
38	北谷津遺跡	平賀字北谷津・南谷津	437				○				
39	東絶石古墳群	平賀字東絶石	365			○					
40	月崎ノ遺跡	平賀字月崎	366	+		○					
41	八戸遺跡	常和字八戸	442			○					
42	堤川遺跡	常和字堤川	499	○	○	○					
43	打越遺跡	常和字打越	500								
44	はかせ久保遺跡	清川・はかせ久保	666								
45	清川遺跡	清川・部落内	665	○	+	○	○				
46	清川人山城跡	清川入口	798								
47	荒筋遺跡	平賀字荒筋	431			○	○				
48	新町遺跡	中込字新町・横道・狐塚・山畑	428			○	○				
49	向畠遺跡	駿河屋・向畠	497				○				
50	前堀遺跡	高柳字前堀・社在家外	498			○	○				

第1表 周辺遺跡表



第2図 周辺遺跡位置図

第3節 基本層序

中堀遺跡周辺の佐久市南部地域は、千曲川右岸の氾濫源沖積地及び東からの支流の谷口扇状地によって形成された、緩やかな南西方向に傾斜する台地が広がる。堆積状況は河川によって運ばれた河床疊層、沖積粘土層、シルト層が層状に堆積した状況が主となる。また、本調査区一帯は、圃場整備された水田が広がり、田表土が広範囲に掘削された地域である。調査地域の層序は、以下の通りである。

I 層は層厚20~30cm内外を測る黒褐色土の水田耕作土である。

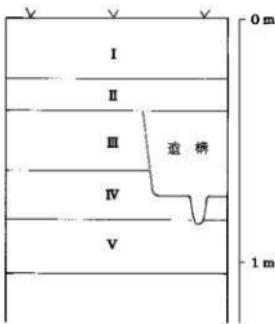
II 層は層厚10~15cm内外を測る褐色土の水田底土である。

III層は層厚20~30cm内外を測る黄褐色土のシルトである。遺構検出はこの上面で明確に確認することができる。調査区一帯は、圃場整備によって、かなり削り込まれた可能性が窺われ、遺構の上部は大半が破壊され、本来の遺構の深さより、浅い状態である。また、発見された遺構の中には、掘方など一部の痕跡を残すものも多く、こうした状況から、中堀遺跡周辺では、圃場整備によって遺構が完全に破壊されたものが相当数あったと考えられる。

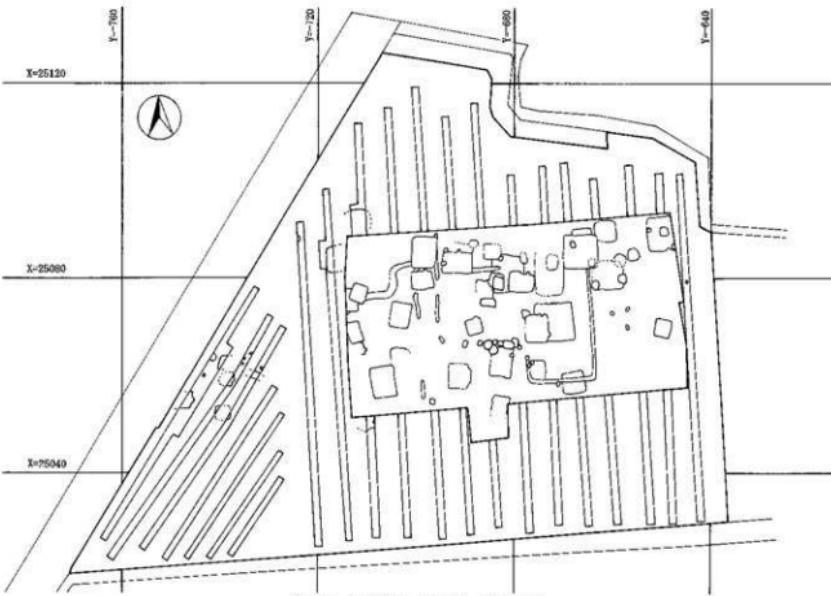
IV層は褐色土の沖積粘土層である。東側に比べ西側で厚い状況である。

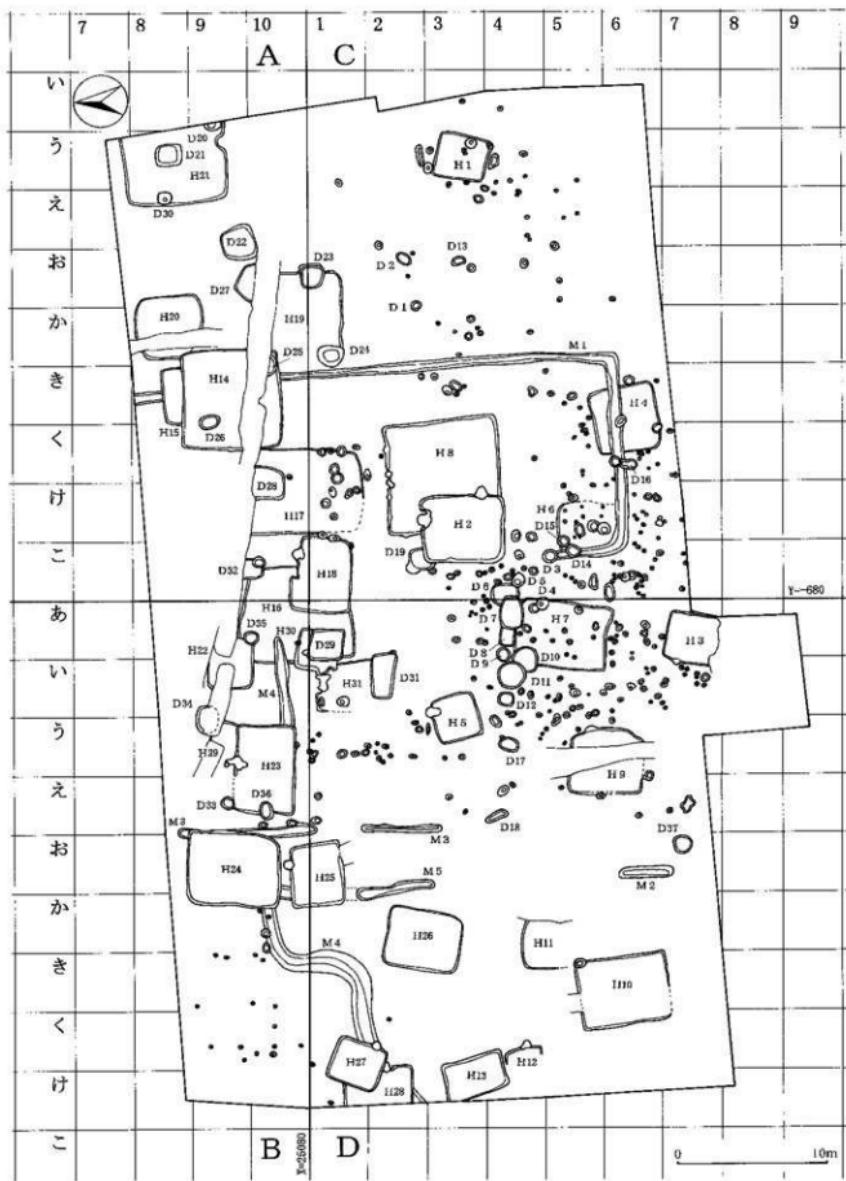
V層は層厚20cm以上を測る小砾を含む砂疊層である。

V層以下の層序は、沖積粘土層、シルト、砂疊層が交互に厚く堆積しているようである。



第3図 基本層序模式図





第5図 調査区全体図

第三章 遺構と遺物

第1節 積穴住居址

H 1号住居址

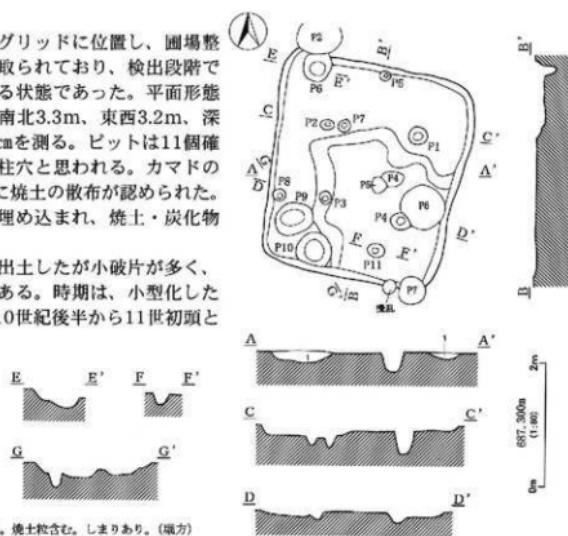
遺構は調査区東のC-1-3グリッドに位置し、圓場整備によって、遺構の上部は削り取られており、検出段階ですでに床面の大半が露出している状態であった。平面形態はやや台形状の方形で、規模は南北3.3m、東西3.2m、深さは残存した覆土の最深部で5cmを測る。ピットは11個確認でき、P1・4・7・3が主柱穴と思われる。カマドの確認はできなかったが、床面上に焼土の散布が認められた。掘方は縮まりのある黒褐色土が埋め込まれ、焼土・炭化物が混入していた。

遺物は土師器の壺・碗・甕が出土したが小片が多く、形態の判別できる個体は1点である。時期は、小型化した湯飲み状の形態から平安時代、10世紀後半から11世紀初頭としたい。



1 黒褐色土 (10WE2/3) 炭化物多い。焼土粒含む。しまりあり。(埴方)

第6図 H 1号住居址遺構・遺物実測図



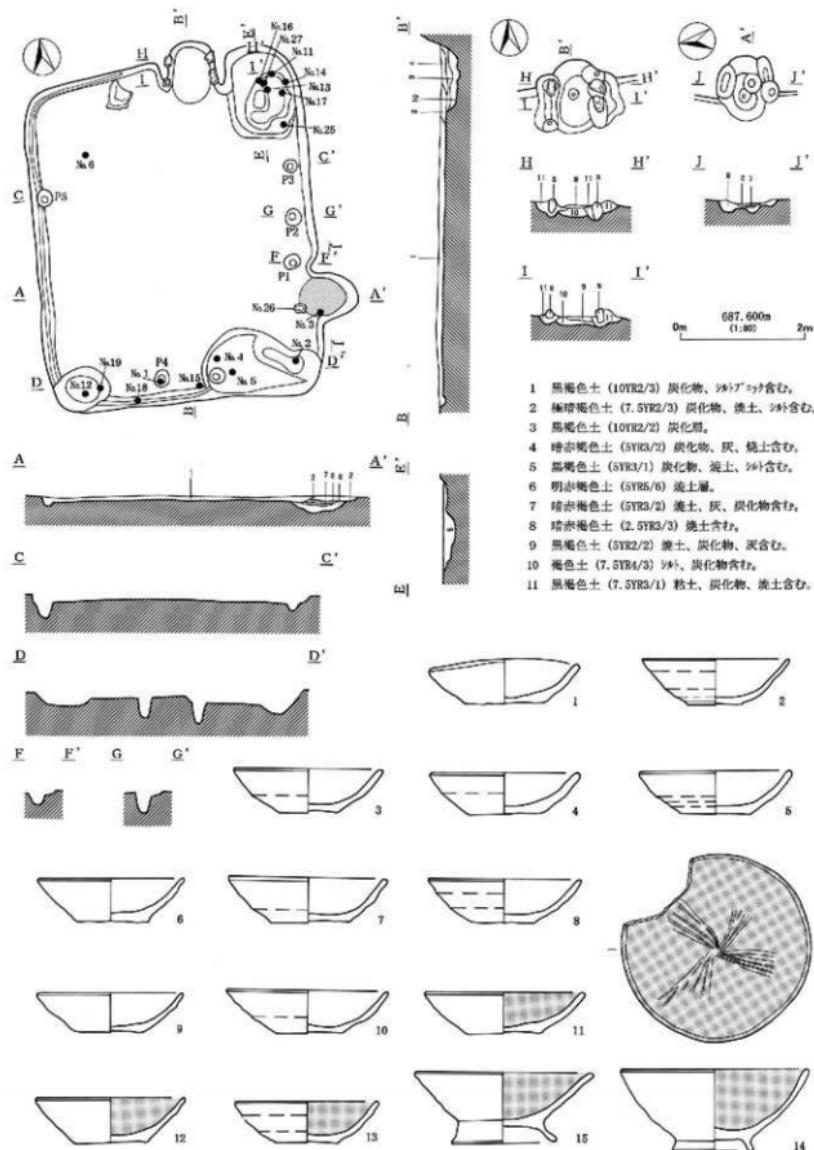
第2表 H 1号住居址遺物観察表

通号	縦幅	横幅	厚さ(cm)	成分(cm)	断面	調査・文様	残存率・部位	報告
1	土師器	壺	9.8	5.7	4.2	内外面ロクロナガ 水痕跡有り	70	外壁7.5cm/4にぶつ・複色

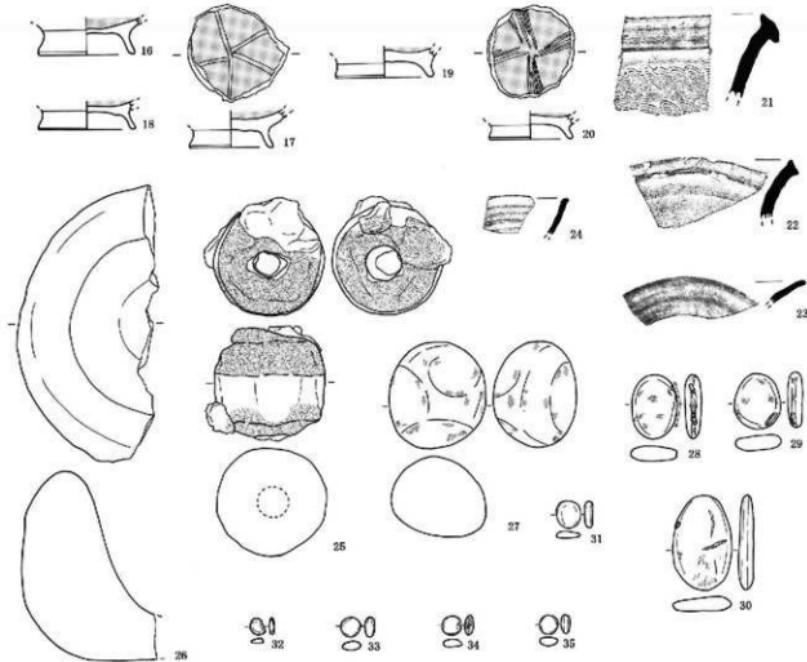
H 2号住居址

遺構は調査区C-1-3グリッドに位置し、H 2を切る。平面形態は南北にやや長い長方形である。規模は南北5.4m、東西4.3m、検出面から床面までの深さは最深部で12cmを測る。床面はほぼ平坦で、硬質である。西側半分の壁際に溝が認められた。床面上に小ピット5個、住居址コーナーの3カ所に土坑が掘り込まれており、いずれの土坑から多くの土器が出土した。カマドは北壁の東にやや寄った位置及び東壁の南寄りの2カ所に存在する。いずれも僅かな袖の痕跡、壁外への張り出し、火床が残存する程度であった。北壁カマドは両袖の一部に石材が一部残り、火床に僅かな焼土は含まれていたが明確な堆積は認められなかった。東カマドの火床には径70cm、厚さ5cmの焼土が堆積していた。掘方は全体に薄く、貼り床状に硬質な褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の壺・碗・甕、須恵器の甕、灰釉陶器、綠釉陶器、羽口、石器・石製品が出土した。須恵器の壺は認められない。遺物は土坑内から形態の残る物が多く出土しており、住居内の土坑を利用して小鍛冶等の作業が行われていた可能性も考えられる。須恵器甕、灰釉陶器、綠釉陶器は破片である。土師器壺の器厚はやや厚く、体部はやや開き気味に立ち上がり底径の小型な物も含まれる。土師器碗は、壺部が直線的に開き高台の作りが雑な物、高台は低めでやや内湾しながら立ち上がる形状の整った物が存在する。高台のみの個体も多く、中にはやや高台が高い物も存在する。時期は、須恵器壺が認められず、一部足高の高台をもつ碗が存在すること。小型化した土師器碗・壺が認められないことなどから、平安時代、10世紀前半としたい。



第7図 II 2号住居址遺構・遺物実測図



第8図 H-2号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	測定・文様	現存率・部位	参考
1	土師器	环	12.3	6.5	3.6	内外面クロコナガ 底部削輪条切り 平面形状やいびつ	100	外周2.5YR6/6褐色
2	土師器	环	12.1	4.4	3.8	内外面クロコナガ 底部削輪条切り	100	外周10YR8/2褐色
3	土師器	环	12	4.6	3.6	内外面クロコナガ 底部削輪条切り	100	外周7.5YR7/3C2.5褐色
4	土師器	环	12.3	5.9	3.4	内外面クロコナガ 底部削輪条切り	98	外周5YR4/4C1褐色
5	土師器	环	12.5	5.6	3.5	内外面クロコナガ 週辺削輪条切り	80	外周5YR6/6褐色
6	土師器	环	12.1	6	3.6	内外面クロコナガ 底部削輪条切り	80	外周5YR6/6褐色
7	土師器	环	13	6.3	3.7	内外面クロコナガ 底部削輪条切り 平面形状やいびつ	60	外周5YR6/6褐色
8	土師器	环	12.6	5.1	3.6	内外面クロコナガ 底部削輪条切り	60	外周7.5YR8/4浅黃褐色
9	土師器	环	12.1	5.5	3.2	内外面クロコナガ 底部削輪条切り	50	外周5YR6/6褐色
10	土師器	环	13.2	5.4	3.5	内外面クロコナガ 底部削輪条切り 無目地無彩色	100	外周7.5YR7/3C2.5褐色
11	土師器	环	13.1	6.1	3.4	内外面クロコナガ 底部削輪条切り 内面無彩色	70	外周5YR6/6褐色
12	土師器	环	12.4	6	3.7	内外面クロコナガ 底部削輪条切り 内面無彩色	80	外周10YR7/4C1褐色
13	土師器	环	11.6	5	3.3	内外面クロコナガ 底部削輪条切り 前高後低付 内面無文・無色無彩	50	外周7.5YR7/4C1褐色
14	土師器	碗	15.4	6.7	6.7	内外面クロコナガ 底部削輪条切り 前高後低付 内面無文・無色無彩	80	外周10YR8/3浅黃褐色
15	土師器	碗	14.6	8.6	6.8	内外面クロコナガ 底部削輪条切り 前高後低付 内面無色無彩	90	外周7.5YR7/4C1褐色
16	土師器	碗	—	7.9	(3)	内外面削輪条切り 前高後低付 内面無色無彩	底残・高台100	外周5YR7/3褐色
17	土師器	碗	—	6.8	(3.1)	内外面削輪条切り 前高後低付 内面無色無彩	底残・高台100	外周7.5YR7/4C1褐色
18	土師器	碗	—	7.9	(2.5)	内外面削輪条切り 前高後低付 内面無色無彩	底残・高台100	外周7.5YR8/4浅黃褐色

第3表 H-2号住居址遺物観察表(1)

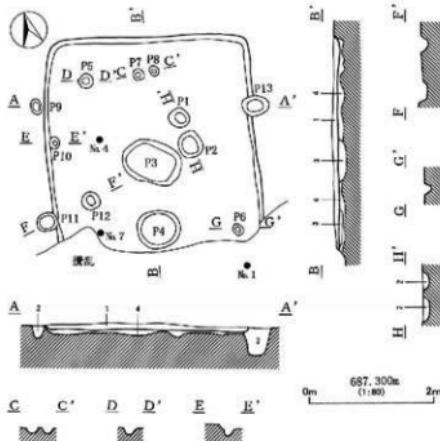
番号	器種	深さ	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	備考
19	土師器	陶	—	8	(2.3)	直腹口縁丸切り後高台付 内面褐文・黒色胎理	底部・高台100	外底7.5YR7/4にS144褐色
20	土師器	陶	—	6.8	(1.9)	直腹口縁丸切り後高台付 内面褐文・黒色胎理	底部・高台100	外底5YR8/6にS144褐色
21	土師器	陶	—	—	—	内外面クロナゲ 外面7位目側面波状文	口縁破片	外底10YR1/1灰褐色
22	須恵器	甕	—	—	—	内外面クロナゲ	口縁破片	外底10YR1/1灰褐色
23	須恵器	甕	—	—	—	内外面クロナゲ・擦摩	口縁破片	内底蓋3.5Y3/3灰褐色
24	火舟陶器	—	—	—	—	内外面クロナゲ	口縁破片	内底蓋NA/0灰白色
番号	器種	深さ	最大径cm	最大幅cm	高さcm	調査・文様	量(克)	備考
25	土製品	窓口	9.4	8.9	3.2	内壁2.5両側先端弧度浅 外面削り・ナガ	8.7	完形品
26	石製品	鰐口	(22.6)	(11.6)	(1.5)	四面7.3、凸幅11.8	(4650)	1/2欠損
27	石製品	すり石	8.7	7.8	6.7	全体に滑らか	633.56	
28	石製品	すり石	5.2	3.7	1.3	全体に滑らか 刷面に無理感	28.4	I区出土
29	石製品	すり石	4.5	3.7	1.2	全体に滑らか 刷面に一感無	28.2	I区出土
30	石製品	すり石	7.7	4.8	1.2	正面に無理感	60.77	P4出土
31	石製品	すり石	2.3	2	0.6	全体に滑らか	3.38	II区出土
32	石製品	墨石	(1.0)	(1.2)	(0.4)	右側欠損 全体に滑らか	(0.62)	IV区出土
33	石製品	墨石	1.6	1.5	0.5	全体に滑らか	2.96	IV区出土
34	石製品	墨石	1.6	1.5	0.7	右側欠損 全体に滑らか	2.49	IV区出土
35	石製品	墨石	1.6	1.5	0.7	全体に滑らか	2.42	IV区出土

第4表 H 2号住居址遺物観察表(2)

H 3号住居址

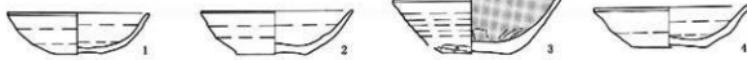
遺構は調査区南のD-あ-7グリッドに位置し、南側の一部は削り取られている。平面形態は残存状態から方形と考えられる。調査規模は南北3.4m、東西3.2m、検出面から床面までの深さは最深部で12cmと浅めである。圃場整備によって、遺構上部の大半が削り取られたと考えられる。床面は硬質で、ピットは大小13個認められた。主柱穴は壁際のP 9・11・13と考えられる。他のピットについては本遺構に伴うか不明である。壁溝、カマドは認められなかった。掘方は全体的に5cm程度の厚みで黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は、土師器の壺・碗・皿・甕、須恵器の壺・甕、石製品を出土したが、土師器が圧倒的に多い。須恵器壺・甕は僅かな破片が認められる程度である。土師器壺の形状は上部からやや押しつぶしたような緩やかな丸みを持つ体部で底辺の小型な物も含まれ、形状にややゆがみが認められる。土師器碗の器厚はやや厚めで、形状にゆがみが認められ、胎土も荒い。高台はやや高めである。時期は、やや足高の土師器碗、小型化した土師器碗が認められないことから、平安時代、10世紀前半としたい。

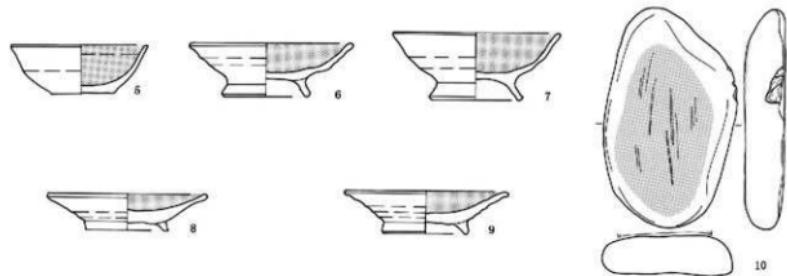


- 1 黒褐色土 (10TR2/2) 炭化物多い。シルバーラッカ含む。
- 2 黑褐色土 (10TR2/2) 炭化物、鐵土含む。
- 3 黑褐色土 (10TR2/2) 炭化物、シルバーラッカ含む。
- 4 黑褐色土 (10TR2/3) 炭化物、シルバーラッカ含む。

第9図 H 3号住居址実測図



第10図 H 3号住居址遺物実測図(1)

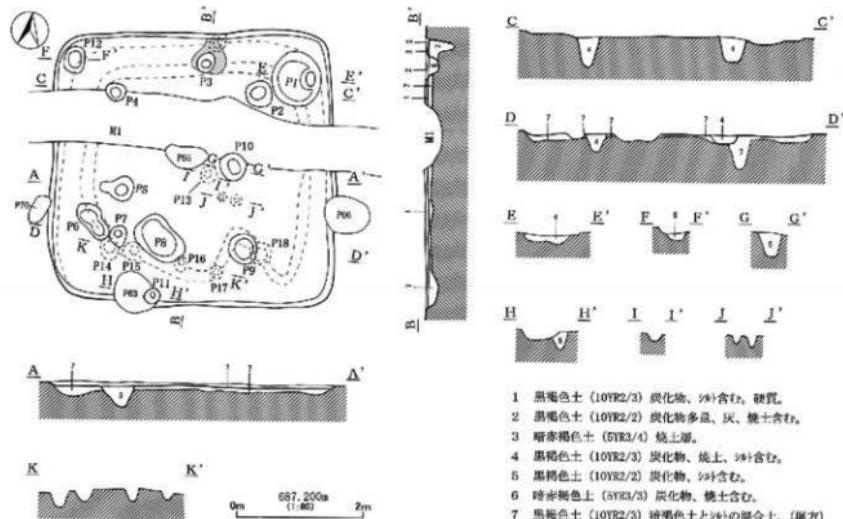


第11図 H 3号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	基部	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	測定・文様		現存率・部位	目録号
						内外面クロナゲ	底面凹輪底切り		
1	土師器	杯	11.4	3.8	3.3			100	外側7.5YR2/6褐色
2	土師器	杯	[12.5]	5.7	3.6			50	外側10YR5/6黄褐色
3	土師器	杯	[13.4]	5.4	4.0	外面クロナゲ 底部凹輪底切り 内面三色墨渦 底部周辺ヘラケズリ		50	外側10YR4/4褐色
4	土師器	水	[12.0]	6	3.2	内面クロナゲ 縦溝凹輪底切り		60	外側7.5YR7/0褐色
5	土師器	杯	11.2	5.2	4	外面クロナゲ 縦溝凹輪底切り 内面黒色墨渦		70	外側10YR6/4に5YR5/0黄褐色
6	土師器	碗	13.3	7.1	4.4	外面クロナゲ 底部高台輪付 内面黒色墨渦		50	外側10YR5/6黃褐色
7	土師器	碗	13.8	7.7	5.5	外面クロナゲ 底部高台輪付 内面黒色墨渦		50	外側5YR4/6明褐色
8	土師器	豆	[13.1]	6.8	3	外面クロナゲ 底部高台輪付 内面黒色墨渦		40	外側7.5Y4/1褐色
9	土師器	豆	[13.0]	6.8	3.6	外面クロナゲ 底部高台輪付 内面黒色墨渦		40	外側10YR6/6褐色
番号	器種	基部	最大径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	測定・文様	重額(g)	備考	
10	石製品	骨石	18	10.8	3.3	正面中央突出部 使用率と思われる	851.69		

第5表 H 3号住居址遺物観察表

H 4号住居址

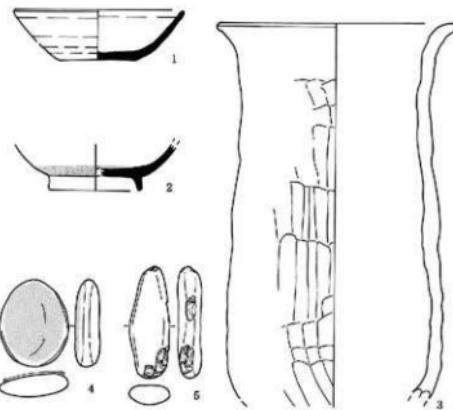


- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、沙利含む。硬質。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物多量、灰、燒土含む。
- 3 喀赤褐色土 (5YR3/4) 烧土層。
- 4 黑褐色土 (10YR2/3) 炭化物、焼土、沙利含む。
- 5 黑褐色土 (10YR2/2) 炭化物、沙利含む。
- 6 喀赤褐色土 (5YR3/3) 炭化物、燒土含む。
- 7 黑褐色土 (10YR2/3) 喀褐色土と沙利の混合土。(塗り)

第12図 H 4号住居址実測図

遺構は調査区南のC-4-6グリッドに位置し、M1に切られる。平面形態は隅丸方形である。規模は南北4.3m、東西4.5m、検出面から床面までの深さは最深部で5cmと浅い。圃場整備によって、遺構上部の大半が削り取られたと考えられる。床面は硬質で、ピットは掘方を含め大小18個確認できた。主柱穴はP2・4・7・9である。北東コーナーのP1は貯蔵穴である。北壁中央に焼土の堆積が認められることから、カマドの火床部分と考えられる。袖等の構築物は完全に破壊され残存していなかった。掘方は中央部分に比べ壁際1m内外の範囲が一段深く掘り下げられたドーナツ状を呈している。

遺物は土師器の壺・碗・甕・須恵器の壺・甕、灰釉陶器碗、石器が出土している。土師器の長胴甕は混入品である可能性がある。須恵器壺は底部回転糸切り後無調整で、胎土はやや荒い。灰釉陶器は漬け掛けの碗で、高台の内側はやや直線的である。虎渓山1号窯跡様式に類似する。時期は、高台部内側が直線的な灰釉陶器碗の存在から、10世紀後半以降としたいが、形状の残るやや雑な作りの須恵器壺が含まれることから、9世紀後葉から10世紀代と幅を持たせたい。

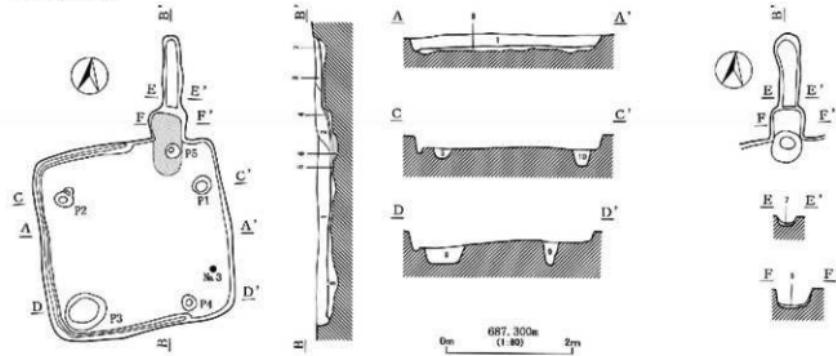


第13図 H4号住居址遺物実測図

番号	種類	断面	口径cm	底径cm	腹高cm	調査・文様	保存率・部位	備考
1	須恵器	壺	[13.8]	6.2	4.1	内外面クロナザ 直部羽状糸切り	80	外周2.5YR7/1灰白色
2	灰釉陶器	甕	—	[7.4]	3.0	ロクロナザ 灰釉羽状糸切り後高台附行 漬け掛け	40	外周10YR7/1灰白色
3	土師器	甕	[19.4]	—	[30.8]	口縁横ナザ 外面輪ヘラケツリ 内面ナザ	口唇～底部断片	外周5YR4/3にぼい赤褐色
4	滑石	滑石	最大径6.0	最大径2.0	是大原(6)	調査・文様	重(6)	備考
5	石器	滑石	7.1	5.5	2	正電子リボン	91.99	
			9.1	3.2	1.7	上下端部・侧面に斬痕有	62.01	

第6表 H4号住居址遺物観察表

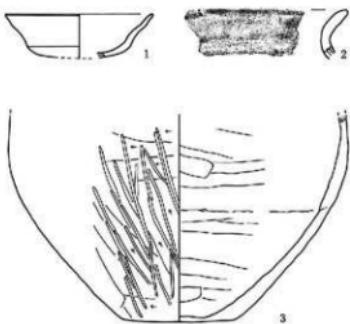
H5号住居址



第14図 H5号住居址実測図

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、シロアリ含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物や多い。焼土含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、焼土含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化層。
- 5 暗赤褐色土 (2.5YR3/1) 炭化物、灰層。
- 6 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 焼土層。
- 7 暗赤褐色土 (10R3/4) 地山焼土化。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色土とシロアリの混合土。
- 9 黑褐色土 (10YR2/3) 炭化物含む。
- 10 黑褐色土 (10YR2/3) 炭化物、焼土含む。

遺構は調査区のほぼ中央D-1-3グリッドに位置する。平面形態は方形である。規模は南北3.0m、東西3.0m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。床面は硬質で、住居址の東側3分の1以外は壁際に溝が掘り込まれている。ピットは床面上では確認できなかったが、掘方で主柱穴と思われるP1-P4が確認できた。P3は主柱穴及び貯蔵穴をかねていた可能性がある。カマドは北壁の東寄りに位置する。住居址内への袖は確認できず、壁外への掘り込みと1.1mを越える長さの煙道及び火床が残存していた。火床には厚さ8cmの焼土が堆積していた。掘方は全体に5~10cm程度の厚みがあり、暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は上師器の壺・甕が出土した。体部に明瞭な稜を伴う壺、厚手の甕の存在から古墳時代後期、6世紀としたい。

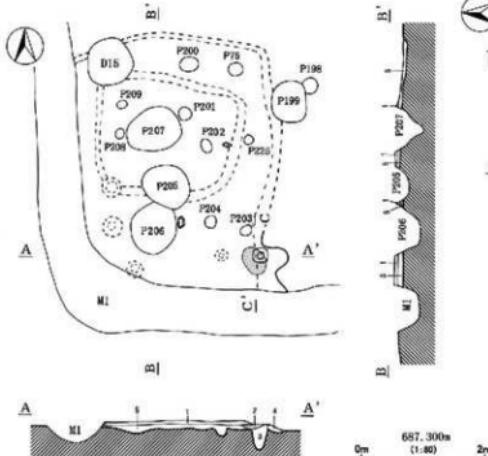


第15図 H5号住居址遺物実測図

番号	遺構種類	遺構名	口径cm	底径cm	底高cm	測定・式		現存率・部位	備考
						□鉛錠ナメ	遺構から体部へラケツリ		
1	土師器	壺	(12)	丸壺	(3.6)	□鉛錠ナメ	遺構から体部へラケツリ	口端~一部断片	内外面7.5YR6.0/8褐色
2	土師器	甕	-	-	-	□鉛錠ナメ	-	口端断片	内外面7.5YR3.0/8褐色
3	土師器	甕	-	8.2	(17)	外面部へラケツリ	底面	底部~断部破片	外表面7.5YR7.4/4に近い褐色

第7表 H5号住居址遺物実測表

H6号住居址



第16図 H6号住居址構造・遺物実測図

- 1 増褐色土 (10YR3/3) 炭化物、焼土、シロアリ含む。
- 2 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土層。
- 3 黒褐色土 (SYR2/1) 炭化物、灰層。
- 4 暗褐色褐色土 (SYR2/3) 焼土層、シロアリ含む。
- 5 黑褐色土 (10YR2/1) 炭化物、焼土含む。

遺構は調査区南のC-1-5グリッドに位置し、M1に切られる。検出段階で、床面が露出し、部分的に掘方状態になっていた。正確な平面形態は不明である。規模は掘方の掘り込みが確認できた範囲で南北4.8m、東西3.3mを測る。本住居址に確實に伴うと断定できるピットは確認できなかった。遺構の南東隅に円形の焼土の堆積が確認できたことから、カマドが存在していたと思われる。

遺物は土器器の壺・甕・羽釜、須恵器の壺・甕が出土したがいずれも小破片である。図示できた土器は羽釜の口縁部破片の1点で、やや作りは荒く、低い鈍が全周するタイプと思われる。時期は、カマドが住居址の南東に構築されていたと考えられること、土器器の羽釜が認められ、僅かだが須恵器壺が認められることから平安時代、10世紀としたい。

番号	器種	形	口径cm	底径cm	深さcm	調査・文	残存寸・部位	施考
1	土師器	羽釜	—	—	—	外縁ヘラケズリ 内面ナヂ	鷹取村 縄文瓦片	外田2.5YR5/6赤褐色
2	石器	斧	最大幅(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調査・文	全幅(cm)	施考
			8.1	7.5	6.8	合併により・全幅あり	470.87	

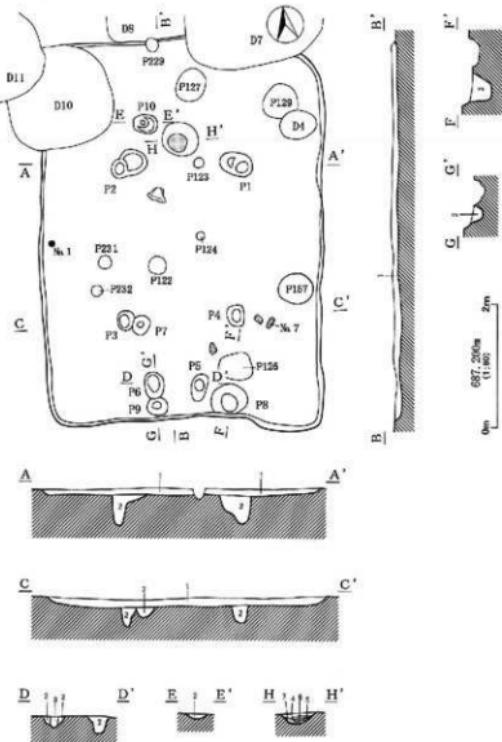
第8表 H 6号住居址遺物観察表

H 7号住居址

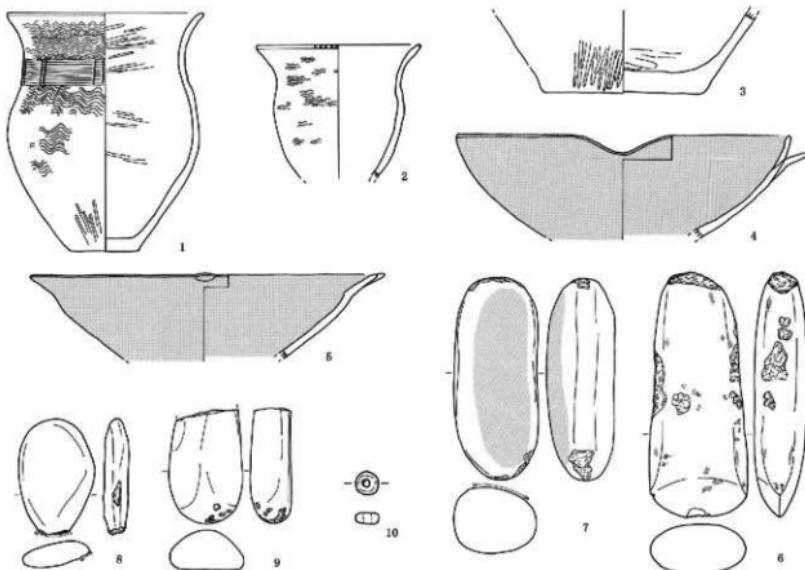
遺構は調査区南のD-1-5グリッドに位置し、D4・7・8・10、小ピットに切られる。平面形態はやや隅丸の南北方向に長い長方形である。規模は南北6.2m、東西4.5m、検出面から床面までの深さは最深部で10cmと浅い。遺構上部の大半は圃場整備によって削り取られたと考えられる。床面は全体的に土間状を呈し、硬質である。ピットは大小9個確認できた。P1~4は主柱穴で、P5~6は入り口部、P8は貯蔵穴と思われる。壁際の溝は確認できなかった。炉はP1~2の中間からやや北に寄った位置に存在し、円形に約15cm程度掘り窪めた地床炉である。炉内の壁面は熱によって硬化していた。また、円形の焼け込みが住居址中央付近に1箇所存在した。土間状の硬質化した床面直下は地山となり、掘方状の明瞭な掘り込みは存在しなかった。

遺物は、弥生土器の甕・壺・高杯・鉢、石器、ガラス製品が出土した。時期は赤色塗彩された高杯の存在から弥生時代後期、箱清水期としたい。

- 1 斑鳩色土 (10YR3/3) 炭化物、タケノコ含む。
- 2 黒鳩色土 (7.5YR2/2) 炭化物、差土粒、タケノコ含む。
- 3 黒鳩色土 (7.5YR3/3) タケノコ含む。
- 4 桐原鳩色土 (7.5YR2/3) 炭化物、熱土含む。
- 5 黑鳩色土 (10YR2/2) 炭化物。
- 6 赤鳩色土 (2.5YR4/6) 焼土層。(例)
- 7 喧赤鳩色土 (2.5YR3/4) 焼土層。(例)



第17図 H 7号住居址実測図



第18図 H7号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	調査・文様			残存率・部位	備考
			口径cm	底径cm	高さcm		
1	弥生土器	甕	16	5.6	19.8	骨口付・縦・横斜溝状文 内面斜溝状文 外曲面下部横溝文	90 外周7.5YR7/4/赤い褐色
2	弥生土器	甕	[13.2]	—	(11)	外曲面波状文 口部斜溝文 内曲ナギ 表面擦耗	口部~側面斜片 外周7.5YR6/4/赤い褐色
3	弥生土器	甕	—	13	(6.8)	内曲波状ナギ 内面ナギ	底部100 外周7.5YR7/6赤色
4	弥生土器	片口鉢	[27.2]	—	(9.5)	内外面赤色彩	40 内外面10R3/6赤色
5	弥生土器	壺	[24.2]	—	(6.9)	内外面赤色彩	环带状片 内外面7.5R4/6赤色
sondage							
6	石器	磨製石斧	20	7.9	4.3	基部・側面に錐打痕 刀削使用痕	1102.78 検出
7	石器	すり・研石	16.5	7	5.4	上下端部に錐打痕 表面すり痕	998.05
8	石器	敲打石	9.4	6.2	1.9	下部に錐打痕	145.2 IV區出土
9	石器	敲打石	9.2	6	3.3	下部に錐打痕 先端局部打痕	289.27 II區出土
10	ガラス製品	ガラス小玉	0.5	0.45	0.25	口径0.15	0.64 II區出土

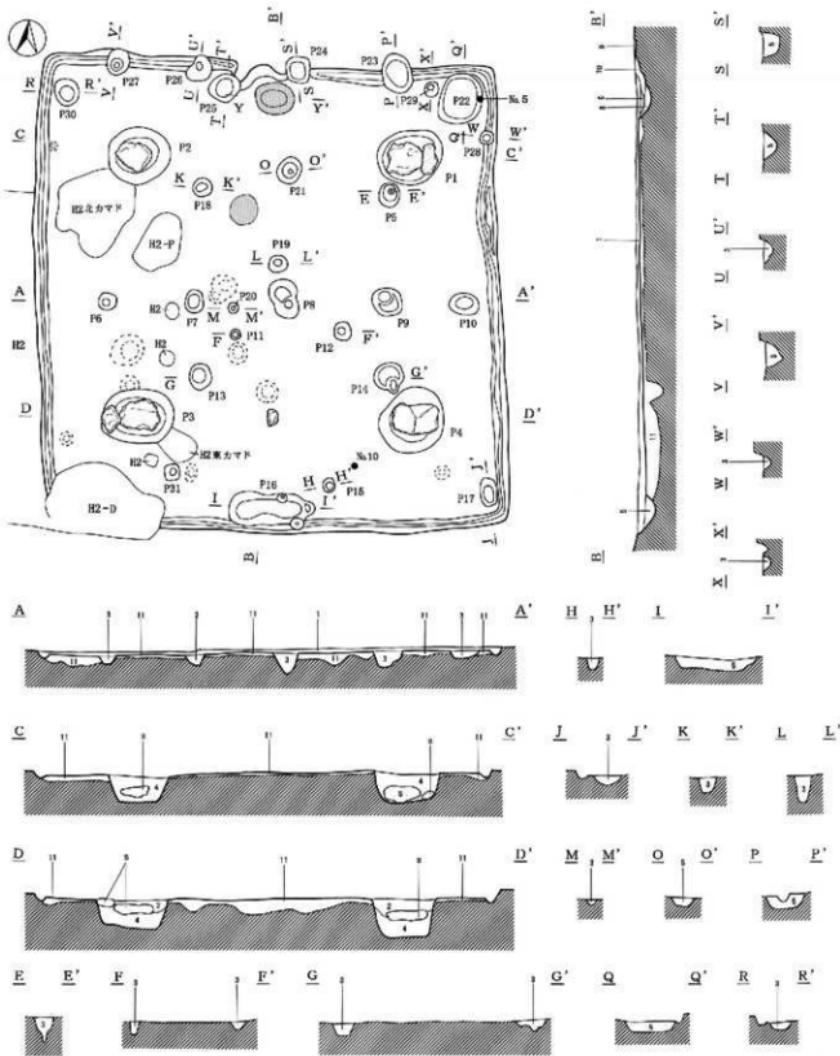
第19表 H7号住居址遺物観察表

H8号住居址

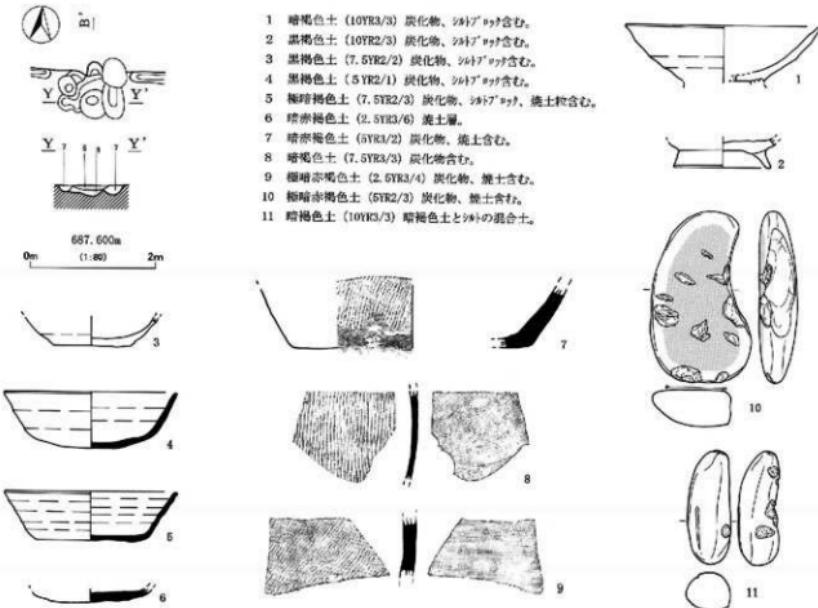
遺構はC-C-3グリッドに位置し、H2に切られる。平面形態は方形である。規模は南北7.4m、東西7.4m、検出面から床面までの深さは最深部で10cmを測る。遺構上部の大半は圃場整備によって削り取られたと考えられる。床面は全体的に土間状を呈し、硬質である。壁際には溝が巡らされている。ピットは大小30個が確認できた。P1～4が主柱穴で、ピット内に礎石状の石が埋め込まれていた。カマドは北壁中央に構築されているが、大半が破壊され、僅かな袖の張り出しと火床のみ残存していた。火床には径60cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。掘方は、北側3分の2で5～10cmと比較的浅く、南側3分の1は10～20cmと、やや深く掘り込まれていた。

遺物は土師器の杯・碗・甕、須恵器の杯・甕が出土したが破片が多く、形態の残る物は少ない。須恵器甕は底部全面にヘラケズリを施している。土師器は高台の付いた土師器甕で前者と時期が異なると考えられる。時期は底部全体にヘラケズリを施す須恵器甕の存在、10世紀と考えられるH2に切ら

れていることから、奈良時代、7世紀代としたい。土師器碗については、H2の混入品である可能性が考えられる。



第19図 H8号住居址実測図



第20図 H 8号住居址構造・遺物実測図

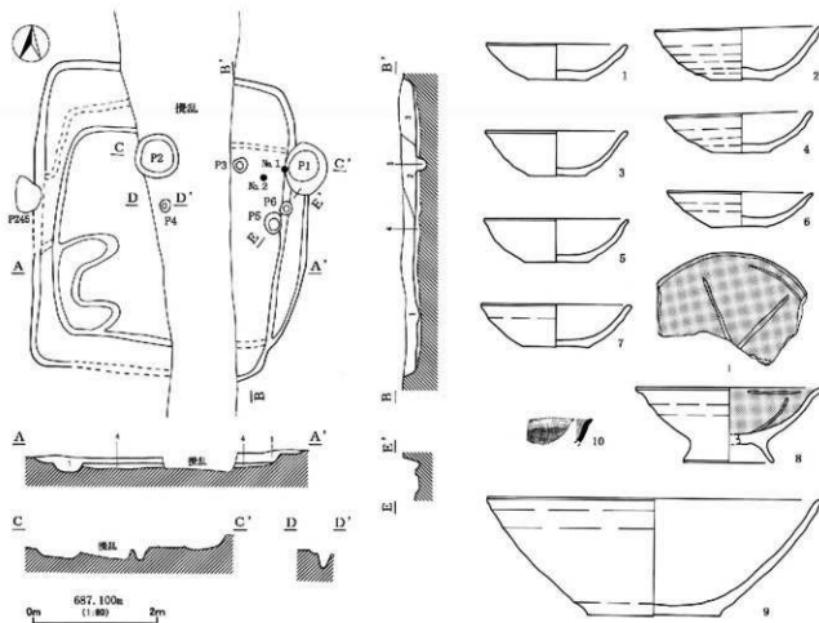
番号	形 種	断 形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	西 垂 文 種	残存部・部位	量 方	
								内面	外面
1	土師器	壺	[16]	[6.6]	(4.5)	内外面クロナデ 幅面深欠溝	20	外側7.5YR8/3にぶつ褐色	
2	土師器	壺	—	8	(2.5)	底面部斜面切下後高台付	底面溝100	外側7.5YR8/3浅黄褐色	
3	土師器	坪	—	6.3	(2.3)	内外面クロナデ 底部凹面角切り	底部~体部斜片	外側7.5YR8/6褐色	
4	陶器器	坪	14.1	丸底	4.5	内外面クロナデ 底部ヘラグリズ	60	外側N5/0灰色	
5	陶器器	坪	14	8.0	4	内外面クロナデ 底部斜面ヘラ切り	40	内外側BT7/1灰白色	
6	陶器器	坪	—	6.5	(1.1)	底部斜面ヘラ切り	底部80	内側BT7/1灰白色	
7	陶器器	甕	—	[19]	(5)	外表面圓形引き 内面ハゲ目	底部~側部斜片	外側N7/1深灰色	
8	陶器器	甕	—	—	—	外表面圓形引き 内面ハゲ目	側部斜片	外側N5/0灰色	
9	陶器器	甕	—	—	—	外表面平行窓 内面ハゲ目	側部斜片	外側N4/0灰色	
番号 様 種 断 形 最大幅(cm) 最大幅(cm) 最大厚(cm)								量 方	
10	石器	すり石	14.1	8.3	3.1	正面直面状の使用痕	底面(g)	量 方	
11	石器	すり石	9.4	3.5	3.1	正面直面状の使用痕	393.3	量 方	
						正面直面状の使用痕	131.05	量 方	

第10表 H 8号住居址遺物観察表

H 9号住居址

遺構はD-う-5グリッドに位置し、中央部分を南北方向に大きく破壊されている。調査の結果、平面形態が南北方向に長い、規模が南北4.8m、東西3.9m、検出面から床面までと考えられる深さ30cmの長方形の掘り込みと、ほぼ方形で規模が南北3.8m、東西3.9m、検出面から床面までと考えられる高さが20cmを測る掘り込みの2棟分と考えられる状態となった。正確な新旧関係は断定できない。ともにカマド、主柱穴は確認できなかった。

遺物は土師器の壺・碗・鉢、縁釉陶器が出土した。土師器鉢、縁釉陶器は破片である。出土の特徴として東壁中央からやや北に寄った付近で、形状の整った土器が多く出土した。時期は足高の土師器碗、小型化した土師器壺・碗が認められないことから10世紀前半とした。



1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、シロ含む。

2 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、焼土粒、シロ含む。

3 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、シロ、暗褐色土の混合土。

4 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物、シロ、暗褐色土の混合土。

5 暗褐色土 (7.5YR3/2) 炭化物、シロ含む。

第21図 H9号住居址造構・遺物実測図

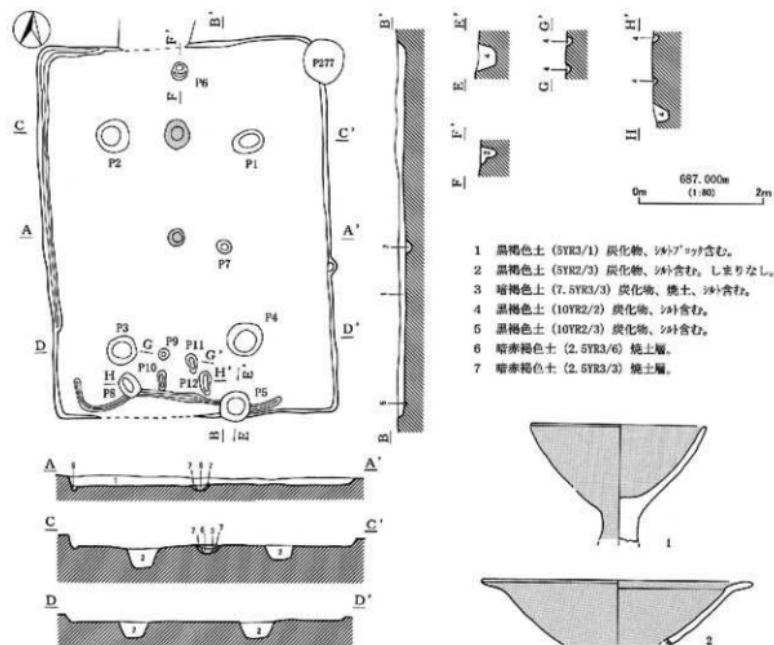
番号	地 域	標 高	口 直 cm	底径 cm	深 度 cm	四 極 文 標	検査番/部位	調 方
1	土師器	坪	11.4	4.6	2.9	内外面クロナデ 底部凹凸有り	100	外表面SYR6/6灰色
2	土師器	坪	13.8	4.9	4.6	内外面クロナデ 底部凹凸有り	95	外表面YR6/3にA5の埋色
3	土師器	坪	[11.5]	4.5	3.8	内外面クロナデ 底部凹凸有り 内底一部茶色	50	外表面7.5YR6/2灰白色
4	土師器	坪	12.1	4.6	3.4	内外面クロナデ 底部凹凸有り	70	外表面7.5YR6/6銀色
5	土師器	坪	[11.7]	5.2	3.5	内外面クロナデ 底部凹凸有り	50	外表面7.5YR6/6銀色
6	土師器	坪	12	5	3	内外面クロナデ 底部凹凸有り	50	外表面7.5YR7/6銀色
7	土師器	35	[12.2]	6.2	3.5	内外面クロナデ 底部凹凸有り	40	外表面7.5YR8/1灰白色
8	土師器	35	[15.4]	[7.4]	6.2	内外面クロナデ 底部凹凸有り後部側面切欠き内底端文・認読困難	40	外表面10YR8/4浅黄褐色
9	土師器	35	[27.2]	[10.8]	[9.6]	内外面クロナデ 底部ハラケズリ	30	外表面7.5YR6/4CにA5銀色
10	無縫陶器	35	-	-	-	口縁部断面が瓦灰 内底粗麻織	口縁破片	外表面10Y5/2オリーブ灰色

第11表 II 9号住居址遺物観察表

H10号住居址

造構はD-き-6グリッドに位置する。平面形態は南北方向に長い長方形である。規模は南北6.0m、東西4.5mを測り、検出面から床面までの深さは最深部で15cmと全体的に浅い。上部の大半は、圃場整備によって削り取られたと考えられる。床面は全体に土間状を呈し硬質である。西壁から北壁に壁溝が認められる。ピットは大小12個確認でき、P 1～4が主柱穴、P 9～12は入り口部、P 6は棟持に関すると考えられる。炉はP 1・2の間に存在し、円形の地面を15cm程度掘り窪めた地床炉である。炉の壁面は熱によって硬化していた。また、中央にやや小型の地床炉が存在した。床面直下の状況は、

土間状の硬質面直下が地山となり、掘方状の明瞭な掘り込みは確認できなかった。
遺物は弥生土器の高坏・甕・壺が出土した。時期は弥生時代後期、箱清水期としたい。

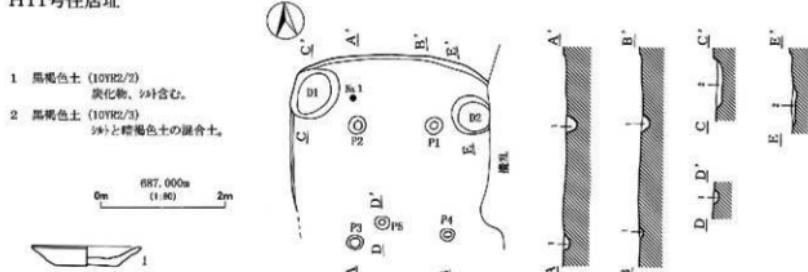


第22図 H10号住居址構造・遺物実測図

番号	断面	断面形	口幅cm	底幅cm	壁高cm	内面	外面	窓	窓
1	弥生上部	高坏	[142]	—	(9.6)	内外墨赤色地部 ミガキ 裏面摩耗	窓部50	外縁5YR6/4C, 5YR5/1褐色	
2	弥生上部	高坏	[22]	—	(5.3)	内外墨赤色地部 ミガキ 裏面摩耗	窓部50	外縁2.5YR6/3C, 5YR8/3E褐色	

第12表 H10号住居址遺物観察表

H11号住居址



第23図 H11号住居址構造・遺物実測図

遺構はD-か-4グリッドに位置する。遺構の上部は圃場整備によって大半が削り取られ、確認できたのは北壁及び西壁の一部である。調査規模は南北3.2m、東西3.2m、検出面から床面までの深さは最深で8cmを測る。カマドの痕跡は認められなかった。実際に存在していたかは断定できないが、東側が大きく搅乱に破壊されていることから、東壁に構築されていたとも考えられる。

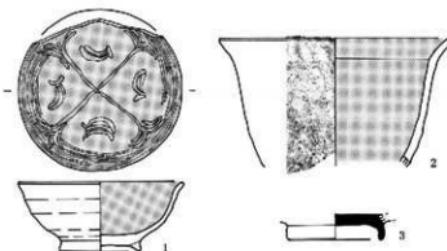
遺物は土師器・灰釉陶器が出土したが、国示した土師質の小皿1点を除き小破片で数も少ない。時期は平安時代としたい。

番号	形種	直形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	発考
1	土師碗	直	9	5	1.6	内外表面ナメ 底部凹凸あり	100	外周10YR7/6青褐色

第13表 H11号住居址遺物観察表

H12号住居址

遺構はD-く-4グリッドに位置する。遺構の大半は削り取られた状態で、確認できたのは東壁の周辺部のみである。調査規模は南北3.1m、東西1.5m、検出面から床面までの深さは最深で10cmを測る。東側で硬質面が残存していた。床面上で貯蔵穴状の土坑が2ヵ所に存在した。カマドは東壁に構築されており、壁外へ張り出した火床部と焼土の堆積が残存していた。遺物は土師器の壺・碗・甕・鉢・灰釉陶器が出土したが、大半は小破片である。図に示したのは3点で、1の土師器碗内面には特徴的な文様が暗文で描かれていた。三日月状の高台を持つ灰釉陶器の存在から10世紀、平安時代としたい。



第24図 H12号住居址遺構・遺物実測図

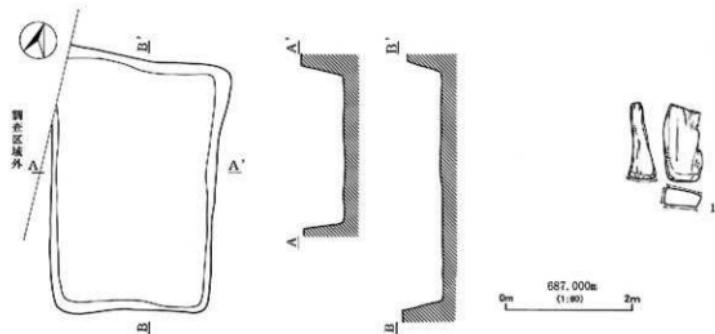
番号	形種	直形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	発考
1	土師碗	直	13.4	6.6	5.7	外側クロマチ、底強化部あり表面凹凸付け 内面ヘラミガサ	80	外周10YR7/4にびい青褐色
2	土師鉢	鉢	[19]	—	(10.0)	口縁部クロマチテジ 国造ハラクセリ 内面黒色透達	口縁~裏部裏片	外周10YR5/6 青褐色
3	灰釉陶器	甕	—	8	(2.1)	底面凹凸あり表面凹凸付け 萩石内側やや内凹	底面-高さ40	外周7.5Y7/1 淡白色

第14表 H12号住居址遺物観察表

H13号住居址

遺構はD-け-3グリッドに位置する。遺構は2分割した南区と北区の調査区域に位置することから、2回に分けて調査を行った。平面形態は南北方向に長い長方形である。規模は南北3.8m、東西2.5m、検出面から床面までの深さは70cmを測る。カマド・ピットは確認できなかった。調査状況から堅穴状遺構である可能性がある。

遺物は土師器・須恵器、砥石が出土したが、いずれも小破片で数も少ない。時期を決定づける遺物が認められないことから不明としたい。

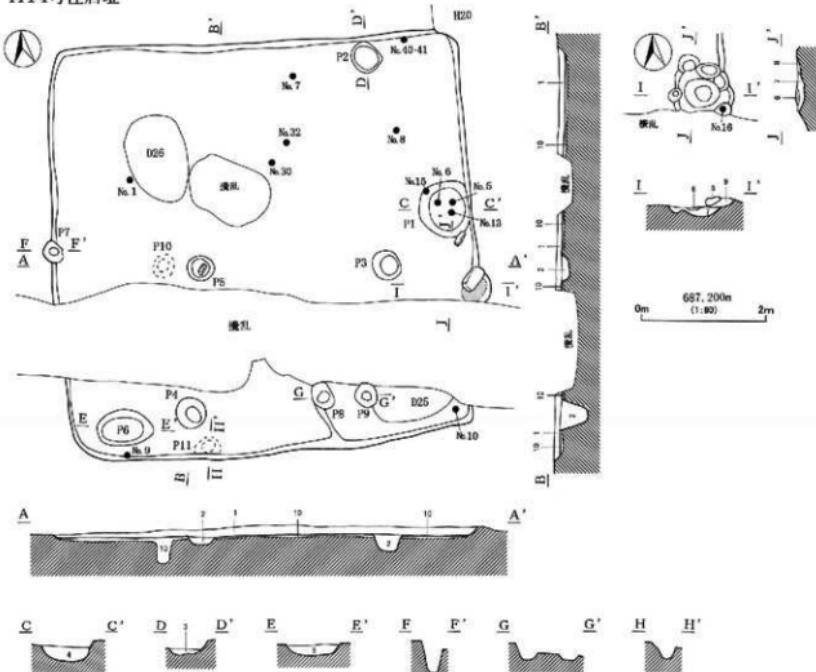


第25図 H13号住居址造構・遺物実測図

番号	種類	形・形	最大径(cm)	最大幅(cm)	高さ(cm)	調査・文	重さ(g)	備考
1	石器類	塊石	(6.3)	(3.3)	(2.0)	上部～堅板火櫛 堅板火櫛4 4面垂直5.0	(39.64)	

第15表 H13号住居址遺物観察表

H14号住居址

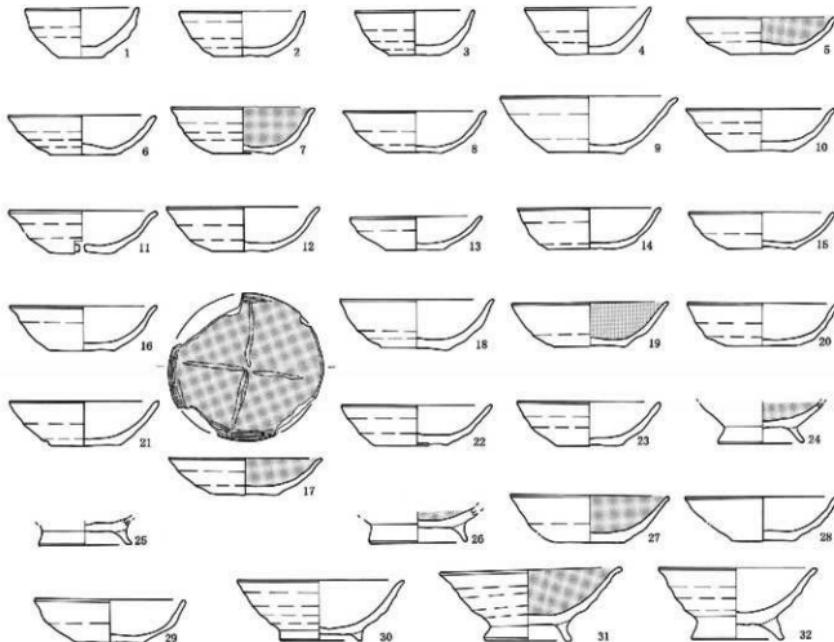


第26図 H14号住居址実測図

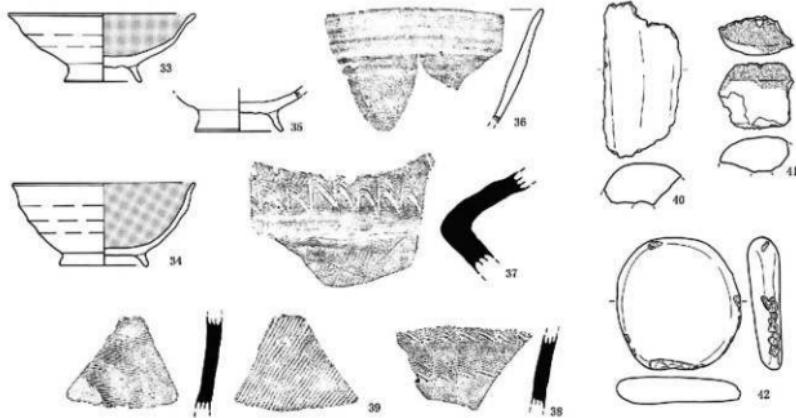
- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、シメ含む。 | 6 明赤褐色土 (SYR5/8) 焼土層。 |
| 2 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物含む。 | 7 赤褐色土 (SYR4/8) 焼土層。 |
| 3 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、シメ含む。 | 8 黒褐色土 (SYR2/2) 焼土、炭化物含む。 |
| 4 暗褐色土 (10YR2/2) 炭化物、焼土、シメ含む。 | 9 黒褐色土 (7.5YR2/2) 焼土アラク、炭化物、灰含む。 |
| 5 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土、炭化物含む。 | 10 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物含む。(裏方) |

遺構は△—きー9グリッドに位置し、H15を切る。南側の一部は溝状の擾乱に破壊されている。平面形態は方形である。床面は土間状の硬質面を持ち、ピットは11個確認できたが主柱穴と断定できる物は認められなかった。P1・7の覆土内及び床面上から形状の残る土器が多数出土した。カマドは東壁の南寄りに構築され、南側の一部は擾乱に破壊されている。確認できたのは北袖の一部と焼土の堆積した火床である。掘方は薄く、厚さ5cm内外を測り、全体的に硬質である。

遺物は土師器の杯・碗・甕・鉢、須恵器の杯・甕、灰釉陶器の碗、形態不明鉄製品、羽口、石器が出土している。特に土師器杯・碗については形状の残る物が多数出土している。土師器杯は口径9~10cmの小型品、底径が小型で、体部がやや上から押しつぶしたような状態の立ち上がりを見せるものが認められる。碗は器厚がやや厚めで薄いものがあり、厚手のものには足高の高台が認められる。須恵器は甕の破片と、杯の破片が僅かに出土した。時期は、須恵器が破片のみで僅かであること、高台が足高の土師器碗及び小型化した土師器碗が多数含まれることから10世紀後半としたい。ただ、本遺跡と切り合い関係にあるH15の床面との比高差が5cm程度と僅かであることから、お互いの出土遺物に混入品が含まれている可能性にも注意したい。



第27図 H14号住居址遺物実測図(1)



第28図 H14号住居址遺物実測図(2)

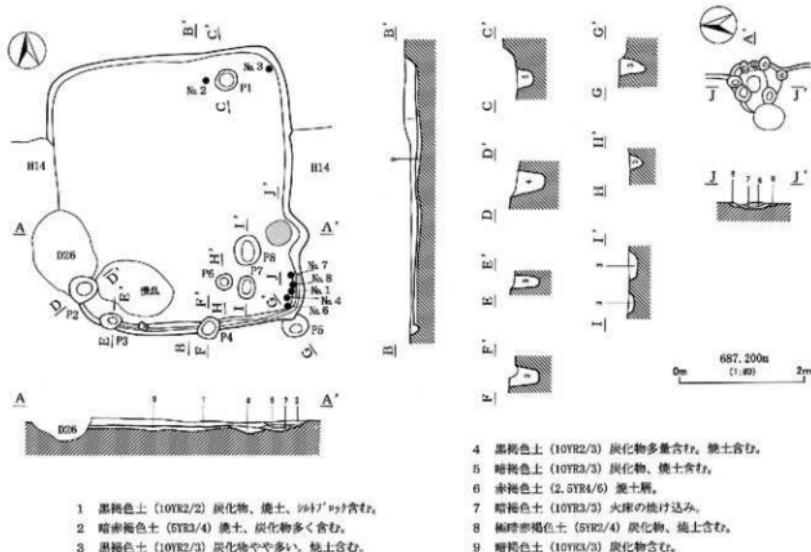
番号	器形	基部	口径cm	底径cm	高さcm	四、五、文、移		保存状況	備考
						内面	外面		
1	土師器	环	9.2	3.6	4	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	85	外壁7.5YR7/3/3の褐色
2	土師器	环	10.3	4.3	3.8	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	82	外壁7.5YR7/6褐色
3	土師器	环	[9.6]	4.2	3.7	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	40	外壁7.5YR7/1褐色
4	土師器	环	[10.4]	5	3.8	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	40	外壁7.5YR7/4C/3-4褐色
5	土師器	环	12	5	3	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	100	外壁7.5YR8/4/3の褐色
6	土師器	环	12	5.2	3.2	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	100	外壁7.0YR7/4/3-5の褐色
7	土師器	环	11.8	4.6	3.2	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 内面黒色透溝	100	内面7.5YR6/4/3の褐色
8	土師器	环	11.5	4.3	3.4	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	100	外壁7.5YR5/2/8褐色
9	土師器	环	14.6	6.2	4.8	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	89	外壁7.5YR7/3C/3-4褐色
10	土師器	环	11.9	5	3.4	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	99	内面7.5YR8/4/3の褐色
11	土師器	环	[12.1]	5.3	3.4	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 底部中央径4mmの穿孔	69	外壁7.5YR7/4C/3-4褐色
12	土師器	环	[12.0]	4.6	3.5	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	69	外壁7.5YR7/4C/3-4褐色
13	土師器	环	10.6	4.2	2.7	内外面クロコナデ	底面部斜め切り +ハケ目	69	外壁7.5YR7/4C/3-4褐色
14	土師器	环	[11.7]	5.3	3.3	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	69	外壁7.5YR8/4/3の褐色
15	土師器	环	10.8	5.2	3	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	100	外壁7.5YR7/6褐色
16	土師器	环	[11.9]	5.2	3.6	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	70	外壁7.5YR7/4C/3-4褐色
17	土師器	环	12.6	5.5	3	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 内面黒色透溝 文	89	外壁7.5YR7/6褐色
18	土師器	环	12.4	5.3	4	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	99	外壁7.5YR7/4C/3-4褐色
19	土師器	环	12.9	5.7	3.6	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 内面黒色透溝	89	外壁7.5YR8/4C/3-4褐色
20	土師器	环	12	5	3.5	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	85	内面7.5YR6/3褐色
21	土師器	环	12.1	5.9	3.6	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	85	外壁7.5YR7/4/3-5の褐色
22	土師器	环	12.1	5.9	3.3	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	95	外壁7.5YR8/4C/3-4褐色
23	土師器	环	11.8	5.4	3.6	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	99	外壁7.5YR8/3/3の褐色
24	土師器	瓶	-	6.9	[3.3]	底面部斜め切り 壁面凹凸付け 内面黒色透溝	底台直径130~140mm	外壁7.5YR7/4/3-5の褐色	
25	土師器	瓶	-	7.5	[2.2]	底面部斜め切り 壁面凹凸付け 内面一概黒色	底台直径130~140mm	外壁7.5YR7/4/3-5の褐色	
26	土師器	瓶	-	7.9	[2.8]	底面部斜め切り 壁面凹凸付け 内面黒色透溝	底台直径130~140mm	外壁7.5YR7/4/3-5の褐色	
27	土師器	环	[12.5]	6	3.9	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 内面黒色透溝	59	外壁7.5YR8/3/3の褐色
28	土師器	环	[12.3]	5	3.6	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 内面一概黒色	59	外壁7.5YR7/3C/3-4褐色
29	土師器	环	12.1	5.4	3.5	内外面クロコナデ	底面部斜め切り	89	外壁7.5YR7/4/3-5の褐色
30	土師器	瓶	13.6	6.8	5	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 壁面凹凸付け 内面黒色透溝	95	外壁7.5YR7/6褐色
31	土師器	瓶	14.9	7.1	6	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 壁面凹凸付け 内面黒色透溝	89	外壁7.5YR6/3褐色
32	土師器	瓶	12.7	7.4	5.9	内外面クロコナデ	底面部斜め切り 壁面凹凸付け	89	外壁7.5YR5/3C/3-4褐色

第16表 H14号住居址遺物観察表(1)

番号	目 標	形 状	口徑cm	底径cm	高さcm	測 定・文 件		残存率・部位	備 考
						内面	外面		
33	土師器	壺	15.1	6.2	5.6	内外面クロナガ	直側斜板条切り後高台貼り付け 内面黑色處理	70	外面7.5YR6/4C灰い褐色
34	土師器	壺	15	7.2	6.7	内外面クロナガ	直側斜板条切り後高台貼り付け 内面黑色處理	70	外面7.5YR7/3C灰い褐色
35	土師器	壺	—	7.1	6.4	内外面クロナガ	底側斜板条切り後高台貼り付け	高台～全体	外面7.5YR6/4C灰い褐色
36	土師器	壺	—	—	—	口縁クロナガ	押拂ヘラタグリ	口縁吹片	外面7.5YR7/6C灰い褐色
37	陶器壺	壺	—	—	—	表面外側粗粒状文	背高前突き 内面ナデ	刷毛吹片	内面N4/0灰色
38	陶器壺	壺	—	—	—	外壁邵浦波状文	内面ナデ	刷毛吹片	外因532/1青黑色
39	陶器壺	壺	—	—	—	外面平行凹線	内面ハケ目	刷毛吹片	内面N5/0灰色
40	土質壺	羽口	外徑2.5	内径2.2	3.3	—	—	—	—
41	土質壺	羽口	外徑8	内径2.2	2.9	周辺欠損	上部破壊還元	—	—
42	右側	壺石	10.8	10	2.7	種姓に偏在	—	348.18	—
番号	目 標	形 状	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	測 定・文 件	測 定・文 件	重さ(g)	備 考
40	土質壺	羽口	外徑2.5	内径2.2	3.3	周辺欠損	—	—	—
41	土質壺	羽口	外徑8	内径2.2	2.9	周辺欠損	上部破壊還元	—	—
42	右側	壺石	10.8	10	2.7	種姓に偏在	—	348.18	—

第17表 H14号住居址遺物観察表(2)

H15号住居址

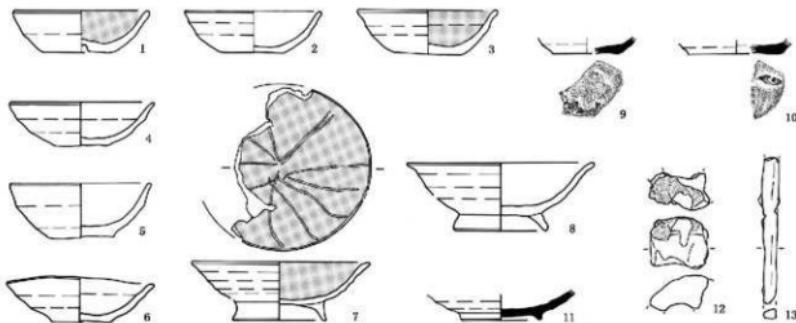


第29図 H15号住居址実測図

造構はA-き-8グリッドに位置し、H14に切られ、南側3分の2の上部は削り取られている。平面形態は南北方向にやや長い、隅丸の長方形である。規模は南北4.3m、東西3.7m、検出面から床面までの深さは北壁の最深部で20cmを測る。床面は土間状の硬質面を持ち、ピットは壁際部分も含め8個確認できたが、主柱穴と断定できるものは認められなかった。南壁際と東壁の一部に溝が存在し、南東コーナー付近の床上から形状の良好な土師器壺・碗がまとまって数個体出土した。カマドは東壁の南寄りに位置し、壁外への張り出しと、火床が残存していた。火床には径40cm、厚さ5cmの焼土が堆積していた。掘方は厚さ5cm内外と薄く、全体的に硬質であった。

遺物は、土師器の壺・碗、須恵器壺・甕、灰釉陶器の碗又は皿、羽口、鉄製品が出土した。土師器壺は径11~11.5cmを測り、器厚はやや厚めで、形状は整っており、作りが丁寧なものと、形状が楕円状にややゆがんだ比較的難な作りのものが存在する。碗は口縁端部が外反し、高台部は厚めである。

須恵器壺は破片が大半で、底部と口縁部が存在する。灰釉陶器は底部が残存した皿と思われ、高台は厚くつぶれたように低い形状で、丸石2号窯跡に類似する。時期は灰釉陶器から考えると10世紀後半以降としたいが、出土位置が、10世紀後半としたH14に上部を破壊された地域であることから、灰釉陶器については混入遺物である可能性が高い。他の遺物についても混入遺物の可能性があることに注意したい。本住居址には小型化した土師器壺・碗が認められること、僅かだが須恵器壺が認められることなどからH14よりやや古い10世紀前半としたい。



第30図 H15号住居址遺物実測図

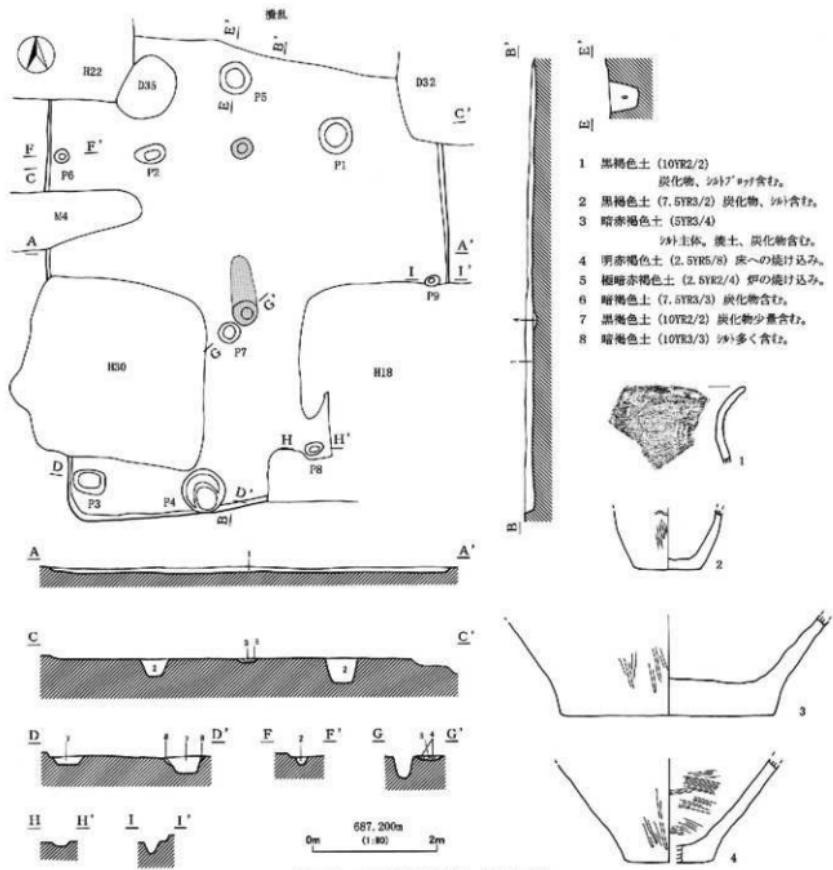
番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	調査・文様	現存率・落度	備考
1	土師器	壺	11	6	3	内外面クロナガ	底部凹輪条切り 内面無色焼 武器中央突起	100 外面7.5YR7/3に5分1灰色
2	土師器	壺	11.2	4.9	3.5	内外面クロナガ	底部凹輪条切り 口付彫刻付	90 外面10YR3/1黒褐色
3	土師器	壺	11.4	5.5	3.6	内外面クロナガ	底部凹輪条切り 内面無色焼	90 外面10YR3/1黒褐色
4	土師器	壺	11.6	4.3	3.6	内外面クロナガ	底部凹輪条切り	70 外面7.5YR4/3褐色
5	土師器	壺	11.4	5.5	4.4	内外面クロナガ	底部凹輪条切り 手平や手縫状にゆがみあり	70 外表面7.5YR6/6褐色
6	土師器	壺	12	4.7	3.7	内外面クロナガ	底部凹輪条切り 手平や手縫状にゆがみあり	95 外表面2.5YR6/6褐色
7	土師器	壺	15.4	7.8	5.6	内外面クロナガ	底部凹輪条切り付	70 外表面10YR3/2黒褐色
8	土師器	壺	15.4	7.8	5.6	内外面クロナガ	底部凹輪条切り付	60 外表面10YR6/6褐色
9	須恵器	平	—	(5.6)	(2.0)	須恵器	須恵器	底縁斜状 外表面7.5YR7/1灰色
10	須恵器	平	—	(7.6)	(0.8)	須恵器	須恵器	底縁斜状 外表面10YR7/1灰色
11	灰釉陶器	壺	—	6.4	(2.1)	内外面クロナガ	底部凹輪条切り 灰色	高台～低落欠損品 外表面7.5YR8/1灰白色
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大深(cm)	調査・文様	重量(g)	備考
12	土器	羽口	—	—	—	陶器底尖出	先端彫刻元 瓢箪ケツリ後ナガ	
13	鉄冶溶	角棒次第量	(11.9)	(1.4)	(1.0)	上下欠損	26.31	

第18表 H15号住居址遺物観察表

H16号住居址

遺構はB-あー10グリッドに位置し、H18・22・30、D29・32・35、M4に切られ、北側は近年の攪乱に破壊されている。平面形態は南北方向に長い長方形と考えられる。調査規模は南北7.6m、東西6.4m、検出面から床面までの深さは最大で16cmと浅い。上部は近年の圃場整備によって削り取られたと考えられる。床面は土間状の硬質面を持ち、ピットは9個認められた。P 1・2は主柱穴である。P 5は位置的に棟持柱の可能性がある。炉は主柱穴の間に存在し、直径36cmを測る円形で、床面を10cm程度掘窪めた地床炉である。壁面は熱により焼土化し、硬質である。掘方は踏み固めた床のみで明確な掘り込みは存在しない。

遺物は、弥生土器の甕・壺が出土した。時期は櫛描痕状文・櫛描波状文を施す甕、赤色塗彩された甕の存在、住居址の形態が長方形で、北側ピット間に炉が設置されているといった特徴から、弥生時代後期としたい。



第31図 H16号住居遺構・遺物実測図

番号	層 標	固 形	厚 度cm	底 底cm	断面cm	周 長・丈 株	残存・断面	層 呼
1	弥生土器	甕	—	—	—	外底面粗面直底式 外底口沿一部剥離状 甕内底口沿赤褐色苔	口縁~肩部剥離片	外底7.5TR2/3に赤褐色苔 内底赤色
2	弥生土器	甕	—	[3.4]	(5)	外底面粗面	底部~肩部剥離片	外底5.5TR6/4に赤褐色苔
3	弥生土器	甕	—	[17.4]	(8.2)	外底えぎや小擦剥、内底ハケナダギや擦耗	底部~肩部剥離片	外底7.5TR6/6赤色
4	弥生土器	甕	—	[7.2]	(8.2)	外底えぎや小擦剥、内底ナダギや擦耗	底部~肩部剥離片	外底10YR7/4に赤褐色苔

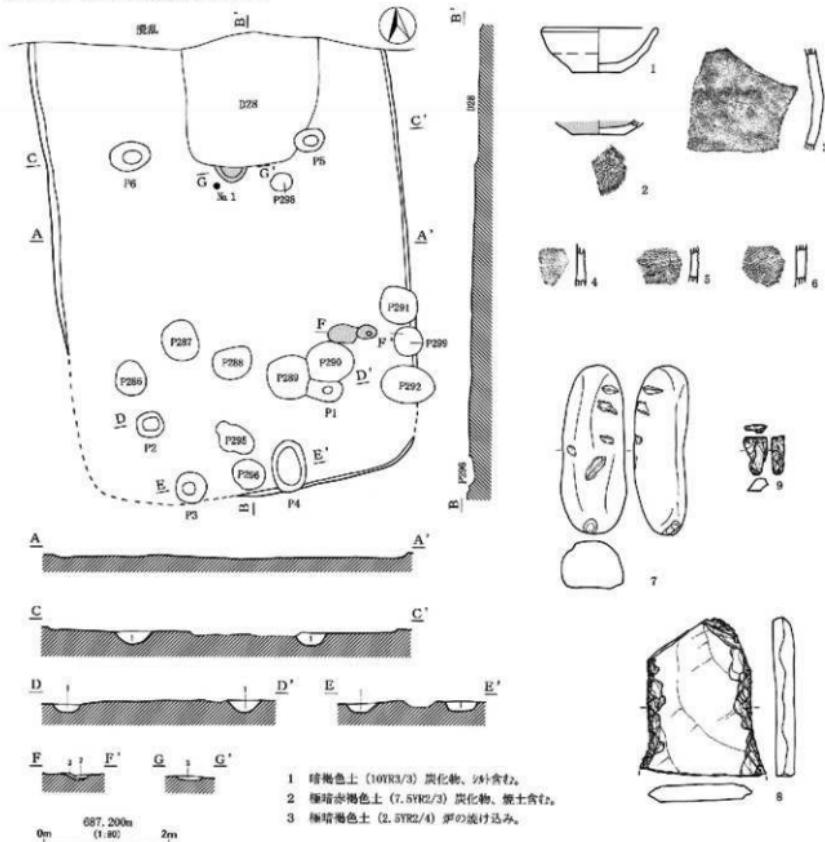
第19表 H16号住居遺物観察表

H17号住居址

遺構はA-1-10グリッドに位置し、D28に切られ、北壁部分は近年の搅乱に破壊されている。平面形態は、隅丸の南北方向に長い長方形と思われる。規模は南北7.2m、東西5.6m。検出面から床面までの深さは最大で10cmを測る。遺構上部の多くは近年の圃場整備によって削り取られており、壁の立ち上がりが認められない方所も存在した。床面は土間状に硬質で、本遺構に伴うと思われるピットは

6個確認できた。P1・2・5・6が主柱穴、P3・4は入り口に関するピットである。炉はP5・6の間に存在する。北側半分はD28に破壊されている。掘方は踏み固めた土間状の床のみで明確な掘り込みは存在しなかった。

遺物は弥生土器の甕・壺、土師器坏、石器等が出土した。土師器坏については、混入品と思われる。時期は弥生土器の存在及び住居址の形態が長方形で、北側主柱穴間に炉が設置されているといった特徴から、弥生時代後期としたい。



第32図 H17号住居址構造・遺物実測図

番号	地種	深さ	口径cm			底径cm			調査・文様			残存率・形態	質
			内	外	高さcm	内	外	高さcm	内	外	高さcm		
1	土師器	甕	9.4	—	3.6	内外面クロナガ	直部出張系切込	(1)	—	—	—	100	外黒7.5YR4/3褐色
2	弥生土器	鉢?	—	—	[4.2]	—	—	—	—	—	—	—	外黒10R4/3赤色
3	弥生土器	壺	—	—	—	外表面赤褐色	内面摩耗	—	—	—	—	—	新削成片 外黒2.5YR5/6明赤褐色
4	弥生土器	甕	—	—	—	外表面擦損	底	—	—	—	—	—	新削成片 外黒10YR4/4褐色

第20表 H17号住居址遺物観察表(1)

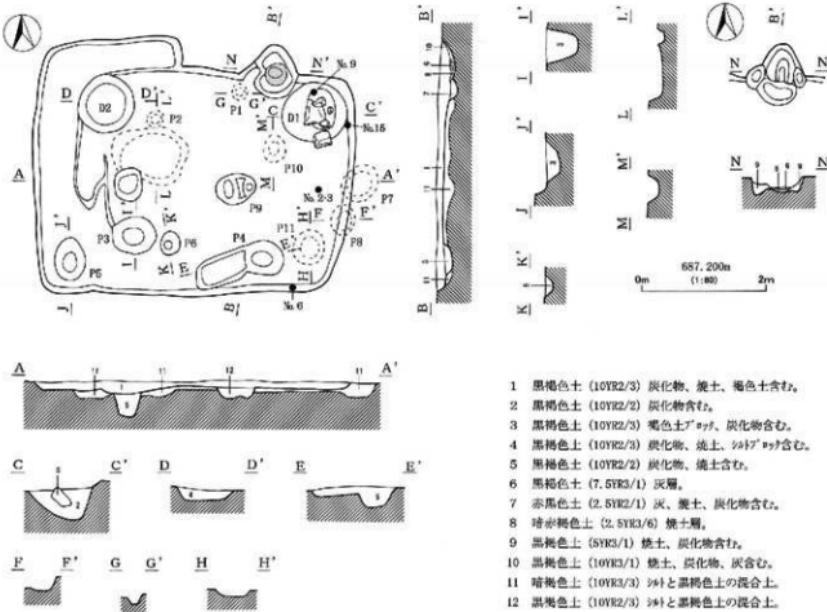
番号	種類	遺物形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	調査・文	残存率・部位	備考
5	弥生土器	甌	—	—	—	外面擦損表皮文	削ぎ出し	外面7.5YR4/4褐色
6	弥生土器	甌	—	—	—	外面擦損表皮文	削ぎ出し	外面7.5YR4/3褐色
系12	石器	石器	最大径(cm)	最大径(cm)	最大径(cm)	調査・文	重巻(%)	番号
7	石器	石器	13.9	5.3	4	正面に風化使用痕	371.2	
8	石器	打制石器	13.8	11.0	1.5	下部欠損	(265.51)	
9	石器	刮片	3.1	1.9	1	正面に削ぎ面(二次加工は認められない)	548	

第21表 H17号住居址遺物観察表(2)

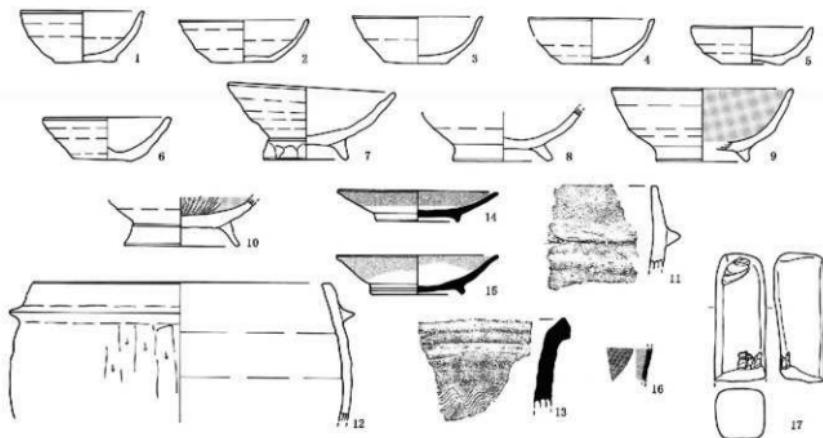
H18号住居址

遺構はA-C-10グリッドに位置し、H16を切る。西側に床面が一段高い竪穴状の遺構が付随する。検出段階で切り合いが確認できなかったことから、やや段差の伴う張り出し部である可能性も考えられる。規模は南北3.6m、東西4.4m、検出面から床面までの深さは最大で15cmを測る。床面は土間状の硬質面を持つ。壁際の溝は認められなかった。ピットは掘方における発見も含めて11個確認でき、北東コーナー及び北西コーナーに土坑が存在する。カマドは北壁の東寄りに構築されている。ほとんどが破壊され、北壁外への張り出しと火床が残存するのみである。掘方は全体的に5~15cmの厚みで強粘性の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の壺・甌・壺・羽釜、須恵器の甌、灰釉陶器の皿、石器が出土した。土師器の壺は大半が小型化した形状で、土師器甌は深みのある壺部を持ち、高台は厚めで、高さは1~1.3cm程度である。羽釜は口縁の破片で2種類存在する。形状はやや樽形をしたものと思われる。灰釉陶器は潰け掛けで高台は低く、やや厚めである。時期は壺の大半が小型化していること、灰釉陶器皿に潰け掛け、高台が低く厚い丸石2号窯跡に類似するものが含まれることから平安時代、10世紀後半~11世紀前半としたい。



第33図 H18号住居址実測図



第34図 H18号住居址遺物実測図

番号	器種	基形	口径cm	裏径cm	高さcm	製 作 文 標	残存率・部位	備考
1	土師器	坪	10.1	5	4.2	内外面クロコリズム 通腹斜板有り	100	外面10YR7/3/C灰褐色
2	土師器	坪	10.2	5	3.5	内外面クロコリズム 通腹斜板有り	95	外面10YR7/4/C灰褐色
3	土師器	坪	10.0	5.1	3.8	内外面クロコリズム 通腹斜板有り	95	外面10YR8/4灰褐色
4	土師器	坪	10.1	4.9	3.7	内外面クロコリズム 通腹斜板有り	65	内外面10YR6/2C灰褐色
5	土師器	坪	10	5	3.1	内外面クロコリズム 通腹斜板有り	50	外面7.5YR7/6褐色
6	土師器	坪	10.4	4.6	3.5	内外面クロコリズム 通腹斜板有り	70	外面7.5YR8/3E深褐色
7	土師器	坪	12.5	6.8	6	环部内外面クロコリズム 高台粘付 外腹斜板有	60	内外面7.5YR7/4C深褐色
8	土師器	坪	—	8.1	4	坪・高台部内外面クロコリズム 高台粘付	50	外面7.5YR7/8褐色
9	土師器	瓶	[14.9]	[7.2]	6	外國面クロコリズム 内底三ガタ 通腹斜板有り 通腹斜板有り 高台粘付 瓶底一溝無	50	外面7.5YR7/6褐色
10	土師器	瓶	—	9.3	(4)	坪部内外面クロコリズム 内面斜転状擦文 黑色施墨	底部・高台100	外面10YR7/1灰白色
11	土師器	羽釜	—	—	(6.9)	口縁施子子・脚付穴	口縁・脚成片	外面7.5YR7/6褐色
12	土師器	羽釜	[24]	—	(11.0)	口縫内外面クロコリズム 脚付穴 四脚外側へラケズリ 内四ナギ	口縫・脚成片	外面7.5YR6/0褐色
13	須恵器	甕	—	—	—	口縫内外面クロコリズム 脚付穴 四脚外側へラケズリ 内四ナギ	口縫成片	外面10Y4/1灰白色
14	灰釉陶器	蓋	[13.0]	6.5	2.5	内外面クロコリズム 通腹斜板有り 三角高台各5 ハケ盛り?	40	内外面7.5YR7/1灰褐色
15	灰釉陶器	蓋	[13.3]	[7.3]	3.2	内外面クロコリズム 前面凹板へラケズリ 高台粘付	高台～口縫斜板有	外面10YR8/1灰白色
16	灰釉陶器	—	—	—	—	通腹斜板	外面8Y4/4褐色	
番号	器種	基形	最大幅(cm)	最大幅(cm)	最大幅(cm)	調査文標	重(㌘)	備考
17	石器	磨石	[16.6]	[4.2]	[4.1]	下部欠損	320.76	1回出土

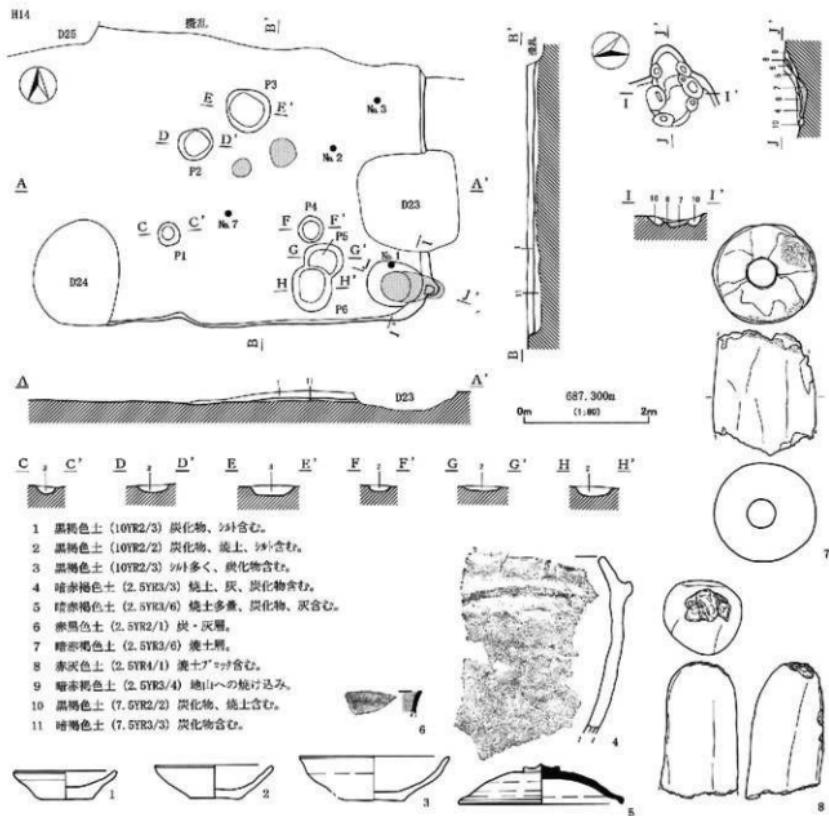
第22表 H18号住居址遺物観察表

H19号住居址

遺構はC-1-1グリッドに位置し、北側は近年の攪乱に破壊されている。H14と切り合ったが、遺構の深度が浅いため確実な新旧関係は検出段階で確認できなかった。平面形態は方形と思われる。規模は南北4.2m、東西5.2m、検出面から床までの深さは最大で13cmを測る。床面は周辺の地山が強粘性であることから、土間状の硬質面を持ち、2カ所に円形の焼土が存在した。羽口が出土していることから住居内で小窓が行っていた可能性も窺える。ビットは6個確認できたが、確実に本遺構に伴うかは断定できない。カマドは南東コーナーに構築されているが大半は破壊され、壁外への一部張り出しと焼土の堆積した火床が残存しているのみであった。掘方は全体的に5~10cm掘り込まれ、強粘性の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坪・碗・羽釜、須恵器の蓋・甕、灰釉陶器、綠釉陶器、羽口、石器が出土した。須恵器の甕、灰釉陶器、綠釉陶器は小破片で出土量も僅かである。土師器坪は小型化し、かわらけ状の

形態を持つ。羽釜の鉢部分は部分的に貼り付けた形態で全周しない。須恵器蓋については形状から時期がやや古い可能性がある。時期は土師器坏及び羽釜の形状から平安時代、11世紀以降としたい。



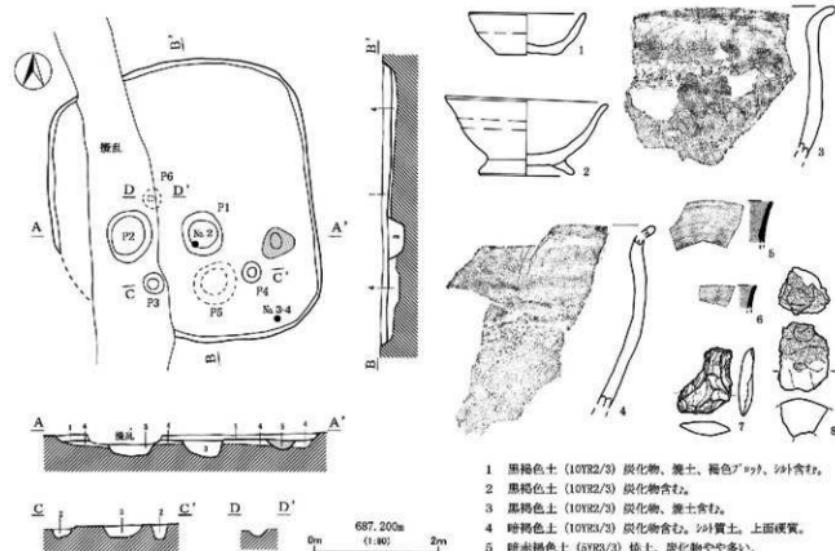
第35図 H19号住居址遺構・遺物実測図

番号	遺構	面形	口径cm	底径cm	高さcm	測定・文様	残存率・割合		備考
							内面	背面	
1	土師壺	深	8.4	4.5	2.3	内外面にクロナデ 底部細軸条目付 截断穴あり	100		外面10YR2/4に早い青緑色
2	土師器	平	9.6	4	2.6	内外面にクロナデ 底部細軸条目付	60		外面5YR4/3に早い青緑色
3	土師器	深	[12.0]	4.0	3.6	内外面にクロナデ 截断穴あり	60		外面7.5YR2/3浅青緑色
4	土師器	深	-	-	(14.7)	口端横ナデ 蔵抜立型貼付 外面ヘラケズリ 内面ナデ	口端・蔵抜断片	外面5YR2/3浅青緑色	
5	土師器	平	[13.4]	つまみ底3	3.3	内外面にクロナデ つまみ駆付 蔵抜立型貼付ヘラケズリ	つまみ・底・蔵抜断片	外表面NS/0/白色	
6	石器	圓	-	-	-	内外面無	口端断片	外表面7.5Y4/3略オリーブ色	
番号	面	種	最大径(cm)	最大厚(cm)	測定大厚(cm)	測定・文様	重積(kg)	割合	備考
7	土質器	羽口	G.0	内壁厚2.1 外壁厚2.4	3	上下下掘 上部一部焼透	-		
8	石器	磨石	(11.1)	(6.4)	(5.7)	下部下掘 上部・側面断面直	504.47		

第23表 H19号住居址遺物観察表

H20号住居址

遺構はA-か-8グリッドに位置する。平面形態は隅丸の方形である。規模は南北4.4m、東西4.1m、検出面から床面までの深さは10cmを測る。床面は土間状に硬質面を持つ。ピットは4個確認できたが、位置的に性格は不明である。南東コーナー付近の床面上に円形の燒土の堆積が認められ、この場所にカマドが存在していたか、あるいは羽口が出土していることから小鍛冶が行われていた可能性も考えられる。遺物は土師器の壺・碗・甕、須恵器の壺・蓋・甕、灰釉陶器、綠釉陶器、羽口、石器が出土した。須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器は小破片で出土量も僅かである。土師器壺は小型化した形状である。時期は、小型化した土師器壺が伴うことから10世紀後半～11世紀前半としたい。



第36図 H20号住居址構造・遺物実測図

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	調査・文様		保存率・部位	備考
						内外面	外表面		
1	土師器	壺	9.4	5	3.4	内外面ロクナダ	底部羽口無切り	100	外壁SYR7/7にぶい褐色
2	土師器	甕	13.1	7.5	6.3	内外面ロクナダ	底部羽口無切り後高台付	65	内底SYR7/4にぶい褐色
3	土師器	甕	—	—	(13.6)	ロ梅鉢ナダ	外底ヘカゼリ	口縁～新部破片	外壁SYR6/8褐色
4	土師器	甕	—	—	(15.1)	ロ梅鉢ナダ	外底ヘカゼリ	口縁～新部破片	外壁2.5YR6/4Cにぶい褐色
5	土師器	甕	—	—	—	内外面黒褐色	斜底	口縁破片	内底10Y7/2灰白色
6	鉢形器物	—	—	—	—	内外面黒褐色	斜底	口縁破片	内底10Y7/2灰白色
断面・概要									
7	石器	石砧	5.5	4.4	1.1	一部全面が焼存(事実のためか)		25.18	備考
8	土製品	手口			2.6	一部焼光		—	備考資料

第24表 H20号住居址遺物観察表

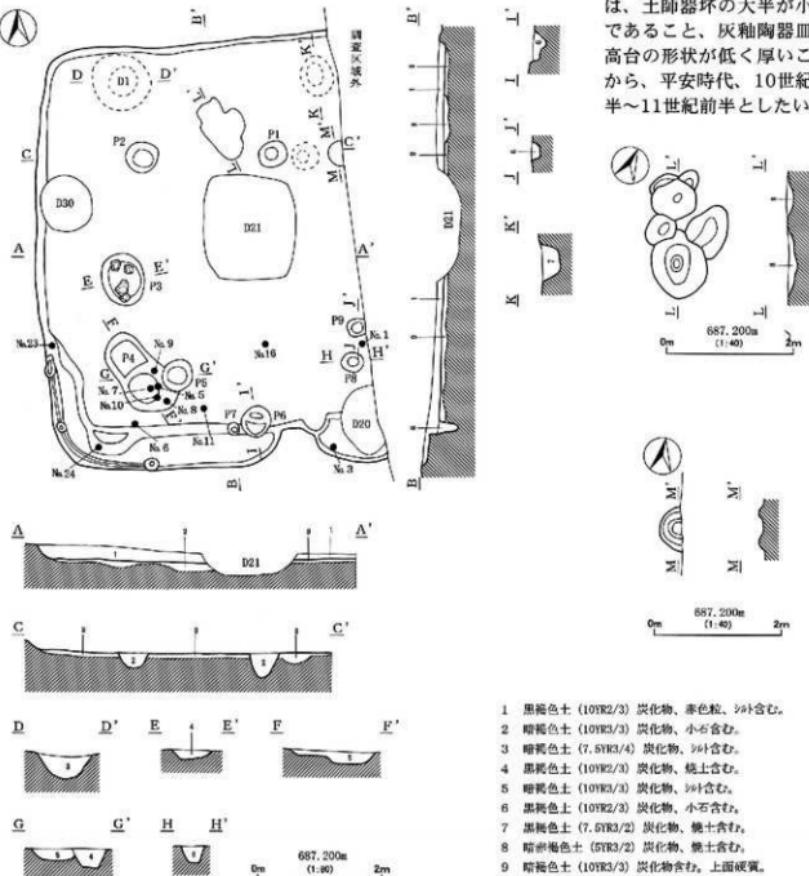
H21号住居址

遺構はA-う-9グリッドに位置し、D20・21・30に切られ、東側は調査区域外となる。平面形態はやや隅丸の方形と考えられ。南壁は一段高いテラス状の段となる。調査規模は南北6.8m、東西5.1m、確認面から床面までの深さは最深で25cmを測る。ピットは床面上で9個確認できた。北側のP1とP2の間にいくつかの窓みがまとめて存在し、一部は熱によって焼土化し硬質な壁・底面を持つもの

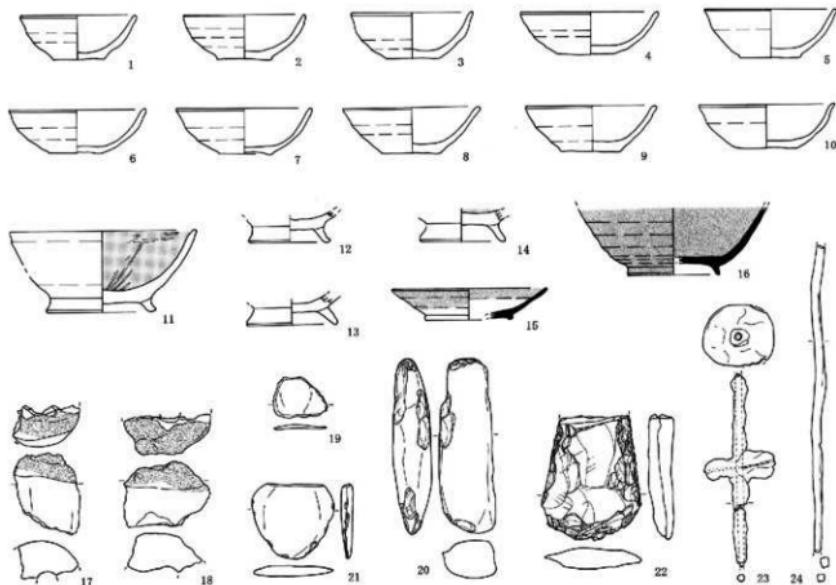
も認められた。また、東の調査区境にも円形の焼土化した窪みが認められた。本遺構内から鉄滓・羽口が出土するため、小鍛冶が行われていた可能性が推察できる。また、南東コーナーに位置するD20からは形状の残る壺も多数出土した。調査範囲からカマドは確認できなかった。調査区域外の東壁に構築されている可能性がある。掘方は厚さ5cm内外の土間状の硬質面直下は地山の砂礫層となり、明確な掘り込みは確認できなかった。

遺物は土師器の壺・碗・甕、須恵器の壺・甕、灰釉陶器の皿、綠釉陶器の碗、羽口、石器、鉄製品、鉄滓が出土した。土師器の壺・碗の出土が多い。土師器壺は口径が10~11cmと全体的に小型である。土師器甕は厚く、やや深みのある内黒の壺部を持つ。また破片中にはやや足高の高台も認められる。灰釉陶器の皿は漬け掛けで高台は低く蒲鉾状である。綠釉陶器碗は表裏全体に施釉されている。時期

は、土師器壺の大半が小型であること、灰釉陶器皿の高台の形状が低く厚いことから、平安時代、10世紀後半~11世紀前半としたい。



第37図 H21号住居址実測図



第38図 H21号住居址遺物実測図

番号	形状	器形	口径(cm)	底径(cm)	腹高(cm)	周 長・文 織	残存率・部位	備 考
1	土鍋	深	0.5	4.2	3.6	内外面クロナラ# 成形面板余切り	98	外側2.5YR7/6褐色
2	土鍋	浅	9.8	4.5	3.6	内外面クロナラ# 底部面板余切り	90	外側7.5YR7/7にぶい褐色
3	土鍋	深	10	4.3	3.7	内外面クロナラ# 成形面板余切り	80	外側7.5YR7/7にぶい褐色
4	土鍋	深	11.2	4.7	3.4	内外面クロナラ# 成形面板余切り	80	外側7.5YR7/7にぶい褐色
5	土鍋	平	11.9	5	4	内外面クロナラ# 底部面板余切り	99	外側N7YR7/6褐色
6	土鍋	平	11.1	4.2	3.0	内外面クロナラ# 成形面板余切り 平面形状や鶴形円	100	外側N7YR7/6褐色
7	土鍋	平	11	4.2	3.7	内外面クロナラ# 成形面板余切り	100	外側7.5YR7/7にぶい褐色
8	土鍋	平	11.1	4.8	3.8	内外面クロナラ# 成形面板余切り	100	外側N7YR7/6褐色
9	土鍋	平	10.6	4.7	3.7	内外面クロナラ# 成形面板余切り	85	外側7.5YR7/7にぶい褐色
10	土鍋	平	11.1	4.8	3.6	内外面クロナラ# 成形面板余切り	90	外側N7YR7/6褐色
11	土鍋	浅	15.2	9	6.5	内外面クロナラ# 内部底板より刀切・黒焦修理・附着物あり底板か?	65	外側7.5YR7/6褐色
12	土鍋	浅	—	6.6	(2.5)	萬古粘土	直徑・高台100	外側10YR7/6にぶい褐色
13	土鍋	浅	—	7.3	(2.4)	萬古粘土	直徑・高台100	外側6YR7/7にぶい褐色
14	土鍋	陶	—	7	(2.4)	萬古粘土 内側黑色剥離	直徑・高台100	外側7.5YR7/7にぶい褐色
15	秋葉型器	鉢	[12.6]	[7.5]	2.5	内外面クロナラ# 高台粘土 断面錐状	25	外側N7/1灰色
16	秋葉型器	鉢	—	[7.5]	(5.6)	内外面高台・直壁にかけて底地	25	外側N7/4灰褐色
番号	断面	器形	最大径(cm)	底大径(cm)	底大厚(cm)	周 長・文 織	重 量(g)	
17	土製品	器口	(6.6)	(6)	2.8	先端部窪入 先端部取抜	—	炉土
18	土製品	器口	(5.4)	(5.7)	2.6	先端部窪入 先端部取抜	—	
19	金網兜系	不明	(3.3)	(4.3)	(2.3)	網辺部欠損	(17.46)	I区出土
20	石器	磨石	14.4	4.5	3.2	上下研削・断面に縦打痕	282.22	
21	石器	スクレーパー?	0.2	0.6	0.6	合併に表面擦らか 同邊面板らしき剝離面	46.52	直入器皿
22	石器	打撲石斧	(10.2)	(8.1)	(1.8)	上部欠損 刃部一部摩耗	(202.87)	Ⅲ区出土 直入器皿
23	新製品	新縫車	縫車 12.7	縫車 6.6	縫車 1.2	輪轂上欠損	(81.82)	
24	新製品	角骨鋸製品	(25.3)	0.8	—	上下欠損	(46)	

第25表 H21号住居址遺物観察表

H22号住居址

遺構はB-1-9グリッドに位置し、一部近年の擾乱に破壊されている。平面形態は方形である。規模は南北3.0m、東西3.0m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。床面はほぼ平坦で、土間状の硬質面を持つ。ピット、壁溝、カマドは確認できなかった。遺構の状態から竪穴状遺構的な性格の遺構である可能性もあるが今回は住居址として取り扱った。

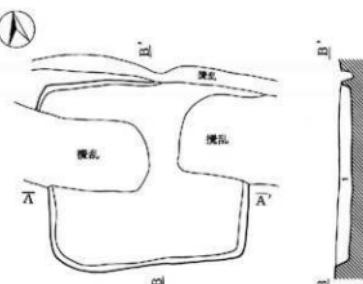
遺物は土師器の壺・甕が出土したが量は少ない。時期は薄手の甕の存在から奈良・平安時代としたい。

H23号住居址

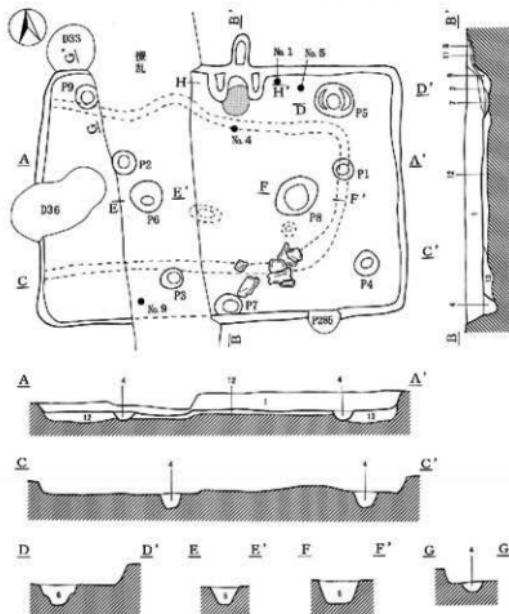
遺構はB-9-10グリッドに位置し、一部擾乱に破壊されている。平面形態は東西方向に長い長方形である。規模は南北4.0m、東西5.8m、確認面から床面までの深さは30cmを測る。ピットは床面上で9個確認できた。北東コーナーに掘り込まれたP5は位置的に貯蔵穴である可能性がある。主柱穴はP1・2あるいはP6・8と考えられる。柱の移動を伴う建て替えがあった可能性も窺える。

カマドは北壁中央に構築され、両袖及び壁外へ延びる煙道の一部、焼土の堆積した火床が残存していた。掘方は5~10cmの厚みで強粘性的暗褐色土が埋め込まれ、中央に比べ、北・東・南側の壁際をコの字状にやや深く掘り下げていた。

遺物は土師器の壺・甕・高壺、須恵器の甕、白玉、石器、鉄製品が出土した。土師器壺は丸底で、体部途中に明瞭な稜を持つ。高壺は裾部及び壺部が大きく開き、壺部の体部途中に明瞭な稜を持つ。甕は厚手で、破片からやや胴長と胴丸状が認められる。白玉はやや大きめの造りで、カマド東脇から出土した。時期は明瞭な稜をもつ土師器壺及び高壺の壺部形状が土師器壺と同形態であることから古墳時代、6世紀としたい。



1 黒褐色土 (10YR2/3) シルトフリット、炭化物含む。
第39図 H22号住居址実測図



第40図 H23号住居址実測図



第41図 H23号住居址カマド・遺物実測図

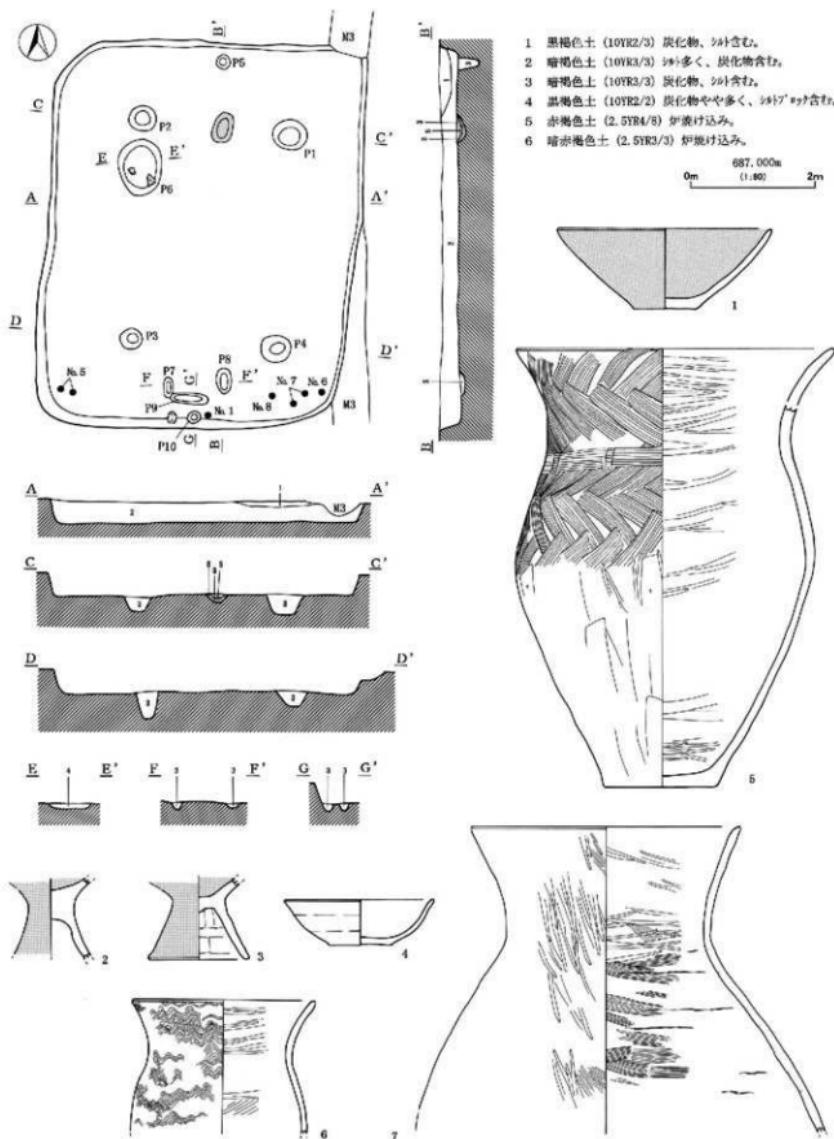
番号	基盤	器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	性・文・様		保存率・部位	備考
						口縁裏字	外縁裏字		
1	土器盤	盆	12.2	丸底	4.4	口縁裏字斜線ナガホ 体底内面ヘタズリ 内面黒褐色地		85	外縁SYR2/6灰褐色
2	土器盤	小器皿	10	5	9.7	口縁裏ナガホ 駆落・底部ヘタズリ 内面ナゲ		70	外縁2SYR8/4灰褐色
3	土器盤	高杯	[18]	—	(5.8)	唇部口縁外側黒ナゲ 底部から鋸歯裏ヘタズリ 沿底内面黒褐色地		30	外縁7SYR8/3浅青灰色
4	土器盤	高杯	—	10.6	(6)	唇部口縁外側黒ナゲヘタズリ 唇部内面黒褐色地		60	外縁7SYR8/2灰白色
番号	基盤	器形	最大径(cm)	底大径(cm)	最大高(cm)	性・文・様	重(㌘)		
5	石器皿	白玉	外径1.6	孔径0.25	0.7	一部欠損 磨石状	2.42		
6	石器皿	白玉	外径1.6	孔径0.25	0.7	一部欠損 磨石状	2.54	カマド出土	
7	石器皿	白玉	外径1.7	孔径0.3	0.7	一部欠損 磨石状	2.63		
8	石器	磨石	19.7	5.8	4.2	断面U字形打抜	641.11	日式出土	
9	熱軋品	鋸歯	[16.2]	15.5	2.0	鋸歯原形鋸歯	(576.6)	見出式切削刃に鋸歯原形鋸歯を鋸歯化したもの	

第26表 H23号住居址遺物観察表

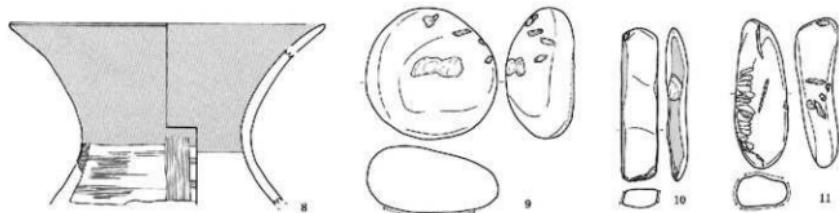
H24号住居址

遺構はB-おー9グリッドに位置し、M 3・4・5に切られる。平面形態は南北方向に長い長方形である。規模は東西4.8m、南北6.2m、確認面から床面までの深さは最深で35cmを測る。床面は全体的に土間状の硬質面を持つ。ピットは10個確認できた。P 1～4は主柱穴、P 5は棟持柱、P 7～10は入り口に関係するピットと考えられる。炉はP 1・2の間に設置されている。やや南北に長い楕円形で、地面を掘り窪めた地床炉である。炉内の焼土を取り除いた壁及び底面は熱によって焼土化し硬質であった。

遺物は弥生土器の高杯・鉢・甕・壺、土師器の壺、石器が出土した。時期は、赤色塗彩された壺及び甕の形状から弥生時代後期としたい。



第42図 H24号住居址遺構・遺物実測図



第43図 H24号住居址遺物実測図

番号	種類	寸法cm	重さg	表面状態	調査・文・様		残存率・部位	備考
					調査	文		
1	弥生土器	縁	17.4	5.1	6.6	内外面ミガキ 赤色強調外葉追加部分に割離 内面は剥離割離大	90	外周10R5/赤色
2	弥生土器	瓶身	—	—	(5.8)	手削内外削 剥離外葉赤色強調 内面ヘラ剥離	瓶底部・縁部上半	外周10R5/赤色
3	弥生土器	甕身	—	—	(6.6)	手削内外削・剥離外葉赤色強調 内面へラ剥離	甕底10R5/外周一辺	外周7.5YR5/6明赤褐色
4	土師瓶	瓶	12.2	8.2	3.7	内内面コロナ形底部追加あり 口縁部・底部に付着物 入出物	99	内内面7.5YR7/4C5/5赤褐色
5	弥生土器	甕	25.9	9.3	36	口縁・剥離下半部9cm剥離強調外葉追加外葉ミガキ 内面ナメ	90	外周5YR4/4C5/5赤褐色
6	弥生土器	甕	14.9	—	(16.8)	口縫内面ハナダニ・ヌギ身	60	外周5YR5/4C5/5赤褐色
7	弥生土器	甕	21.9	—	(25.1)	外周面ミガキ 口縫の剥離ナメ 全身に表記摩耗	40	外周7.5YR2/6褐色
8	弥生土器	甕	25.5	—	(14.9)	口縫・外葉赤色強調 外葉追加部分剥離・剥離奈干文 表面摩耗多	口縫・剥離	外周10R5/6赤色
9	石器	石大刀(刃)	10.8	10.5	5.4	表面・側面・裏面 剣身にすり面	744.63	Ⅲ区出土
10	石器	石大刀(刃)	12.6	3	1.8	両面にすり面 先端部に粗粒	108.23	Ⅲ区出土
11	石器	石斧	12.2	4.3	3.5	裏面4 条痕あり	197.31	後記

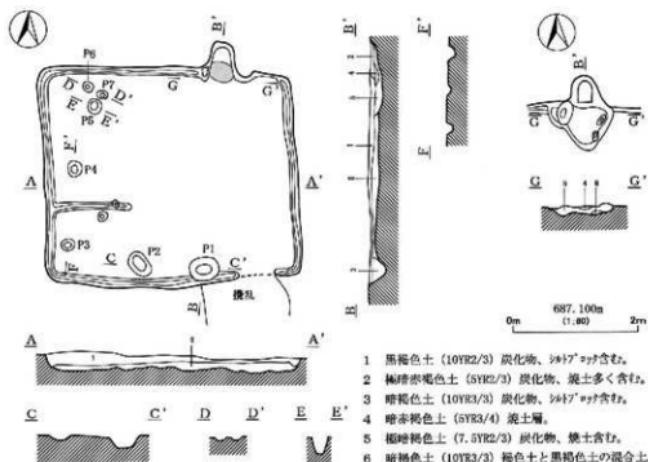
第27表 H24号住居址遺物観察表

H25号住居址

遺構はB-o-10グリッドに位置する。平面形態は方形である。規模は南北3.5m、東西4.4m、検出面から床面までの深さは最深で25cmを測る。床面は土間状の硬質面を持ち、ピットは8個確認できた。主柱穴と断定

できるピットは認められなかった。壁際には溝が巡り、西壁から東方向に間仕切り状の溝が延びる。カマドは北壁の東寄りに構築されている。壁外に張り出した火床部分及び煙道の立ち上がりの一部が残存していた。掘方は全体に5~15cmの厚みで強粘性の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の壺・甕、須恵器の壺・甕が出土した。いずれも小破片で、



第44図 H25号住居址実測図

形状が残るものは丸底の底部から立ち上がり体部途中に明瞭な稜を持つ土師器坏の1点である。時期は土師器坏の形状から古墳時代、6世紀前後としたい。



第45図 H25号住居址遺物実測図

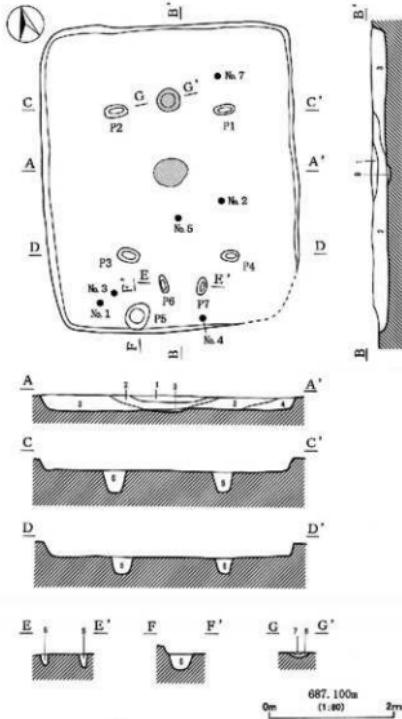
番号	形 標	器 形	口径cm	底径cm	厚さcm	測定者	記 記 文	残存率・部位	施 号
1	土師器	耳	11.3	丸底	3.8	口縁ナデ 外面ヘラケズリ 内面ナデ	70	外裏7.5YR8/3 黒褐色	
2	漆器鉢	盤	-	-	0.07	内面ナデ 自然剥離着	高台・溝下印痕片	外裏7.5YR8/1 黑色	

第28表 H25号住居址遺物観察表

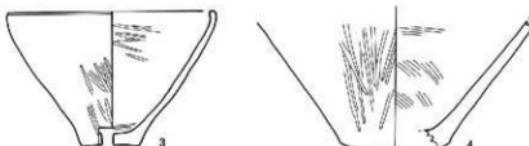
H26号住居址

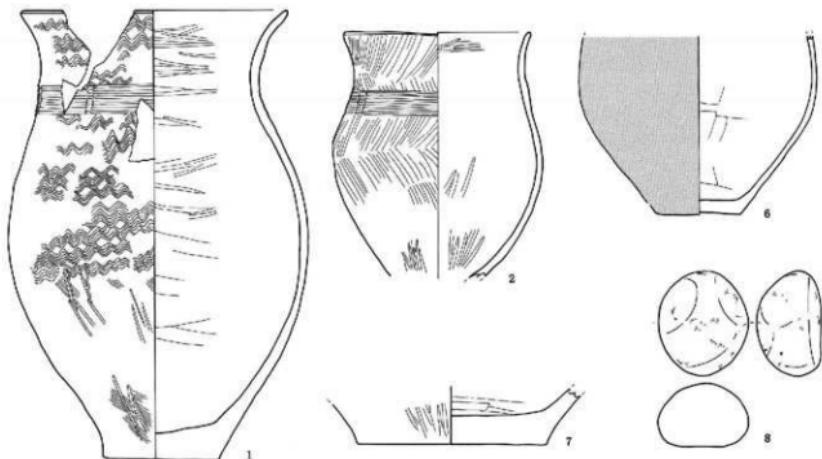
造構はD-かー3グリッドに位置する。平面形態は南北方向に長い長方形である。規模は南北5.0m、東西4.4m。検出面から床面までの深さは最深で22cmを測る。床面は全体的に土間状で硬質である。ピットは7個確認できP1~4は主柱穴、P6~7は入り口に関係するピット、P5は貯蔵穴の可能性が考えられる。床面のP1・2の間及びほぼ中央の2カ所に焼土が認められた。中央の焼土は掘り込みではなく、床面の焼け込みのみ確認できた。P1・2の間の焼土は本住居址の炉址で、円形に深さ5cm程度掘り窪めた地床炉である。炉内の焼土除去後の壁及び底面は焼土化し、硬質であった。掘方は土間状に硬質となった床面のみで明確な掘り込みは存在しなかった。遺物は弥生土器の甕・壺・甑が出土した。赤色塗彩された壺、櫛描簾状文・櫛描波状文等を施す甕、住居址形態が長方形で、北側主柱穴間に炉を設置するといった特徴から、弥生時代後期としたい。

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、少付含む。
- 2 塗褐色土 (10YR3/3) 少付や多く、炭化物含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 少付や多く、炭化物含む。
- 4 塗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土と黒褐色土の混合土。
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物、少付アコタ含む。
- 7 赤褐色土 (2.5YR4/8) 炉焼け込み。
- 8 櫛描赤褐色土 (2.5YR2/4) 炉焼け込み。
- 9 塗褐色土 (2.5YR3/3) 烧け込み。



第46図 H26号住居址構造・遺物実測図



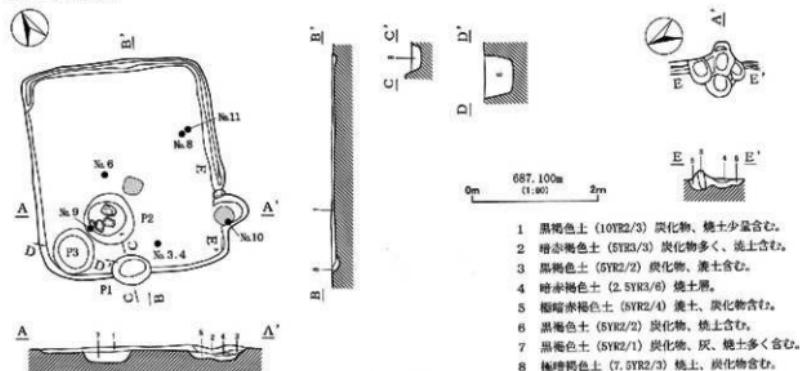


第47図 H26号住居址遺物実測図

調査・文様							残存・部位	番号
1 朽木上部 壁	21.7	9.5	37	口縁+断面土半削落皮次文、表面落灰文、剥離外壁下半層+ギヤリ 内面ナグ			70	外壁7.5YR7/3C:5+1褐色
2 朽木上部 壁	15.3	—	(20.2)	口縁+断面土半削落皮次文、表面落灰文、剥離外壁下半層+ギヤリ 内面ナグ			85	外壁7.5YR5/8D:2褐色
3 朽木上部 壁	17.1	4.6	11	外壁上半分+ 内面剥離+ギヤリ 全体に厚純 疎浮中央に僅8mm穿孔			70	外壁7.5YR8/6褐色
4 朽木上部 底	—	[9]	(10.6)	外表面ミガキ 内面ハケナジ 全体に厚純			底面~傾下半片	外壁7.5YR7/3C:5+1褐色
5 朽木上部 壁	—	5.2	(6.7)	外表面ハケ日 疏浮端面ハケズミ 内面ナグ			底面~傾下半片	外壁10YR8/3淡褐色
6 朽木上部 壁	—	7	(14.7)	外表面赤褐色 内面ナグ			底面~傾斜部	外壁10R4/3赤褐色
7 朽木上部 壁	—	15.5	(4.8)	外表面ナグ 表面や少摩耗			底面のみ	外壁7.5YR7/4C:5+1褐色
8 朽木 寸寸石	8.7	7.4	53	全体にすり抜				405.73
調査・文様							重さ(g)	

第29表 H26号住居址遺物観察表

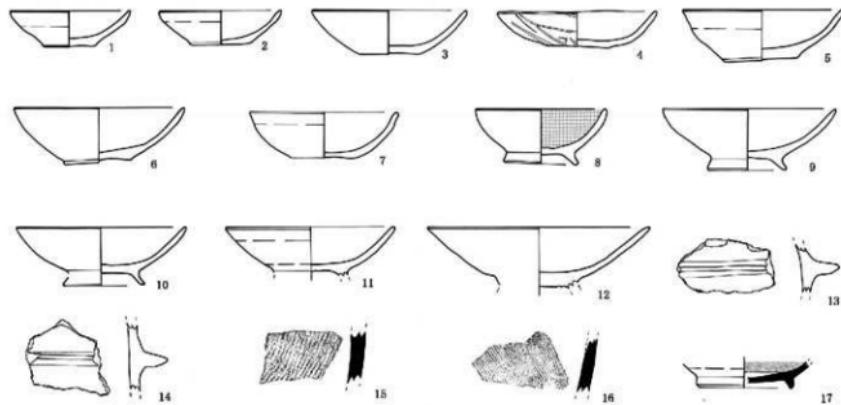
H27号住居址



第48図 H27号住居址実測図

遺構はD-く-1グリッドに位置し、H28を切り、M4に切られる。平面形態は、ほぼ方形である。規模は南北3.4m、東西2.9m、確認面から床面までの深さは最深で5cmを測る。遺構の上部の大半は圓場整備によって削り取られた状態である。ピットは土坑状のものを含め3個認められたが、主柱穴らしきピットは確認できなかった。カマドは東壁の南に位置し、カマドの北側から北西コーナーにかけて壁溝が存在した。カマドは大半が破壊され、火床及び壁外への張り出しが確認できた。

遺物は土師器の壺・碗・甕・羽釜、須恵器の甕、灰釉陶器が出土した。土師器壺は薄く、開き気味に立ち上がり、上からやや押しつぶした状態のものと径10cm程度の小型が存在する。通常サイズの壺は全体的にいびつな形態が目立つ。土師器碗の壺部形態は、壺とほぼ同様の様相で、高台は「ハ」の字状に開く。足高は認められない。土師器の羽釜と識別できるものは、鋸部分の破片で、体部からの張り出しが2cm程度である。灰釉陶器は底部周辺の破片のみで、碗か皿かは判別できない。施釉方法は漬け掛けで、高台は三日月状などではないが内側はやや反りを見せる。時期は押しつぶされたような形態の土師器壺・碗、小型化した壺・碗が含まれることから、平安時代、10世紀としたい。



第49図 H27号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	測定・文様	残存率・部位	備考
1	土師壺	壺	9.8	4.3	2.9	内外面クロナラ 底部斜削系切り 口唇部1ヶ所に鋸付窓	99	外表面SY7/4に赤い斑点色
2	土師壺	壺	9.9	4.8	2.7	内外面クロナラ 底部斜削系切り	70	外表面SY7/4に赤い斑点色
3	土師壺	壺	12.6	5	3.6	内外面クロナラ 底部斜削系切り	99	外表面SY4/3褐色
4	土師壺	壺	13	5.4	3.1	施釉削除系切り 腹部全体にゆがみ 外面にへらによる気泡痕	100	外表面SY4/4に赤い斑点色
5	土師壺	壺	13	5.8	4.3	内外面クロナラ 底部斜削系切り	90	外表面SY6/3に赤い斑点色
6	土師壺	壺	13.6	5.5	4.7	内外面クロナラ 底部斜削系切り	90	外表面SY6/3に赤い斑点色
7	土師壺	壺	13	5.8	4.3	内外面クロナラ 底部斜削系切り 平底削円状	80	外表面SY7/4に赤い斑点色
8	土師壺	甕	10.6	6.1	4.6	内外面クロナラ 内面墨色剥離 口唇部斜削 高台付付	90	外表面SY7/4に赤い斑点色
9	土師壺	甕	14	6.4	5.1	内外面クロナラ 高台削付	90	外表面SY7/4に赤い斑点色
10	土師壺	甕	13.7	[6.6]	4.8	内外面クロナラ 高台削付直角	90	外表面SY7/4に赤い斑点色
11	土師壺	甕	13.8	—	[3.9]	内外面クロナラ 高台欠損	90	外表面SY4/2深褐色
12	土師壺	甕	18.1	—	[5]	内外面クロナラ 高台欠損	70	外表面SY4/4に赤い斑点色
13	土師壺	茶釜	—	—	—	鉢付付No.14と同一個体の可能性あり。	鉢周辺破片	外表面SY7/7に赤い斑点色
14	土師壺	茶釜	—	—	—	鉢付付No.14と同一個体の可能性あり。	鉢周辺破片	外表面SY5/4に赤い斑点色
15	須山器	甕	—	—	—	外表面平行凹凸	破片	外表面N3/0褐色
16	須山器	甕	—	—	—	外表面平行凹凸	破片	外表面LY3/1赤7黒色
17	灰釉陶器	甕?	—	[7.9]	[1.6]	クロナラ 高台付付 溝行排列	高台～作付部片	外表面SY7/1灰白色

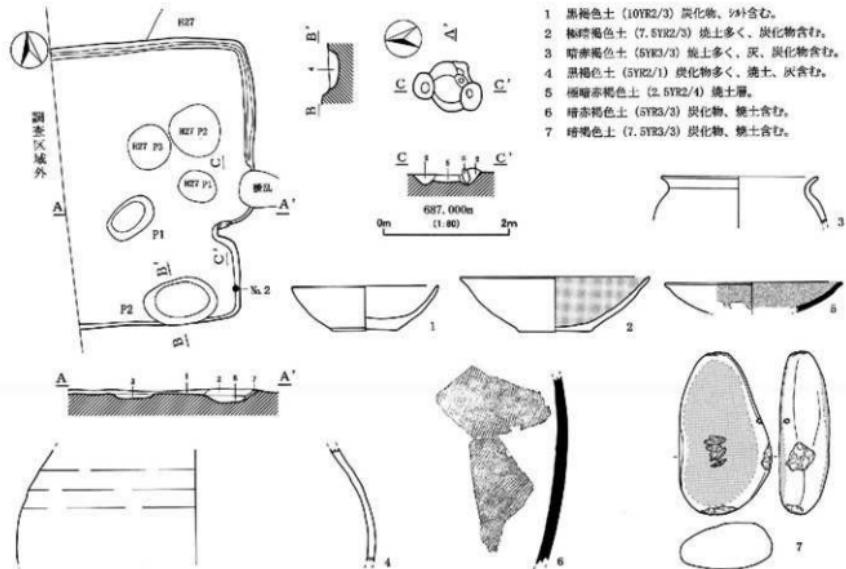
第30表 H27号住居址遺物観察表

H28号住居址

遺構はD-1-2グリッドに位置し、H27、M4に切られ、西側は調査区域外となる。平面形態は方形又は長方形と思われる。規模は南北4.5m、東西は調査規模で最大3.2m、確認面から床面までの深さは最大10cmを測る。床面は土間状の硬質面を持ち東壁から北壁にかけて壁際に溝が巡る。ピットは2個確認できた。P2は位置的に貯蔵穴と思われる。確実に主柱穴と呼べるピットは確認できなかった。カマドは東壁の中央からやや南に位置するが、北側は攪乱に破壊されている。確認できたのは南袖と火床の一部である。硬質な床面直下は地山の砂礫層となり、明確な掘方の掘り込みは認められなかつた。

遺物は土師器の壺・輪轆甕・小型甕・須恵器甕・灰釉陶器の皿・石器が出土した。小破片が大半を占める。土師器壺は切られるH27の壺に比べ形状が整い、作りは丁寧である。土師器輪轆甕及び須恵器甕は胴部の破片、灰釉陶器は口縁部の破片である。

時期は10世紀前半としたH27に切られること、土師器壺の形状から平安時代9世紀後半～10世紀前葉としたい。



第50図 H28号住居址遺構・遺物実測図

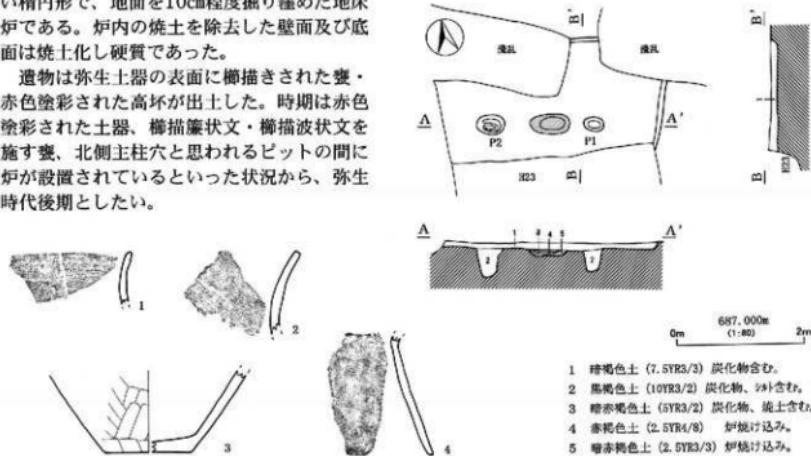
番号	遺構	器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	調査・文様	現存高・割合	期別
1	土師壺	壺	[11.8]	5.4	3.6	内外面クロナナ 底部鉢形切り	40	外巻7.5YR7/4にぶい粒色
2	土師器	壺	[16.4]	9.8	4.5	内外面クロナナ 底部鉢形切り 内面黒色帯進	40	外巻7.5YR6/4にぶい粒色
3	土師器	小型甕	[12.6]	—	(3.6)	口面部ナナ 外巻ヘラケズリ 内面ナナ	—	外巻7.5YR4/3褐色
4	土師器	輪轆甕	—	—	(3.3)	外巻上部クロナナ 下部ヘラケズリ 内面ハケ目	裏部破片	外巻7.5YR6/6墨色
5	灰釉陶器	皿	[14.4]	—	(2.5)	クロナナ	口部破片	外巻7.5YR7/1灰白色
6	須恵器	甕	—	—	—	内面平滑者 内面ナナ	裏部破片	外巻N4/1灰色
7	石器	すり・砕石	13.4	7.6	3.8	正・裏面にすり面 正面・裏面に敲打痕	重積(g)	—
								I区出土

第31表 H28号住居址遺物観察表

H29号住居址

遺構はB-1-9グリッドに位置し、南側はH23に切られ、北側は部分的に攪乱に破壊されている。確認できた範囲は住居址北側の一部である。調査規模は南北2.0m、東西3.6m、確認面から床面までの深さは最大15cmを測る。床面は土間状に硬質で、住居址北側の主柱穴2個及びピット間の炉が確認できた。ピットの平面形態は東西方向に長い楕円形で深さは40~50cmを測る。炉の平面形態は東西に長い楕円形で、地面を10cm程度掘り窪めた地床炉である。炉内の焼土を除去した壁面及び底面は焼土化し硬質であった。

遺物は弥生土器の表面に櫛描きされた縫・赤色塗彩された高坏が出土した。時期は赤色塗彩された土器・櫛描縫状文・櫛描波状文を施す縫・北側主柱穴と思われるピットの間に炉が設置されているといった状況から、弥生時代後期としたい。

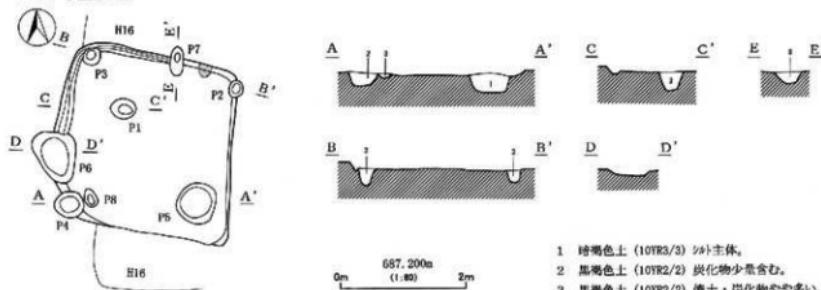


第51図 H29号住居址遺構・遺物実測図

番号	基 標	基 準	口径[cm]	底[cm]	壁面[cm]	調査・文 緑	残存率・部位	備 考	
								外周5YR3/4に赤色縫	外周5YR3/4に赤色縫
1	弥生土器	縫	-	-	-	-	口縫板片	外周5YR3/4に赤色縫	
2	弥生土器	縫	-	-	-	-	口縫板片	外周5YR3/4に赤色縫	
3	弥生土器	縫	[7.1]	[6.5]	外周5YR3/6に赤色縫	底削・側下平縫片	外周5YR3/6に赤色縫		
4	弥生土器	高坏	-	-	-	脚部外赤色縫	脚部外赤色縫	外周5YR3/6に赤色縫	

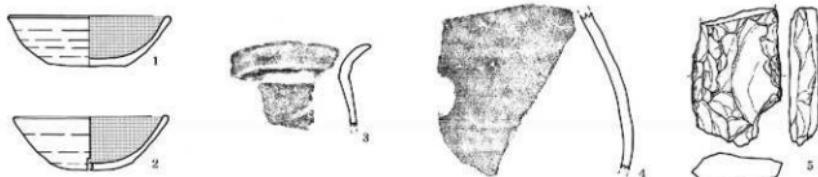
第52表 H29号住居址遺物観察表

H30号住居址



第52図 H30号住居址実測図

遺構はD-あー1グリッドに位置し、D29に切られる。平面形態は方形である。規模は南北2.9m、東西2.8mを測る。検出段階ですでに床面が露出又は削られた状態で、生活面の詳細は不明である。北壁の東寄りに焼土の堆積が認められた。ピットは大小8個確認できたが、性格の断定はできない。遺物は土師器の壺・甕・輪轆蓋、石器が出土している。土師器壺はやや厚手で、内面黒色処理を施す。土師器輪轆蓋は胴部の破片である。時期は土師器壺の特徴から平安時代9世紀後半～10世紀前半としたい。



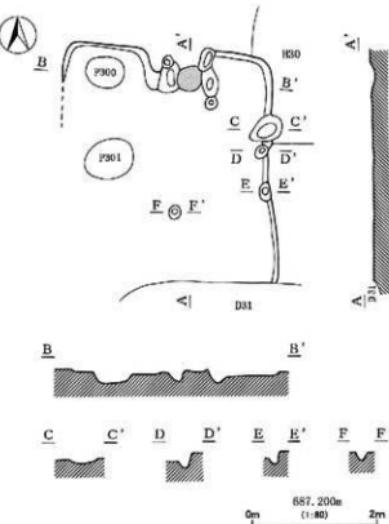
第53図 H30号住居址遺物実測図

番号	規 模	形 異	口径cm	底径cm	厚さcm	調 査・文 種		残存率・部位	備 考
						内面	外側		
1	土師壺	平	13.3	6.2	4.2	内面口クロナデ	底部口縁糸切込 内面黒色処理	90	外周2.5YR6/6褐色
2	土師甕	平	[12.6]	[14.2]	[4.5]	内面口クロナデ	底部口縁糸切込 内面黒色処理	25	外周2.5YR6/6褐色
3	土師甕	束	—	—	(6.0)	口縁微ナデ	外茎ヘラケズリ 内面ナデ	口縫裏片	外周2.5YR5/6にじいろ赤褐色
4	土師器	輪轆蓋	—	—	—	外面口クロナデ	—	輪轆蓋片	外周3YR5/6褐色
5	石器	打製石斧	(11.0)	(7.0)	(2.6)	基部・先端削欠損	全体に摩滅	276.23	投入遺物
調査・文種						重 量(g)			
5	石器	打製石斧	(11.0)	(7.0)	(2.6)	基部・先端削欠損	全体に摩滅	276.23	投入遺物

第53表 H30号住居址遺物観察表

H31号住居址

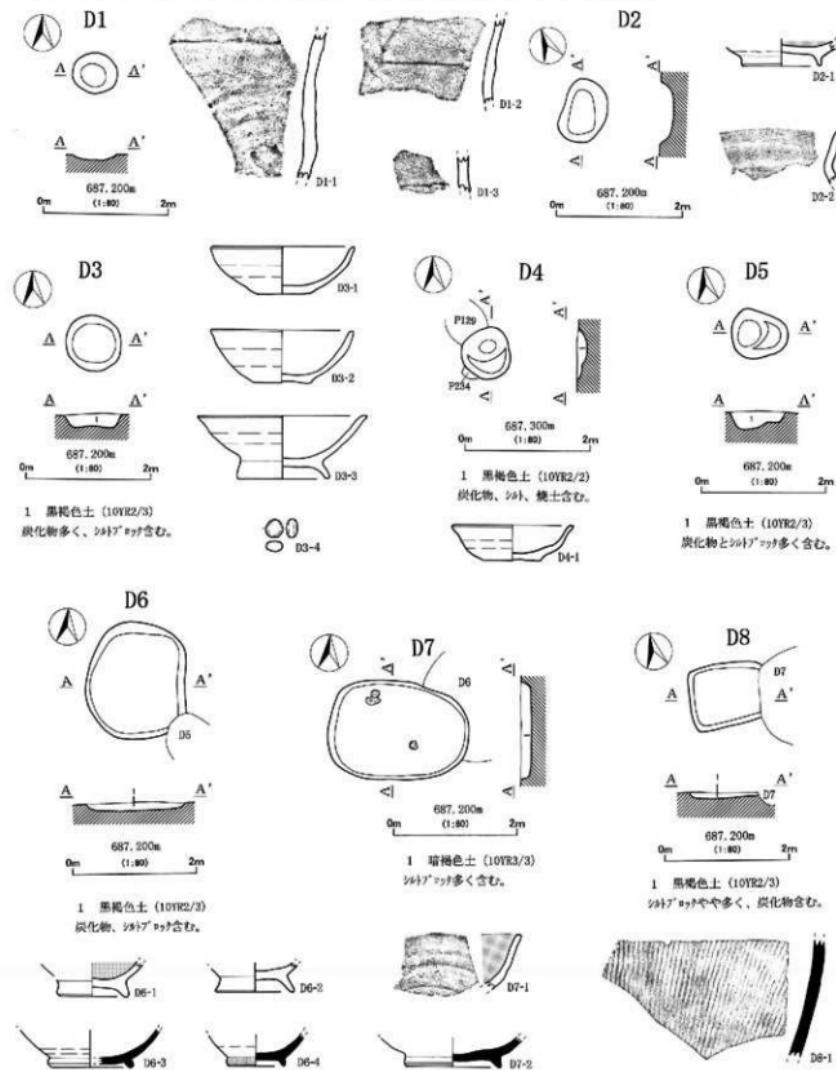
遺構はD-いー1グリッドに位置する。遺構上部の大半は削り取られ、確認できたのはカマドと住居址北側の掘方部分である。床面は完全に削り取られている。カマドは北壁中央に構築され、円形の火床が残存していた。ピットは4個確認できたが、本住居址に伴うかは断定できない。



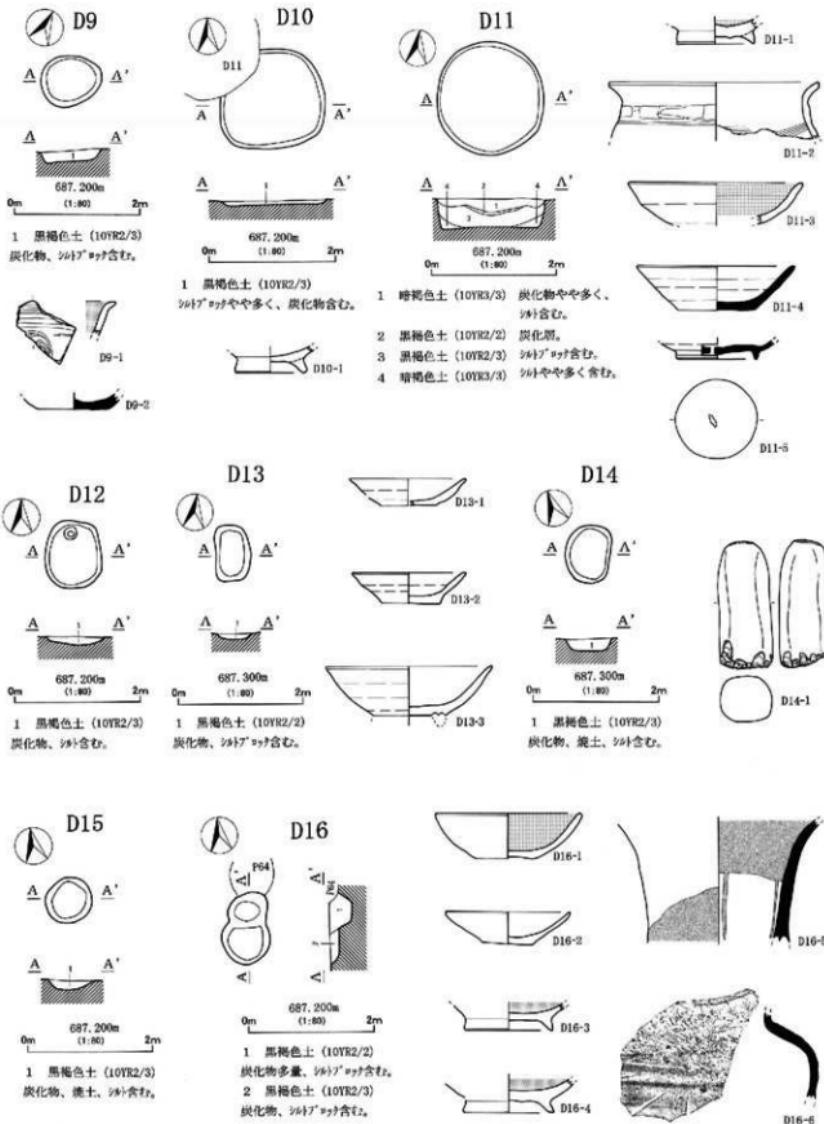
第54図 H31号住居址実測図

第2節 土坑

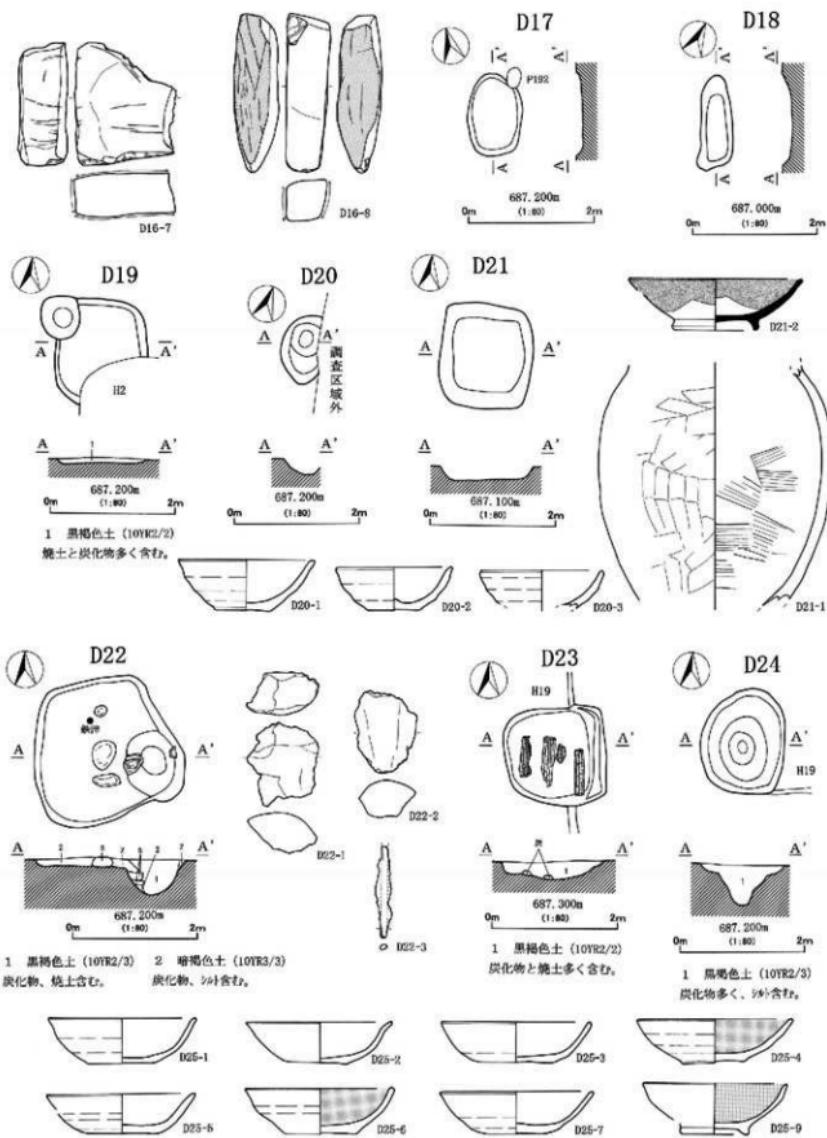
ピットと区別するため、直径80cmを越える掘り込みを土坑として取り扱った。



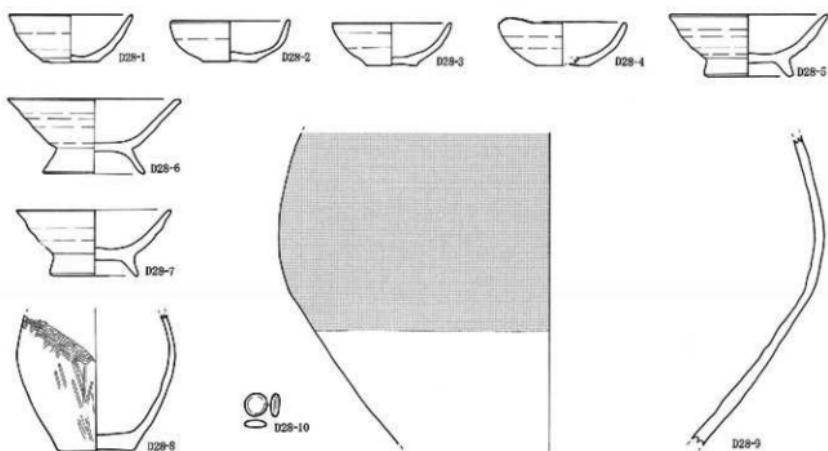
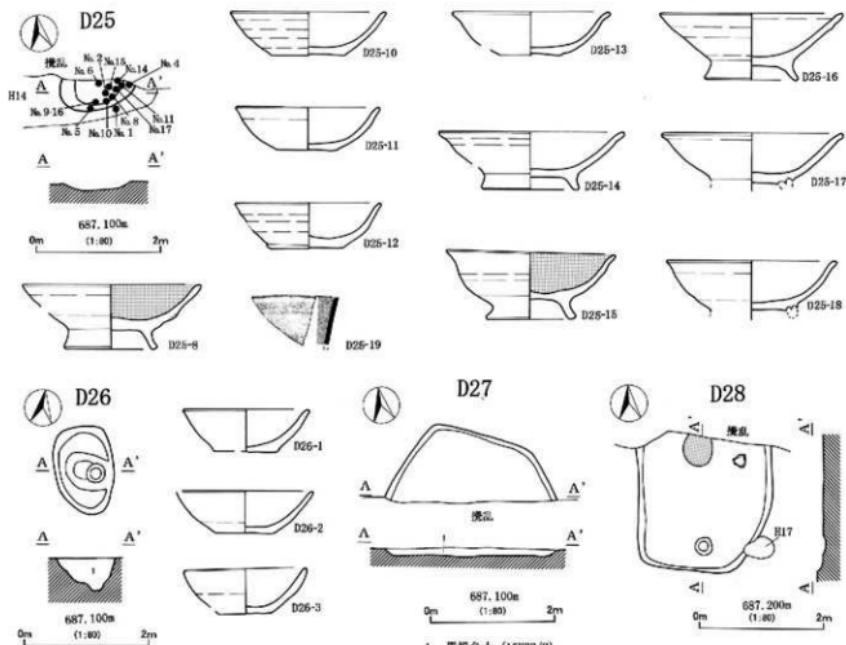
第55図 土坑 道構・遺物実測図 (1)



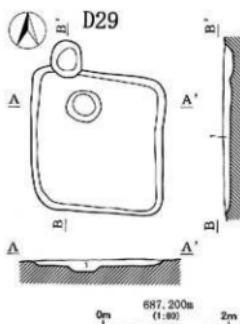
第56図 土坑 構造・遺物実測図 (2)



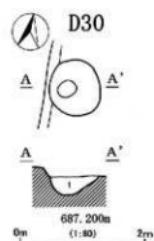
第57図 土坑 造構・遺物実測図 (3)



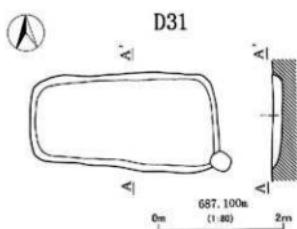
第58図 土坑 遺構・遺物実測図(4)



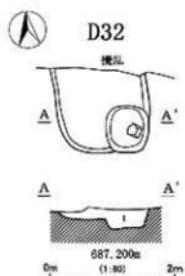
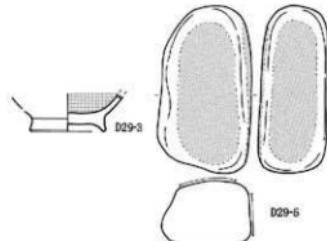
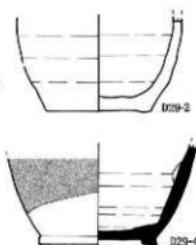
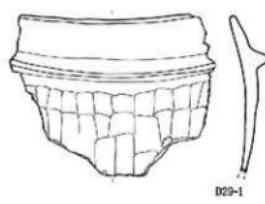
1 黒褐色土 (10YR2/3)
炭化物、焼土粒含む。



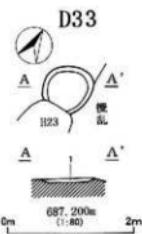
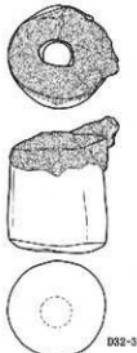
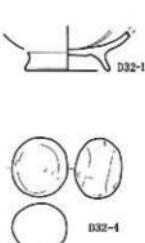
1 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
炭化物多く、流土少量含む。



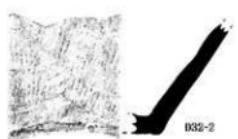
1 黒褐色土 (10YR2/3)
炭化物、黒褐色土と褐色土の混合土。



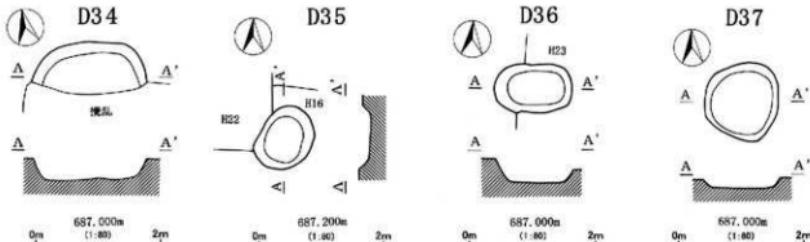
1 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
炭化物、シラ含む。



1 黒褐色土 (10YR2/3)
炭化物、流土含む。



第59図 土坑 潛構・遺物実測図 (5)



第604図 土坑実測図 (6)

番号	基 標	鉛 砂	口径cm	底径cm	深さcm	測 線・文 横	残存率・剖面	備 考
D1-1	鋼文土器	深鉢	—	—	—	外縁壘積・錐状突出による文様 表面摩耗	断片	外面SYR6/6褐色
D1-2	鋼文土器	深鉢	—	—	—	外縁壘積による文様 表面摩耗	断片	外面SYR6/6褐色
D1-3	鋼文土器	深鉢	—	—	—	外縁壘積による文様 表面摩耗	断片	外面SYR6/6褐色
D2-1	土師器	鉢	—	[6.6]	(2)	底面凹凸系切り後高台付 内面黑色剥離	底面・高台50	内面SYR7/3にぶい黒色
D2-2	土師器	鉢底裏	—	—	—	口縁擴張	口縫破片	外面SYR7/4/4浅褐色
D3-1	土師器	鉢	[11.5]	4.5	3.9	内外面クロコロテ 瓶底凹凸切り	40	外面SYR8/4浅褐色
D3-2	土師器	鉢	11.5	4.6	4.3	内外面クロコロテ 瓶底凹凸切り	90	外面SYR8/4浅褐色
D3-3	土師器	鉢	13.6	7.4	5.1	内外面クロコロテ 瓶底高台付	90	内面SYR7/7褐色
D4-1	土師器	鉢	9.9	4.7	2.9	内外面クロコロテ 瓶底凹凸切り	90	内面SYR7/8/3浅褐色
D4-1	土師器	鉢	—	5.9	(2.9)	底部削除後高台付 内面黑色剥離	底部・高台100	内面SYR8/3浅褐色
D4-2	土師器	鉢	—	6.4	(2.4)	底部削除後高台付	底部・高台100	内面SYR8/4浅褐色
D4-3	灰陶器物	鉢	—	[7]	(3)	底面削除系切り後高台付	底面・高台50	内面SYR8/4浅褐色
D4-4	灰陶器物	鉢	—	6.4	(2.4)	底部削除系切り後高台付	底面・高台50	内面SYR7/1深褐色
D7-1	土師器	鉢	—	—	—	外縁擴張	口縫破片	外面SYR7/6褐色
D7-2	灰陶器物	鉢	—	[8]	(2.5)	底部削除系切り後高台付	底面・高台50	内面SYR7/7/1白色
D8-1	土師器	鉢	—	—	—	外縁削除平行凹凸	口縫破片	外面SYR8/0深灰色
D9-1	土師器	鉢	—	—	—	内外面黑色剥離 内面輪文	口縫破片	内面SYR1/7深灰色
D9-2	度量器	環	—	5.4	(1.2)	底部削除系切り	底部100	外面SYR8/1褐色
D10-1	土師器	鉢	—	5.8	(2.2)	高台削付	底面・高台100	外面SYR7/4にぶい黒色
D11-1	土師器	鉢	—	6.3	(2)	高台削付 内面黑色剥離	底面・高台50	外面SYR7/4にぶい黒色
D11-2	土師器	鉢	—	—	—	—	口縫破片	内面SYR6/6褐色
D11-3	土師器	鉢	[14.2]	—	(3.5)	外縁クロコロテ 口辺面部剥離	口縫破片	外面SYR8/4/3褐色
D11-4	度量器	環	[12.8]	[6.3]	3.8	内外面クロコロテ 底部削除系切り	口縫・底部50	外面SYR8/1褐色
D12-1	灰陶器物	皿	—	[6.7]	(1.0)	高台削付 塗付剥離	口縫・底面50	外面SYR7/4/3褐色
D12-2	土師器	鉢	9.5	[4.7]	2.2	内外面クロコロテ 底部削除系切り	50	外面SYR5/6/7/1褐色
D12-3	土師器	鉢	9.4	5	2.5	内外面クロコロテ 底部削除系切り	90	内面SYR6/6褐色
D13-3	土師器	鉢	[13.5]	[6]	(4)	内外面クロコロテ 底部高台付	50	外面SYR6/6褐色
D14-1	土師器	鉢	12.1	5	3.7	内外面クロコロテ 底部削除系切り 内面黑色剥離	100	外面SYR7/3/5にぶい黒色
D14-2	土師器	鉢	10.2	4.3	2.7	内外面クロコロテ 底部削除系切り	100	内面SYR7/4/5にぶい黒色
D14-3	土師器	鉢	—	7.2	(2.1)	底部削除付 内面黑色剥離	底面・高台100	外面SYR7/4/5にぶい黒色
D14-4	土師器	鉢	—	7.4	(2.6)	底部削除付 内面黑色剥離	底部・高台100	外面SYR8/1/7/1褐色
D14-5	灰陶器物	甌	—	—	(10)	内外面クロコロテ 灰陶器質	断片	内面SYR7/7/1灰褐色
D14-6	度量器	皿	—	—	(7)	内外面クロコロテ 内面黑色剥離付	断片	内面SYR7/7/1灰褐色
D15-1	土師器	鉢	11	4.6	4.1	内外面クロコロテ 底部削除系切り	90	外面SYR8/0/3にぶい黒色
D15-2	土師器	鉢	9.6	4.3	3.5	内外面クロコロテ 底部削除系切り	100	外面SYR6/4にぶい黒色
D15-3	土師器	鉢	10	—	(3.1)	内外面クロコロテ 底部削除系切り	底部欠損	外面SYR8/6褐色
D15-4	土師器	皿	—	—	(19.4)	外面ウカゲリ 内面ナマ・墨色	断片	外面SYR2/2墨色
D15-5	灰陶器物	甌	[14.1]	6.8	4.2	内外面クロコロテ 武部ヘラケズり後高台付 鎌形剥離	60	内面SYR8/6/7/1灰白色
D15-6	土師器	鉢	12.1	5.6	3.8	内外面クロコロテ 底部削除系切り	95	外面SYR7/3にぶい黒色
D15-7	土師器	鉢	12	5	3.5	内外面クロコロテ 底部削除系切り	90	内面SYR7/4にぶい黒色

第34表 土坑遺物観察表 (1)

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	調査・文様	保存・部位	備考
D25-3	土師器	环	12.1	6.3	3.3	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	60	内面3.5YR7/4Cにかい穂色
D25-4	土師器	环	12.8	5.3	3.7	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り 内面黑色毛刷	70	外周3.5YR8/4にかい穂色
D25-5	土師器	环	[12.5]	5.8	3.3	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	50	外周2.5YR8/4にかい穂色
D25-6	土師器	环	12.2	5.7	3.8	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り 内面黑色毛刷	70	外周3.5YR7/3Cにかい穂色
D25-7	土師器	环	12.4	5.2	3.5	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	60	外周3.5YR8/4Cにかい穂色
D25-8	土師器	碗	[14.5]	7.6	5.3	内外面クロコナフ 黑色刷毛刷	60	外周3.5YR8/6Cにかい穂色
D25-9	土師器	碗	[11.8]	5.6	9.2	内外面クロコナフ 高台貼付 内面黑色毛刷	50	外周3.5YR8/3Cにかい穂色
D25-10	土師器	环	12.6	5	3.6	内外面クロコナフ 高台貼付 糸切り	90	外周3.5YR7/3にかい穂色
D25-11	土师器	环	11.7	4.8	3.6	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	80	外周3.5YR7/3Cにかい穂色
D25-12	土师器	环	11.9	6.2	3.8	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	40	外周3.5YR8/6Cにかい穂色
D25-13	土师器	环	[12.6]	5	3.6	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	40	外周3.5YR7/4Cにかい穂色
D25-14	土师器	碗	[15.1]	7.8	4.8	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り後高台貼付	40	外周3.5YR7/7/4にかい穂色
D25-15	土师器	碗	13.7	7.2	5.5	内外面クロコナフ 高台貼付 内面黑色毛刷	85	外周3.5YR8/6Cにかい穂色
D25-16	土师器	碗	15	7.7	5.5	内外面クロコナフ 高台貼付	80	内面3.5YR7/6にかい穂色
D25-17	土师器	碗	14.9	—	(4.2)	内外面クロコナフ 黑色刷毛刷	80	外周3.5YR7/3にかい穂色
D25-18	土师器	碗	13.8	—	(4)	内外面クロコナフ 高台灰柱	80	外周3.5YR8/2灰白色
D25-19	埴輪物	碗	—	—	—	内外面クロコナフ	口縁破片	内面3.5YR7/2灰白色
D25-20	土师器	环	[10.5]	5.2	3.5	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	30	外周3.5YR7/3にかい穂色
D25-21	土师器	环	[11]	4.8	(3.5)	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	40	外周3.5YR8/3Cにかい穂色
D25-22	土师器	环	[9.9]	4.1	3.7	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	30	外周3.5YR7/4にかい穂色
D25-23	土师器	环	10.1	4.6	4.9	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	85	外周3.5YR7/3にかい穂色
D25-24	土师器	环	[9.6]	4.4	(3.1)	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	50	外周3.5YR8/2灰白色
D25-25	土师器	环	9.8	4.2	3.5	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	50	外周3.5YR7/3にかい穂色
D25-26	土师器	环	[10.5]	(4.2)	3.9	内外面クロコナフ 高部斜面糸切り	40	外周3.5YR7/4にかい穂色
D25-27	土师器	碗	[12.5]	7.3	5.1	内外面クロコナフ 高台貼付	30	外周3.5YR8/2灰白色
D25-28	土师器	碗	[14.2]	8.3	6.1	内外面クロコナフ 高台貼付	40	外周3.5YR8/4灰白色
D25-29	土师器	碗	12.6	7.2	5.5	内外面クロコナフ 高台貼付	60	外周3.5YR8/3浅模様
D25-30	弥生土器	束	—	6.3	(11.2)	外面部斜面上手縫波状文・下部縫合ギヤ 内面ナデ	底部・側面破片	底部・側面破片
D25-31	弥生土器	盘	—	—	(25.4)	外面部手縫形 表面摩耗	網状破片	外周3.5YR8/3Cにかい穂色
D25-32	土师器	羽釜	—	—	—	口縁破片	口縁破片	内面3.5YR8/3Cにかい穂色
D25-33	土师器	椭球質	—	8.6	(8.8)	ロクの横ナフ 表面摩耗	底部～網状の一部	外周3.5YR8/6Cにかい穂色
D25-34	土师器	碗	—	6.2	(3)	高台貼付 内面黑色毛刷	底部・高台100	外周3.5YR8/4Cにかい穂色
D25-35	灰陶陶器	壺	—	9.6	(8.0)	内外面クロコナフ 高部斜面ラグゼリ 福井付	底部・側面下半	外周3.5YR7/2灰白色
D32-1	土师器	碗	—	7	(3.3)	底部斜面治削後高台貼付 内面壁文	底部・高台100	外周3.5YR8/3灰黄色
D32-2	土师器	碗	—	—	(3)	底部斜面治削後高台貼付 内面ナデ	底部・側面破片	外周3.5YR8/3浅模様
D33-1	土师器	环	[12.4]	[5.4]	5.5	外面部クロコナフ 内面黑色毛刷・或文 底部斜面糸切り	25	外周3.5YR8/4浅模様
D33-2	土师器	碗	—	6.1	(2.5)	高台貼付 全体に摩耗	30	外周3.5YR8/6にかい穂色

第35表 土坑遺物観察表(2)

番号	器種	器形	最大径(cm)	底直径(cm)	高さ(cm)	調査・文様	重量(g)
D14-1	石器	磨石	10.5	4.4	4	上下端面に斜行打痕	316.25
D16-7	石器	磨石	(10.1)	(8.3)	(3.9)	2面斜面 扇型4 3面に条痕あり	447.65
D16-9	石器	すり石	12.9	3.5	3.4	2面斜面滑らか 2面条痕あり	248.2
D22-1	土師器	深口	(3)	(2.8)	1.5	外面部り後ナデ 内面ナデ	—
D22-2	土師器	深口	(3.3)	(2.6)	(1.6)	外面部り後ナデ 内面ナデ	—
D28-10	石製品	堅石杖	1.9	1.8	0.7	全体滑らか	3.35
D29-5	石製品	すり石	13.7	7.7	5.3	3面滑らか	911.83
D32-3	土師器	深口	青径7~8.2	内径18~28	3	先端部素元 外面部り後ナデ	—
D32-4	石器	すり石	4.9	4.5	3.9	全体に滑らか	110.45

第36表 土坑石器・石製品観察表

番号	器種	器形	最大径(cm)	底直径(cm)	高さ(cm)	調査・文様	重量(g)
D27-3	鉄製品	舟輪	(7.4)	(0.5)	(0.5)	円錐形舟輪	8.9

第37表 土坑鉄製品観察表

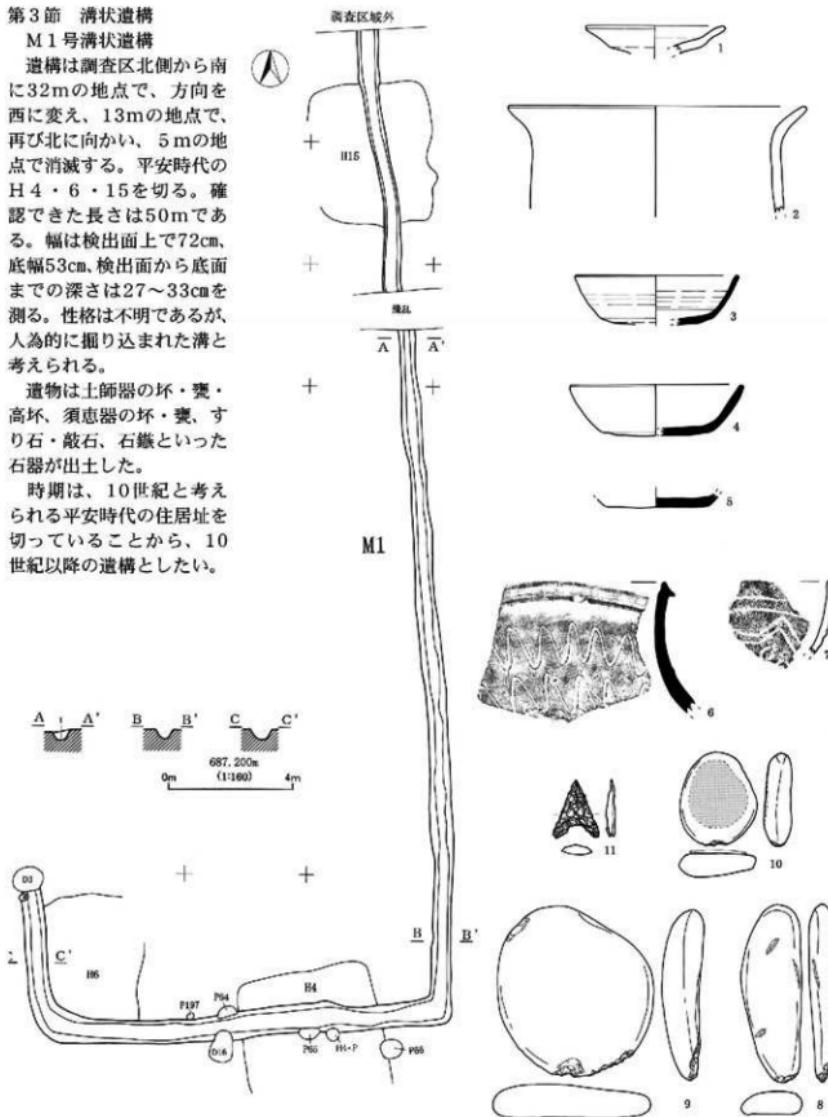
第3節 溝状遺構

M 1号溝状遺構

遺構は調査区北側から南に32mの地点で、方向を西に変え、13mの地点で、再び北に向かい、5mの地点で消滅する。平安時代のH4・6・15を切る。確認できた長さは50mである。幅は検出面上で72cm、底幅53cm、検出面から底面までの深さは27~33cmを測る。性格は不明であるが、人為的に掘り込まれた溝と考えられる。

遺物は土師器の壺・甕・高壺、須恵器の壺・甕、すり石・敲石、石鏃といった石器が出土した。

時期は、10世紀と考えられる平安時代の住居址を切っていることから、10世紀以降の遺構としたい。

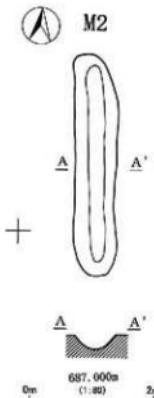


番号	部	種	基盤	口徑cm	底径cm	深度cm	残存率・形状	
							調査・文様	備考
1	上部	环	[11.5]	—	(2.3)	口縁40		
	内外面クロロナヂ					外側7.5YR5/4に5Y1褐色		
2	土師器	後輪型	—	—	—	口縁破片		
	口縁内外面クロロナヂ					外側7.5YR5/4Cに5Y1褐色		
3	陶器器	环	[13.4]	[6]	(3.9)	40		
	内外面クロロナヂ	直部ハラケヅリ				外側7.5Y7/1灰白色		
4	瓦	环	[14.2]	[8.9]	4.2	40		
	内外面クロロナヂ	直部ハラケヅリ				外側7.5YR6/4Cに5Y1褐色		
5	直筒器	环	—	8.4	(1)	底部100		
	直筒器	直	—	—	—	外側7.5YR7/7明褐色		
6	瓦	直	—	—	—	口縁破片		
	内外面クロロナヂ	外側1半壁ハラケヅリ状文				外側7.5Y5/1灰褐色		
7	陶土器	不明	—	—	—	破片		
	外側半行沈痕文	精打直底文	小石多く含む			外側7.5YR6/4淡黄褐色		
番号	部	形	馬大径(cm)	馬大幅(cm)	馬深(cm)	直深(cm)	直深(cm)	備考
8	石器	麻石	14.8	4.8	1.9	159.85		
	下部に敲打痕	正・裏面に条痕						
9	石器	麻石	14	12.9	2.8	893.45		
	側面に敲打痕	全体に擦らか						
10	石器	麻石	7.7	6.2	2	110.29		
	側面に敲打痕	全体に擦らか						
11	石器	石器	2.3	1.9	0.4	0.98		
	無等級							

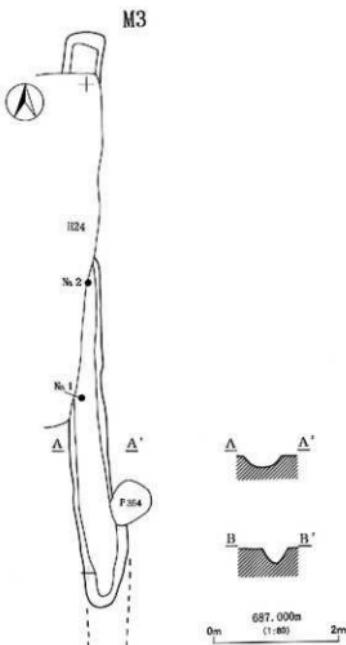
第38表 M 1号溝状遺構観察表

M 2号溝状遺構

遺構は調査区西側のD-お-6 グリッド付近に位置する。南北方向の溝と考えられるが、遺構の大半は圃場整備によって削り取られ、僅かな部分が残存している。確認できた規模は長さ3.7m、検出面上での幅62~72cm、底幅23~25cm、深さは24~26cmを測る。時期は不明である。



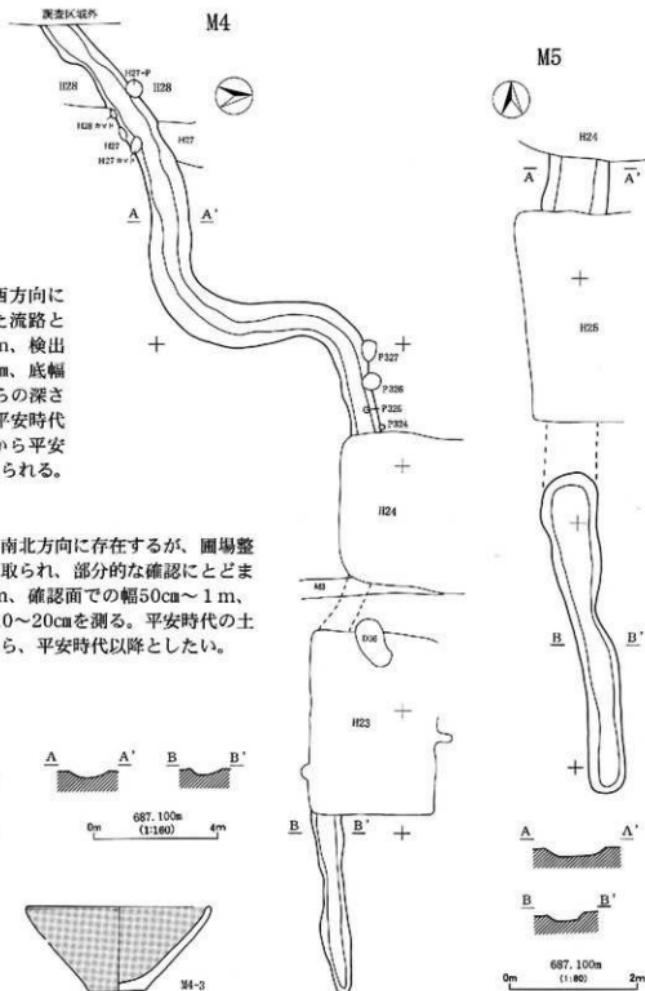
第62図 M 2号溝状遺構実測図



第63図 M 3号溝状遺構 遺構・遺物実測図

番号	形 型	断面	口径cm	底径cm	断面cm	測 定・文 程	残存率・割合	備 考
1	土器型	平	12	5.5	3.1	内外面クロナゲ 底部斜削余切り	90	外面SYR5/4KL上に赤褐色
2	土器型	平	11.9	5.3	3	内外面クロナゲ 底部斜削余切り 内面黒色處理	100	外面10YR7/4にぶい青褐色

第39表 M 3号溝状遺構遺物観察表



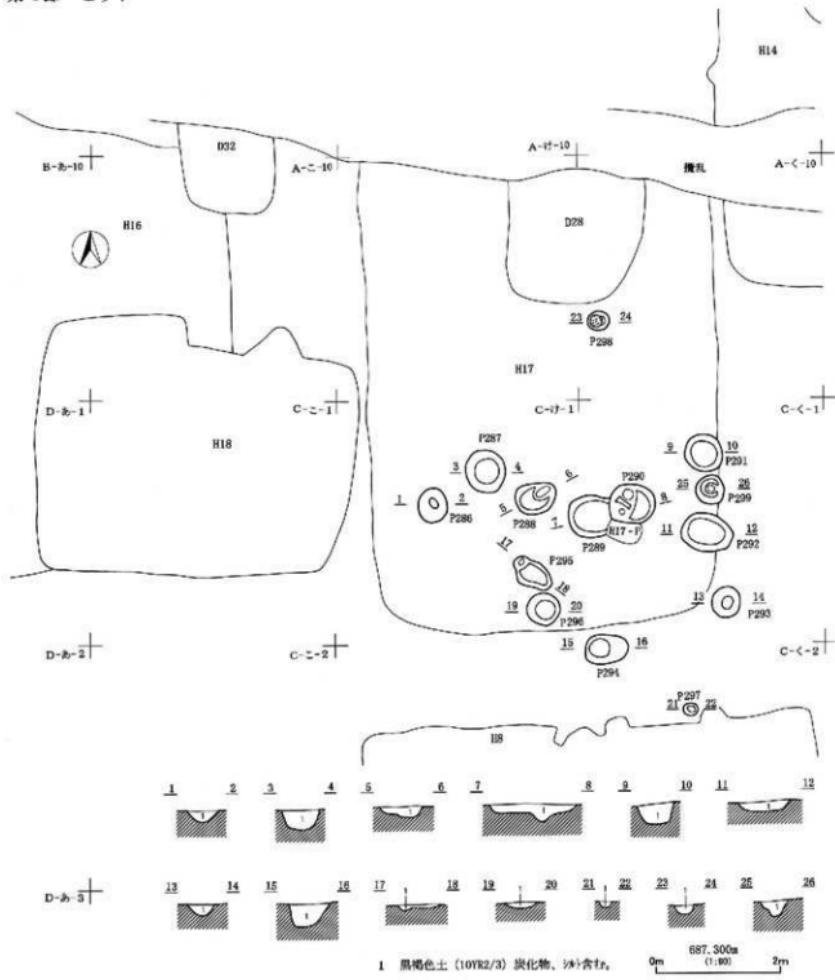
第64図 M 4号溝状遺構 遺構・遺物実測図

第65図 M 5号溝状遺構実測図

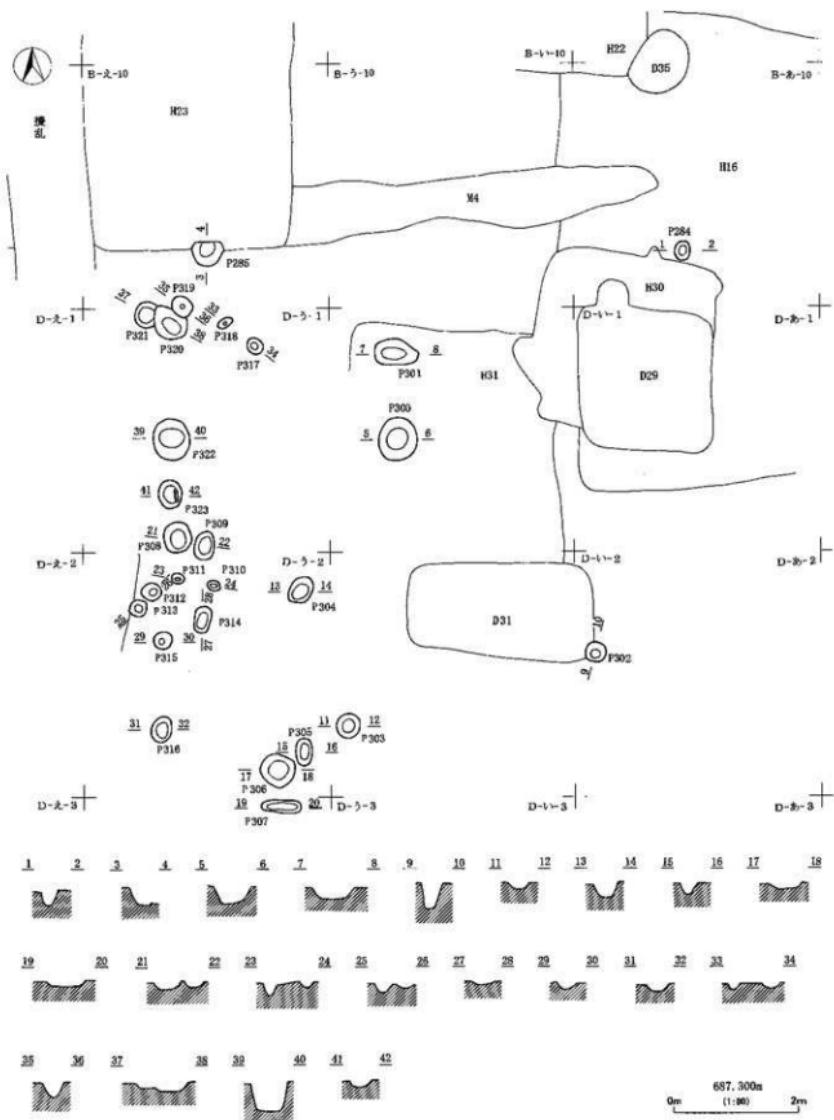
番号	遺物名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	性質・文様	保存率・部位	施号
1	土器器	壺	[13.8]	丸底	(5.2)	口縁内凹後ナギ 底部ハラケズリ 内外面摩耗	口縁-底部破片	外壁7.5R8/4にS4+褐色
2	土器器	壺	-	丸底	(8)	外筋ハラケズリ後ミガキ	胴部破片	外壁2.5YR6/6褐色
3	土器器	鉢	[15.0]	4.5	7.1	内外面赤色塗	30	外壁7.5R4/6赤色

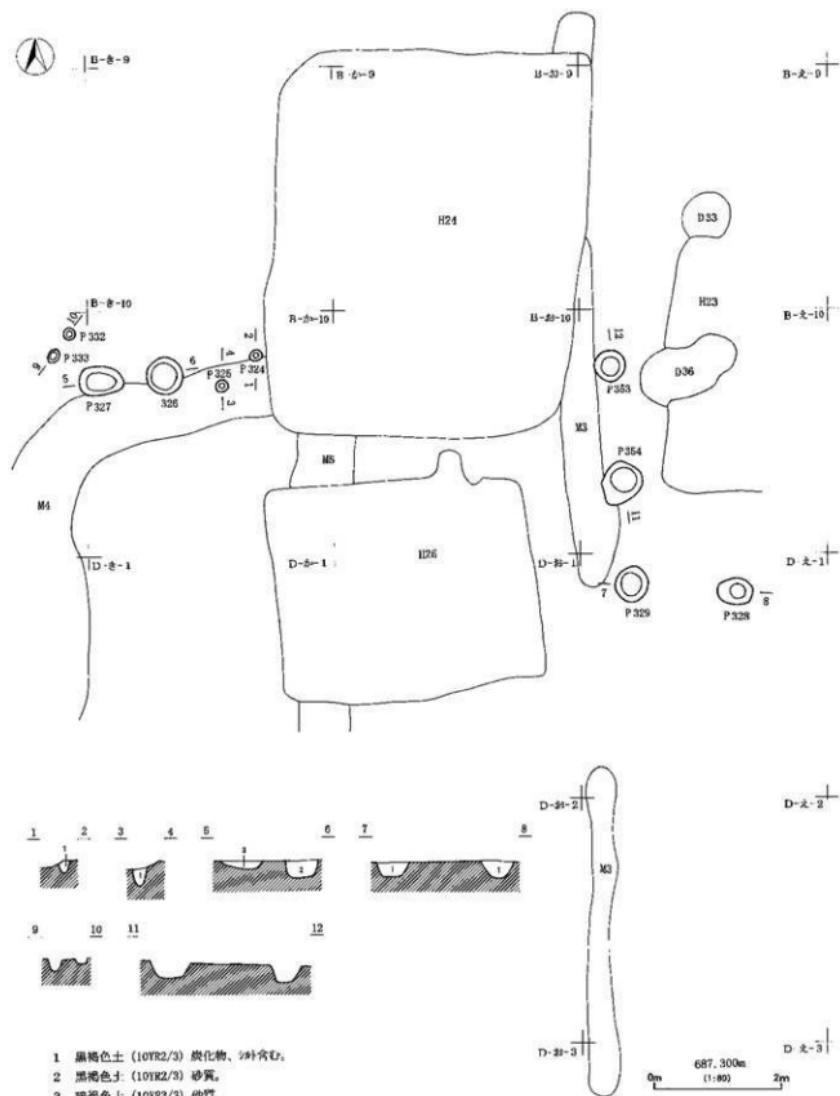
第40表 M.4号溝状遺構遺物観察表

第4節 ピット

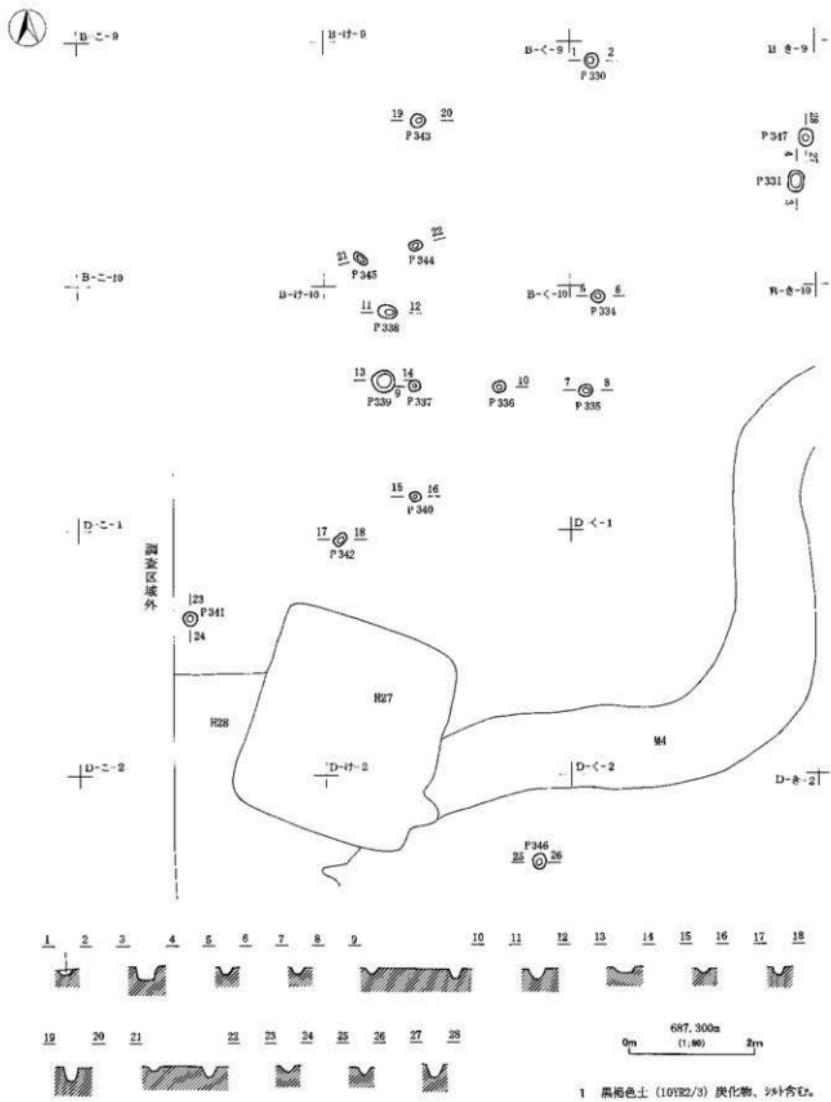


第66図 ピット実測図(1)

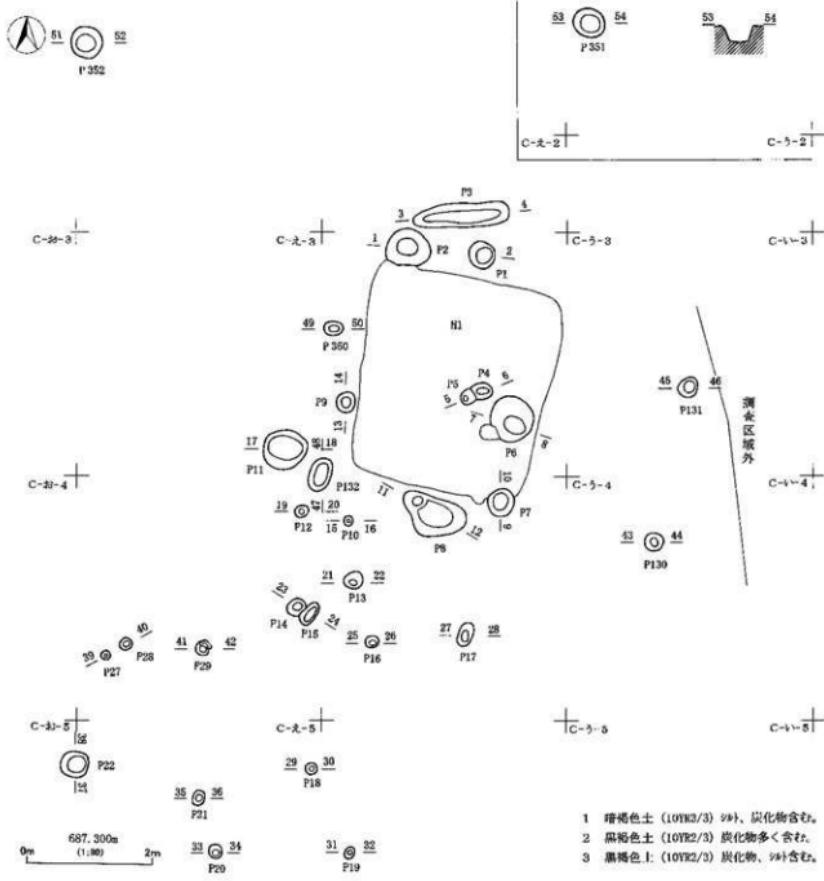




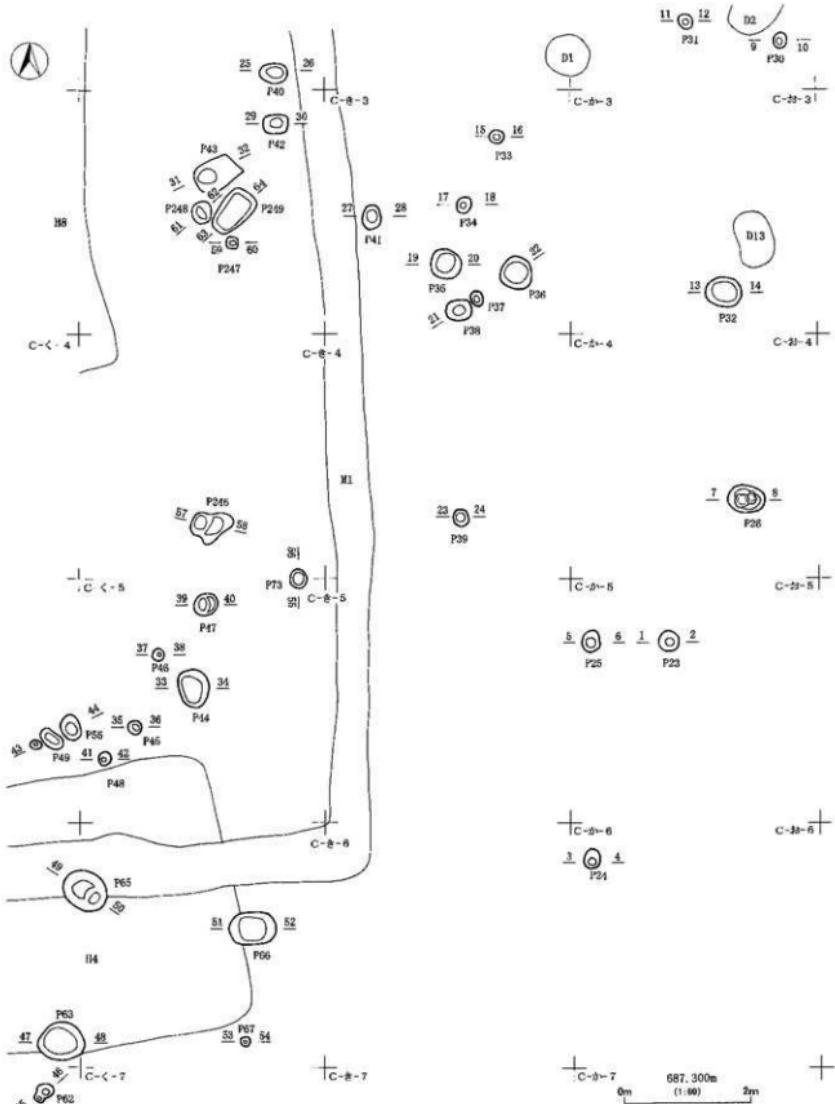
第68図 ピット実測図(3)



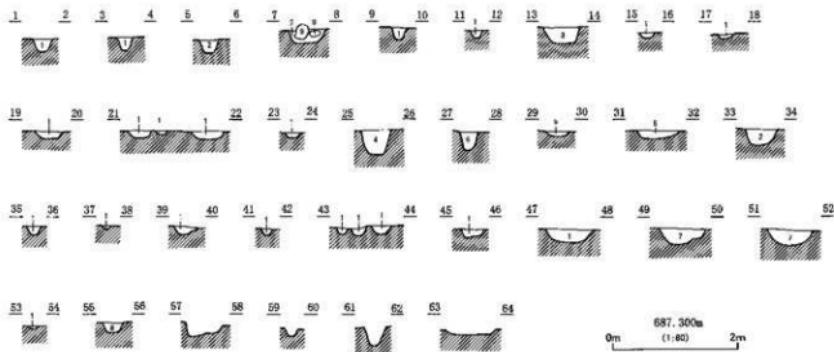
第69図 ピット実測図 (4)



第70図 ピット実測図 (5)



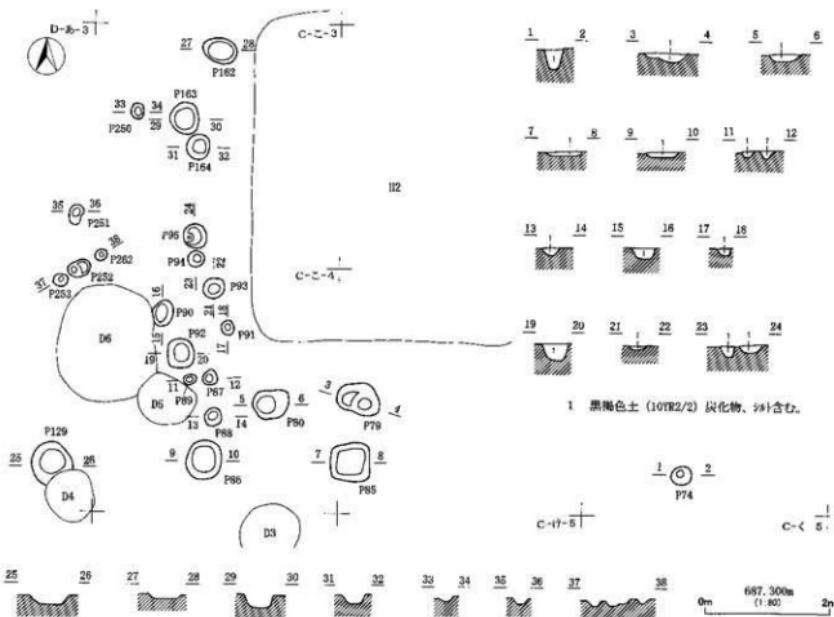
第71図 ピット実測図(6)-1



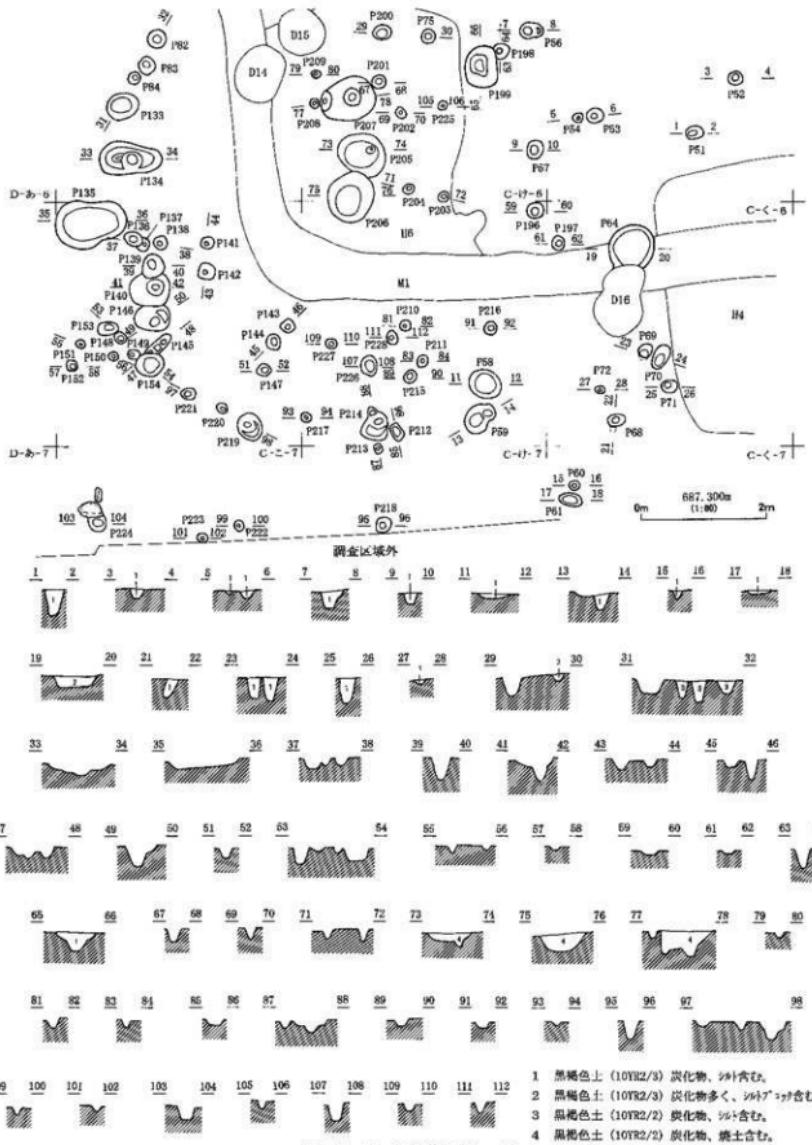
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、シメ含む。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、シメ含む。
 3 暗褐色土 (10YR2/4) シメ多く含む。
 4 暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘土多く、炭化物、シメ含む。

- 5 黒褐色土 (7.5YR2/2) 焙土少量、炭化物、シメ含む。
 6 暗黃褐色土 (10YR4/2) 炭化物、シメ含む。
 7 黑褐色土 (10YR2/3) 炭化物多く、シメ少々含む。
 8 黑褐色土 (10YR2/2) 炭化物、シメ含む。

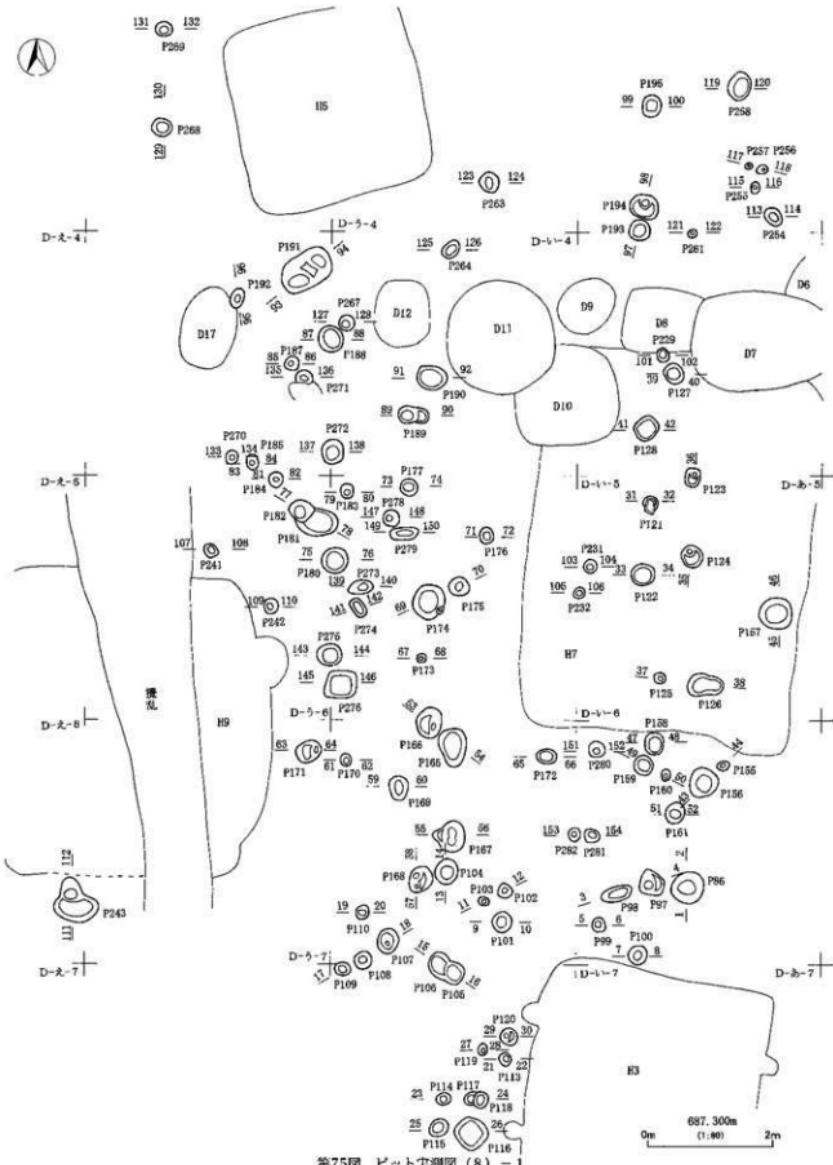
第72図 ピット実測図 (6) - 2



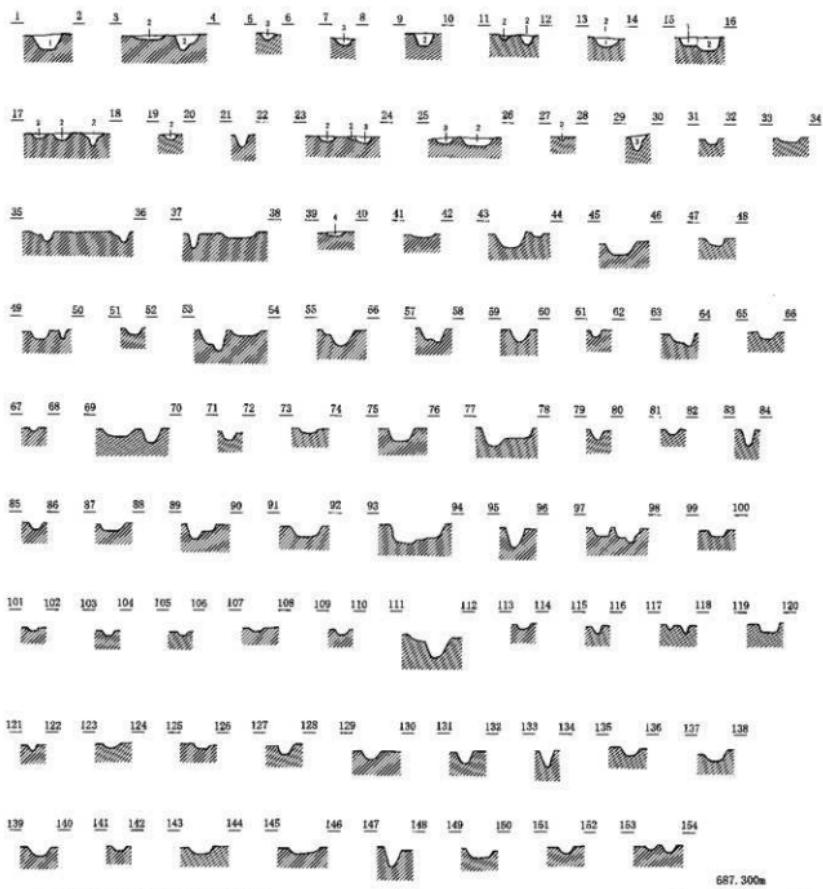
第73図 ピット実測図 (7) - 1



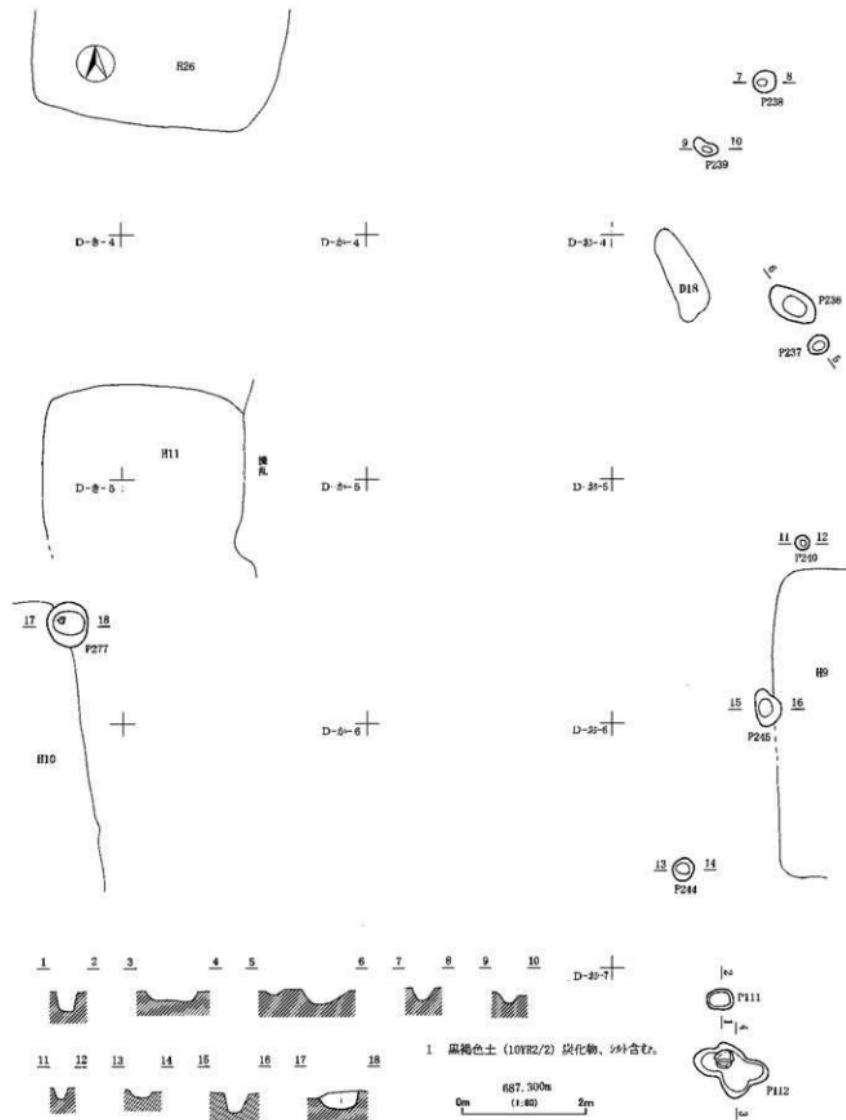
第74図 ピット実測図 (7) - 2



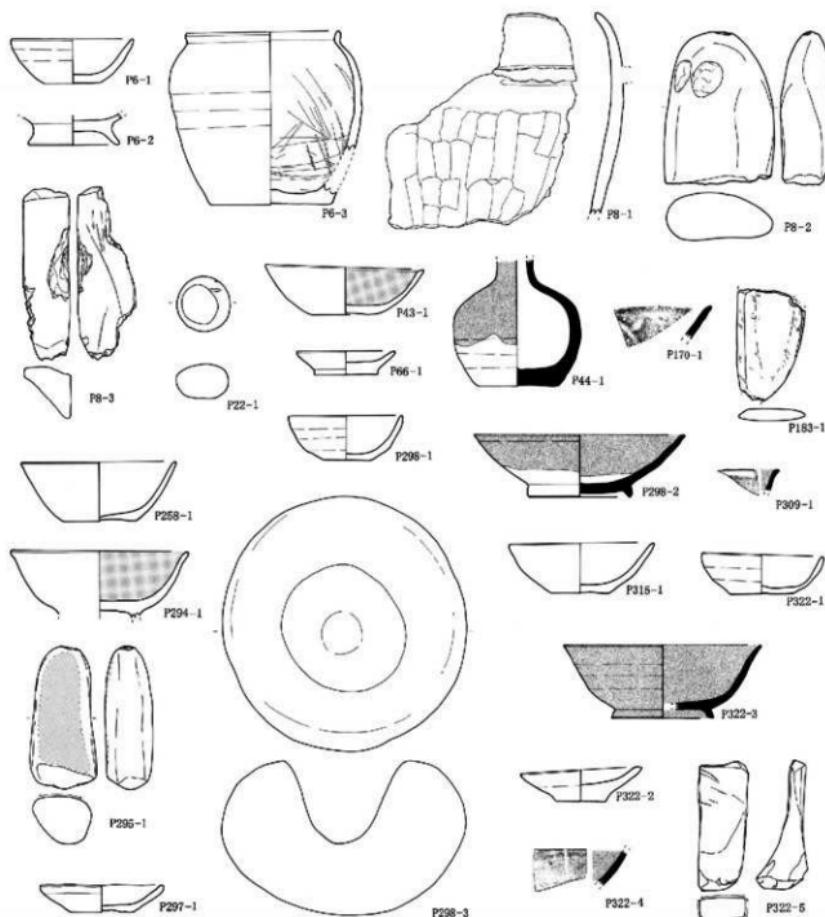
第75図 ピット炎湖図 (8)-1



第76図 ピット実測図 (8) - 2



第77図 ピット実測図 (9)



第78図 ピット出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	測定・文	換算率・部位	備考
P6-1	土器底	平	10.1	4.6	2.7	外面ロクロナデ 底部斜軸角切り	99	外面5YR8/4灰褐色
P6-2	土器底	鏡	—	7.5	(2.6)	底部斜軸角切り底面台形	底面・高台100	外面10YR7/4に近い黄褐色
P6-3	土器底	輪縁破	12.5	10.2	14.3	内外面ロクロナデ 内面斜報 底面斜角切り	70	外曲5YR8/6褐色
P6-4	土器底	剥落	—	—	(16.5)	剥落がP1 口縁横ナデ 外面縦ヘラケズリ 内面ナデ	口縁一回盛造片	外曲5YR4/1褐灰色
P6-5	土器底	鏡	12.9	5.4	4.1	外面ロクロナデ 底部斜軸角切り 底部斜面縫ヘラケズリ	80	外曲5YR8/3灰褐色
P6-6	瓦陶器	盤	—	6.5	(10.5)	ロクロナデ 底部斜軸角切り 底部斜面縫ヘラケズリ	口縁欠損	外曲7.5YR8/1灰白色

第41表 ピット出土遺物観察表(1)

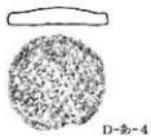
番号	形種	断面	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	測量・文書	残存率・部位	備考
F16-1	土師器	平	[8.1]	[5.2]	1.9	クロナデ 亂割刃削み切り	40	内外面7.5YR6/6褐色
F17-1	陶器	縁	—	—	—	亂割刃削み切り	口縁破片	内外面2.5YR6/3にぶい黄色
F28-1	土師器	平	[12.7]	[6.6]	4.9	外側クロナデ 亂割刃削み切り	35	外表面10YR7/3にぶい黃褐色
F29-1	土師器	縁	[14.6]	—	[5.3]	外側クロナデ 高台割れが付 内面黑色透進	35	外表面10YR3/2灰黑色
F30-1	土師器	平	10.2	5.2	2.3	内外面クロナデ 亂割刃削み切り 亂割刃全体に通ひ	60	外表面10YR7/4Cにぶい黃褐色
F30-2	土師器	平	6.3	4	3.7	内外面クロナデ 亂割刃削み切り	99	外表面7.5YR8/3浅米褐色
F30-3	灰陶器の部	縁	[17.1]	8.4	5.15	内外面クロナデ 高台削除し切り後高台付 ハケ彫り?	60	外表面2.5YR7/1灰白色
F30-4	縁物容器	縁?	—	—	—	内外面クロナデ 縁物	口縁破片	外表面7.5YR4/3暗オリーブ色
F31-1	土陣器	平	11.75	4.8	4.2	内外面クロナデ 亂割刃削み切り	100	内外面10YR7/4Cにぶい黃褐色
F32-2	土師器	平	10	5.1	3.4	内外面クロナデ 亂割刃削み切り	90	外表面7.5YR6/3にぶい褐色
F32-3	土師器	平	9.8	3.9	2.9	内外面クロナデ 亂割刃削み切り	95	外表面7.5YR7/1褐色
F32-4	縁物容器	縁	[16.1]	[8.3]	6	内外面クロナデ 亂割刃削み切り後高台付	30	内外面10YR5/2オーリーブ色
F32-5	縁物容器	縁	—	—	—	内外面クロナデ 内面沈殿	体部破片	内外面7.5YR5/3灰オリーブ色

第42表 ピット出土遺物観察表(2)

番号	形種	断面	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	測量・文書	重量(g)
F9-2	石器	すり石	(12.6)	(8.9)	3.9	斜削欠損 先端部剝離か?	762.04
F9-3	石器	磨石	14.1	3.8	4.8	上下・側面に敲打痕 使用による条痕あり	264.73
F22-1	石器	すり石	4.5	4.25	2.9	丸面にすり跡	56
F18-1	石器	石臼	(9.2)	5.6	1	孔口ぞり 孔径 (0.4)	74.32
F29-2	石器	磨石	11.7	3.5	3.9	正面直面 上・下理彌散鋸歯	390.36
F29-3	石製品	磨臼	20.9	20	12.7	中央に径9.5×10.5、深さ6.8cmの空洞	6,310
F22-2	石製品	美石	(10.5)	(4.1)	3.5	裏面5 下部に鮮明な条痕 斜削欠損	139.42

第43表 ピット出土石器・石製品観察表

第5節 遺構外遺物



第79図 遺構外遺物実測図

番号	器種	断面	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	測量・文書	重量(g)
D-あ-4	土師器	土師円盤?	8.2	8.2	1.4	底部削除か? 片面部欠損	
D-う-6	土製品	沿口	(6.3)	(5.5)	2.4	外周削り後ナデ 白色粘合粒子混じ	

第44表 遺構外遺物観察表



中堰道路南側調査区全景（北東から）



中堰道路南側調査区全景(北西から)



中堀遺跡北側調査区全景（北東から）



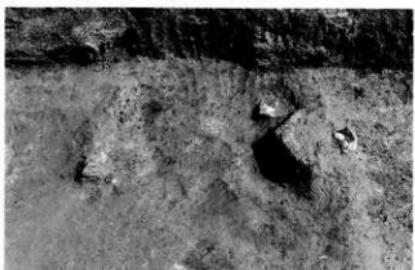
中堀遺跡北側調査区全景（西から）



H 1号住居址塹方全景（南から）



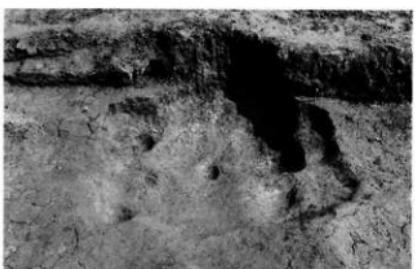
H 2号住居址全景（南から）



H 2号住居址北カマド（南から）



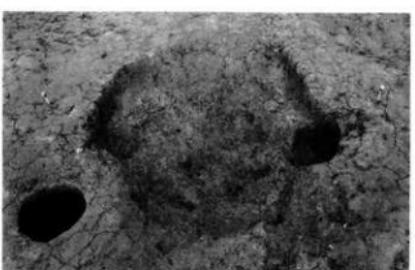
H 2号住居址北カマド石材（南から）



H 2号住居址北カマド掘方（南から）



H 2号住居址東カマド（西から）

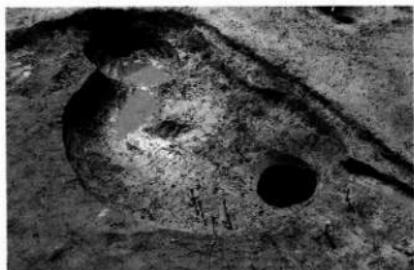


H 2号住居址東カマド掘方（西から）



H 2号住居址東北コーナー遺物出土状況

図版
4



H 2号住居址南東コーナー土坑



H 2号住居址遺物出土状況



H 2号住居址遺物出土状況



H 2号住居址遺物出土状況



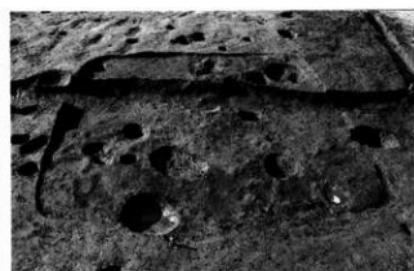
H 3号住居址全景（南から）



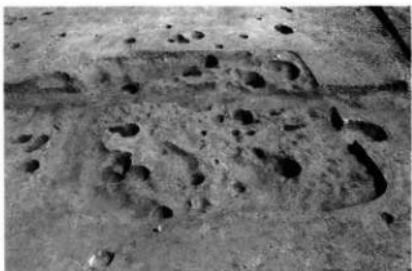
H 3号住居址網方全景（南から）



H 3号住居址遺物出土状況



H 4号住居址全景（南から）



H 4 号住居址掘方全景（南から）



H 5 号住居址全景（南から）



H 5 号住居址カマド（南から）



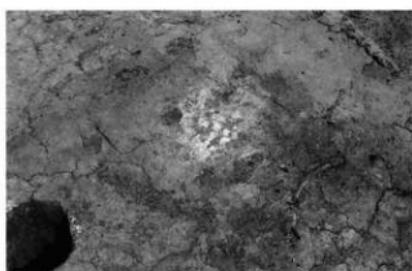
H 5 号住居址掘方全景（南から）



H 5 号住居址カマド掘方（南から）



H 6 号住居址全景（南から）



H 6 号住居址カマド（西から）



H 6 号住居址カマド掘方（西から）

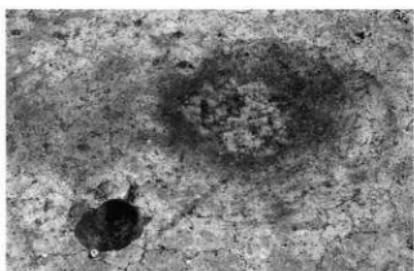
図版 6



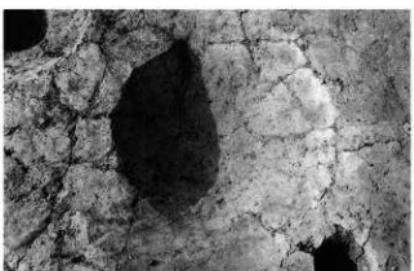
H 6号住居址掘方全景（南から）



H 7号住居址全景（東から）



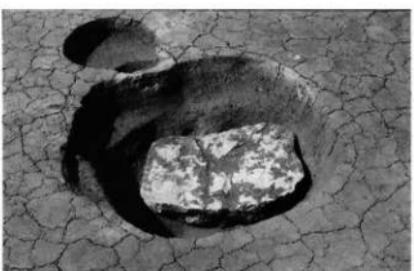
H 7号住居址炉跡



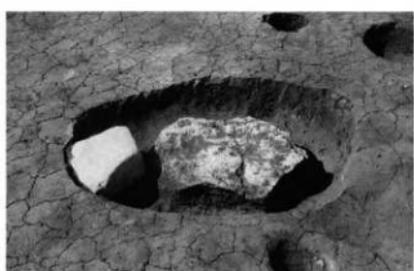
H 7号住居址炉跡掘方



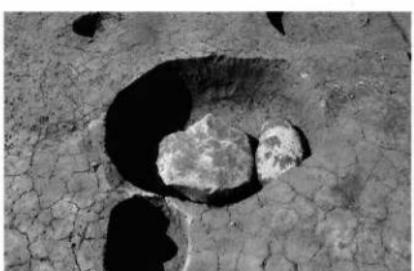
H 8号住居址全景（南から）



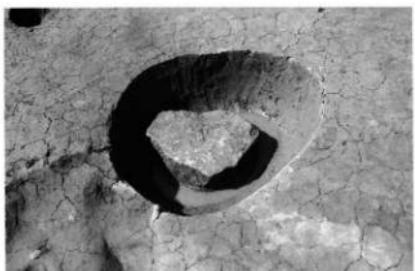
H 8号住居址主柱穴P4礫石



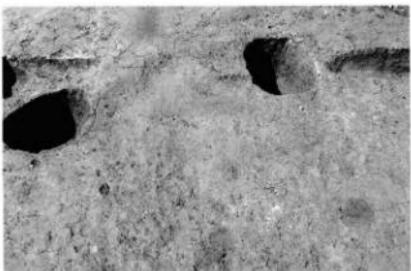
H 8号住居址主柱穴P3礫石



H 8号住居址主柱穴P1礫石



H 8号住居址主柱穴P 2 碓石



H 8号住居址カマド（南から）



H 8号住居址カマド掘方（南から）



H 8号住居址掘方全景（南から）



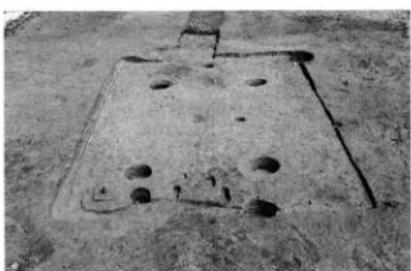
H 9号住居址全景（南から）



H 9号住居址掘方全景（南から）

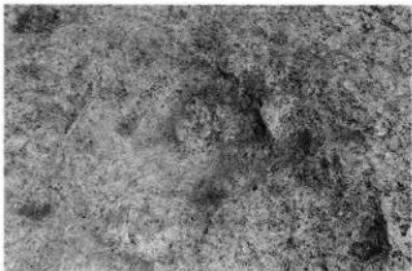


H 9号住居址遺物出土状況

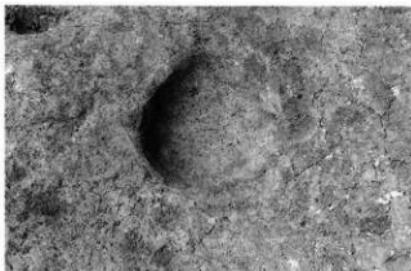


H 10号住居址全景（南から）

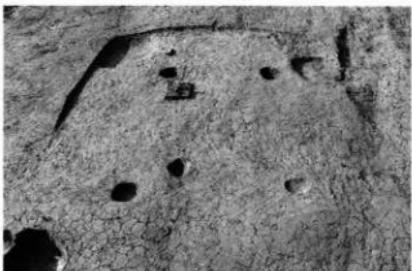
図版
8



H10号住居址炉跡



H10号住居址炉跡掘方



H11号住居址全景（南から）



H12号住居址全景（西から）



H12号住居址遺物出土状況



H13号住居址南側部分（西から）



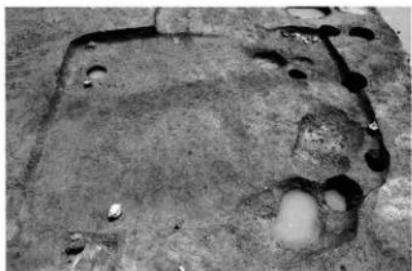
H13号住居址北側部分（南から）



H14号住居址全景（南から）



H14号住居址カマド掘方（北西から）



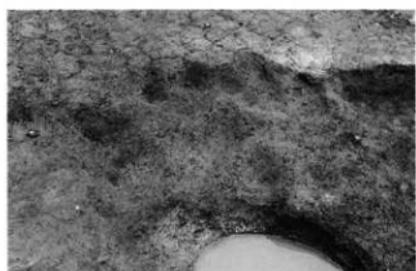
H15号住居址全景（西から）



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址カマド（北西から）



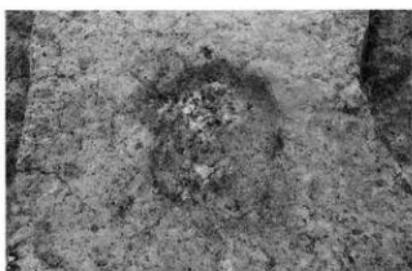
H15号住居址カマド掘方（西から）



H15号住居址全景（西から）

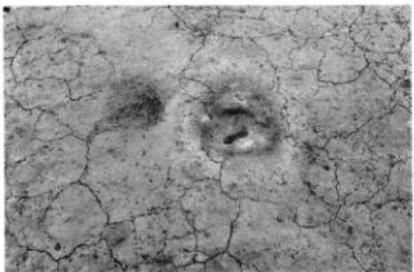


H16号住居址全景（南から）



H16号住居址炉跡

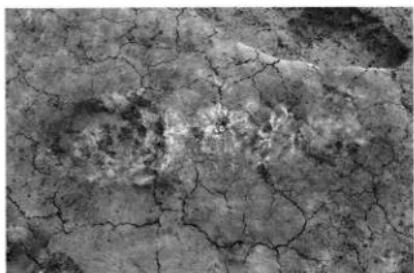
図版
10



H16号住居址炉跡（覆土除去状況）



H17号住居址全景（東から）



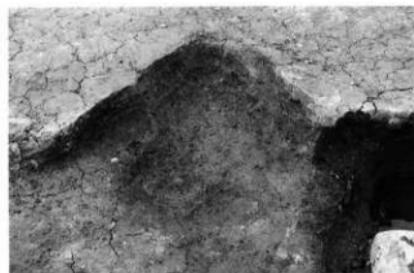
H17号住居址炉跡



H17内P298号ピット出土掘臼出土状況



H18号住居址全景（南から）



H18号住居址カマド（南から）



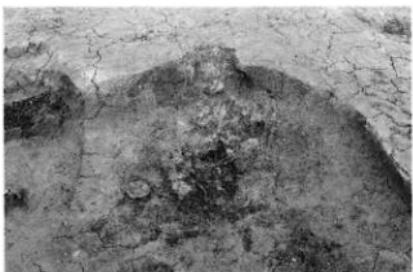
H18号住居址カマド掘方（南から）



H18号住居址掘方全景（南から）



H19号住居址全景（南西から）



H19号住居址カマド（西から）



H19号住居址カマド掘方（西から）



H19号住居址掘方（南から）



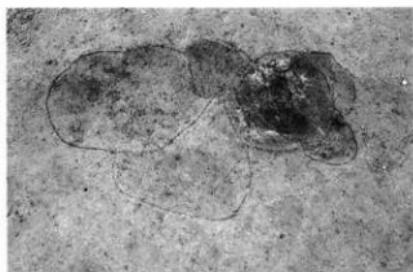
H20号住居址全景（南から）



H20号住居址掘方全景（南から）



H21号住居址全景（南から）



H21号住居址鍛冶関連遺構？

図版
12



H22号住居址全景（南から）



H23号住居址全景（南から）



H23号住居址カマド（南から）



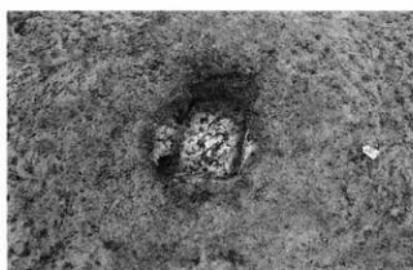
H23号住居址カマド掘方（南から）



H23号住居址掘方全景（南から）



H24号住居址全景（南から）



H24号住居址炉跡



H24号住居址南壁際遺物出土状況



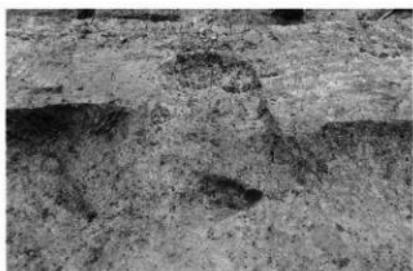
H24号住居址南西壁際遺物出土状況



H24号住居址南東コーナー遺物出土状況



H25号住居址全景（南から）



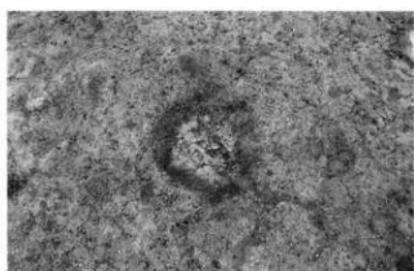
H25号住居址カマド（南から）



H25号住居址掘方全景（南から）



H26号住居址全景（東から）



H26号住居址妙跡



H26号住居址遺物出土状況



H26号住居址遺物出土状況



H27号住居址全景（西から）



H27号住居址カマド（西から）



H27号住居址カマド掘方（西から）



H27・28号住居址掘方（南から）



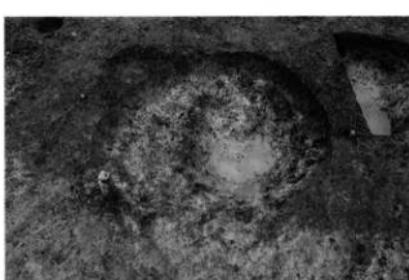
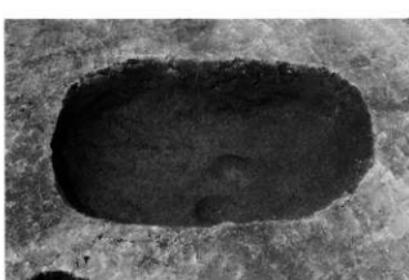
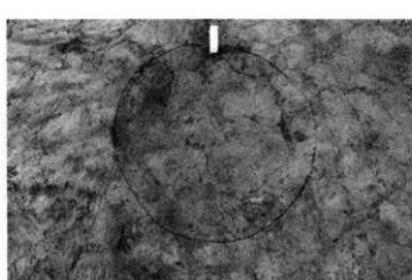
H28号住居址全景（南から）

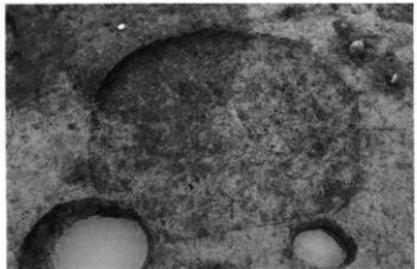


H27・28号住居址ピット掘り下げ後状態（南から）



H28号住居址カマド（西から）





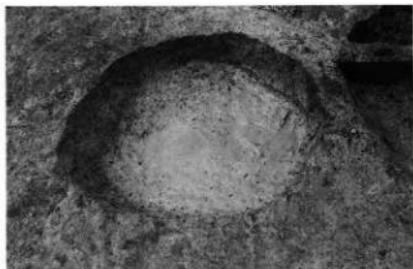
D 5・6号土坑全景



D 7号土坑全景



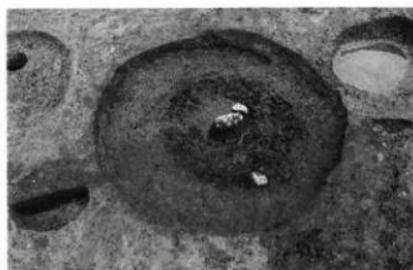
D 8号土坑全景



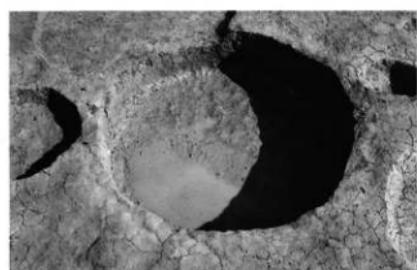
D 9号土坑全景



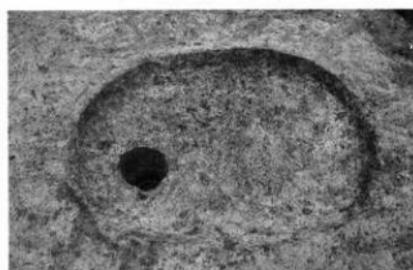
D 10号土坑全景（東から）



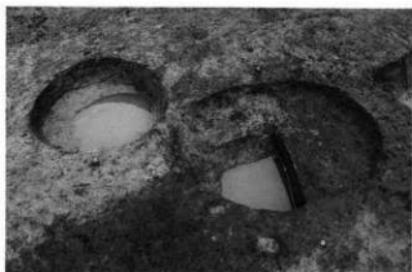
D 11号土坑炭化層確認状況



D 11号土坑完掘状況全景



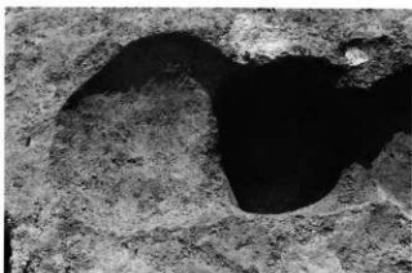
D 12号土坑全景



D14・15号土坑全景



D16号土坑遺物出土状況



D16号土坑全景



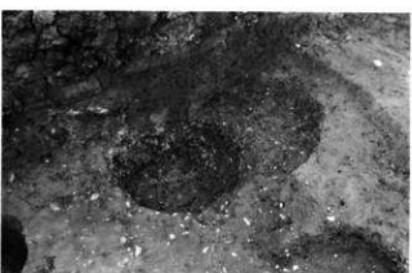
D17号土坑全景



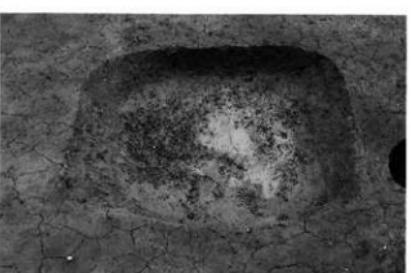
D18号土坑全景



D19号土坑全景



D20号土坑全景



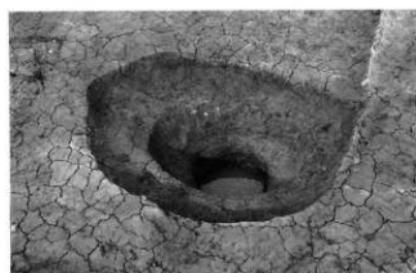
D21号土坑全景



D22号土坑全景



D23号土坑全景



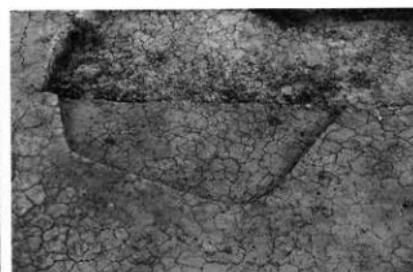
D24号土坑全景



D25号土坑全景



D26号土坑全景



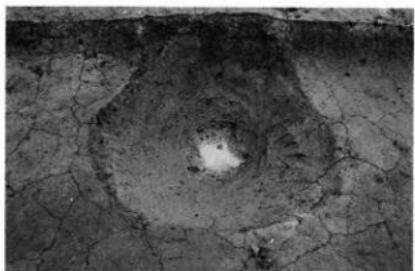
D27号土坑全景



D28号土坑全景



D29号土坑全景



D30号土坑全景



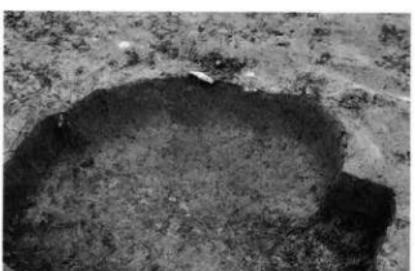
D31号土坑全景



D32号土坑羽口出土状况



D32号土坑全景



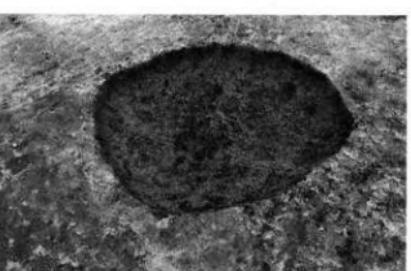
D34号土坑全景



D35号土坑全景



D36号土坑全景



D37号土坑全景



南側調査区M 1号溝状遺構全景（東から）



北側調査区M 1号溝状遺構全景（東から）



M 2号溝状遺構全景（南から）



M 4号溝状遺構全景（西から）



M 5号溝状遺構全景（北から）



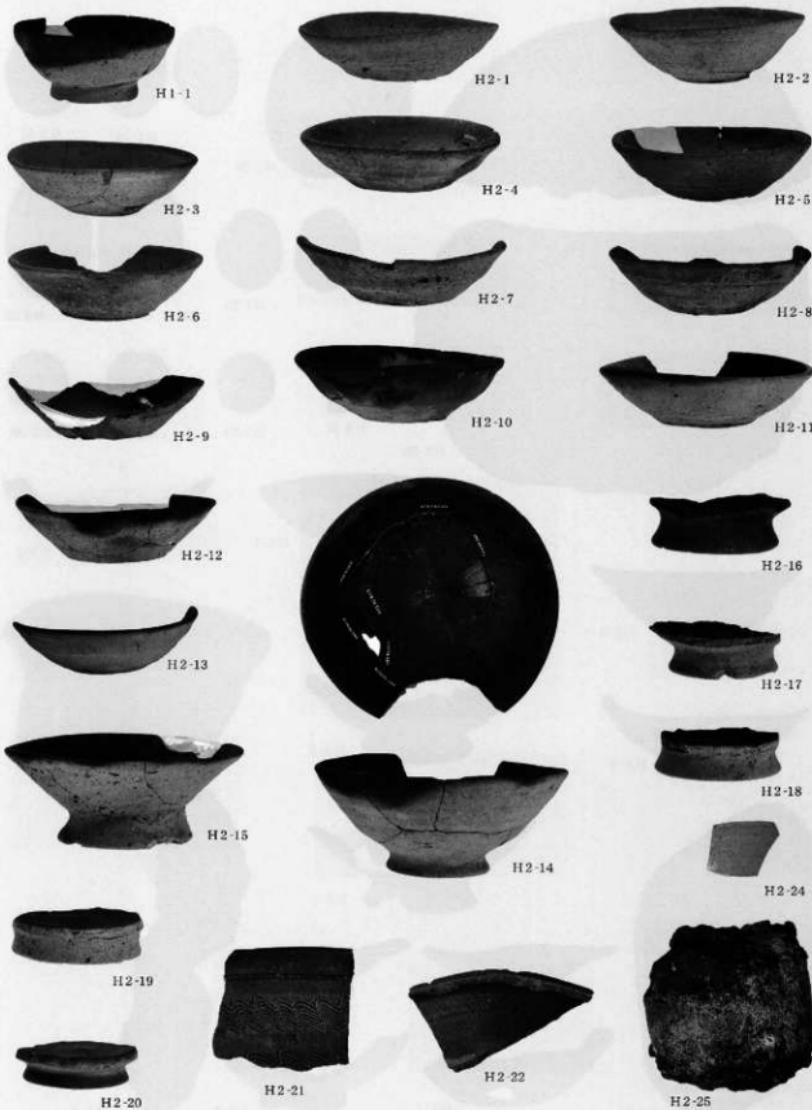
南側調査区表土除去作業



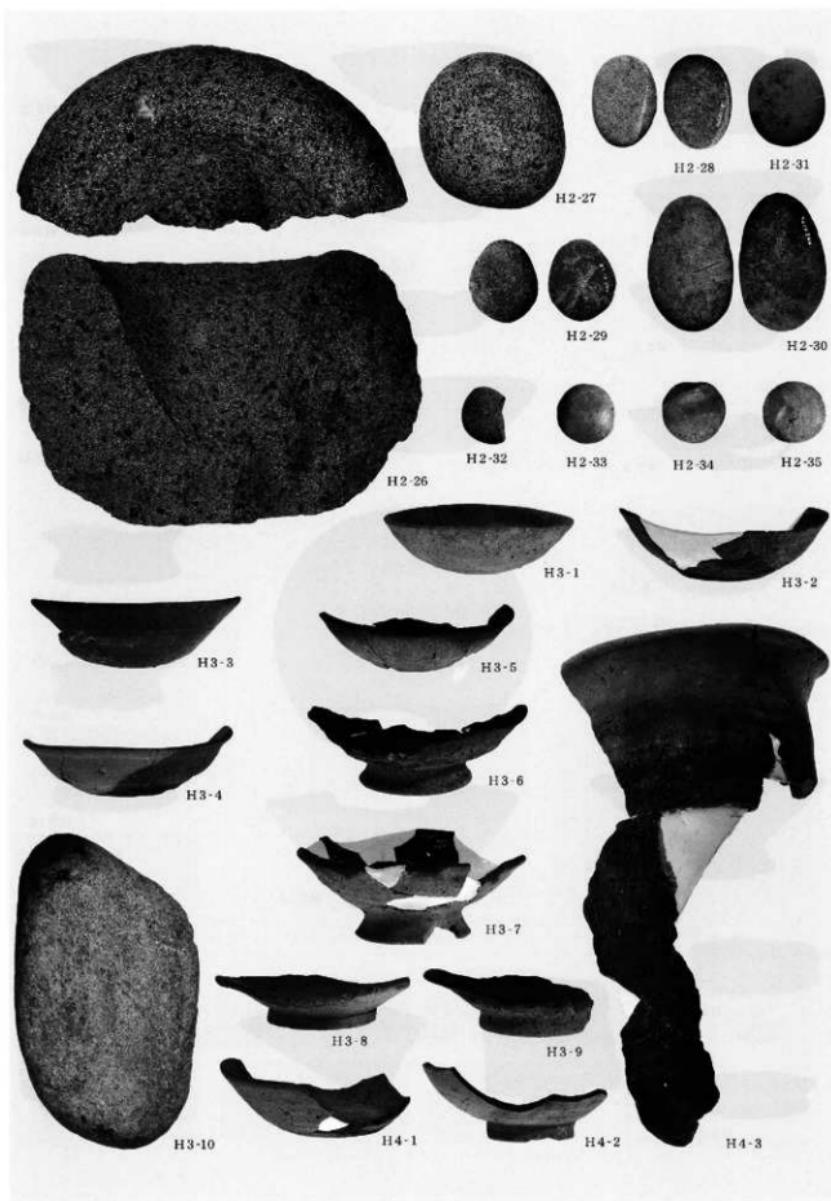
北側調査区表土除去作業



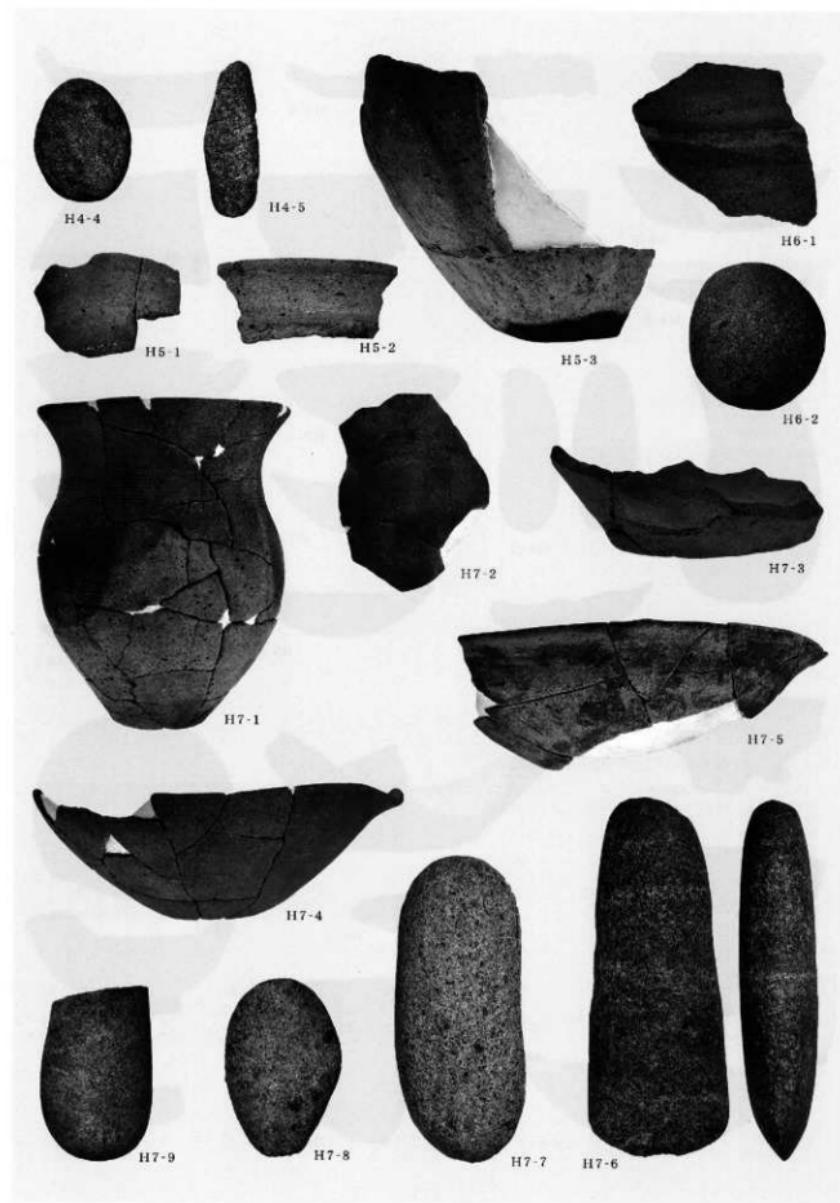
調査風景



H1・2号住居址出土遺物

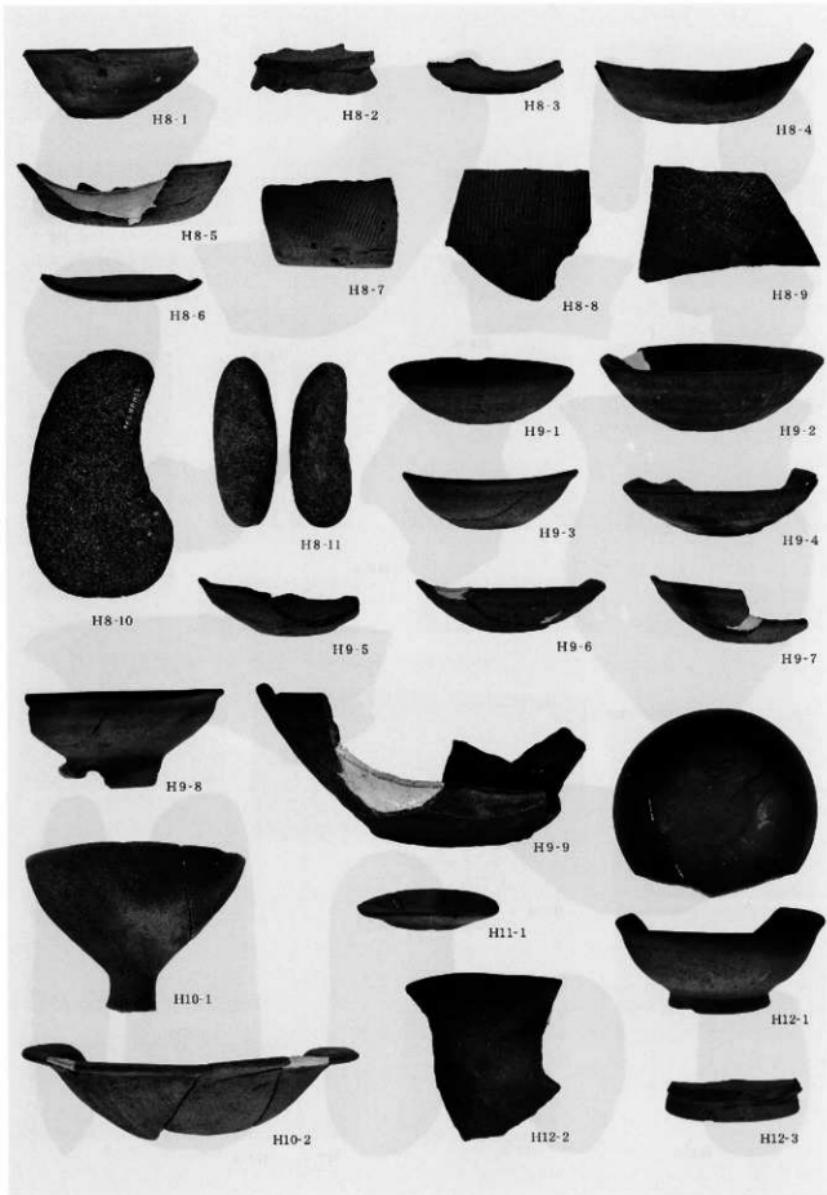


H2・3・4号住居址出土遺物

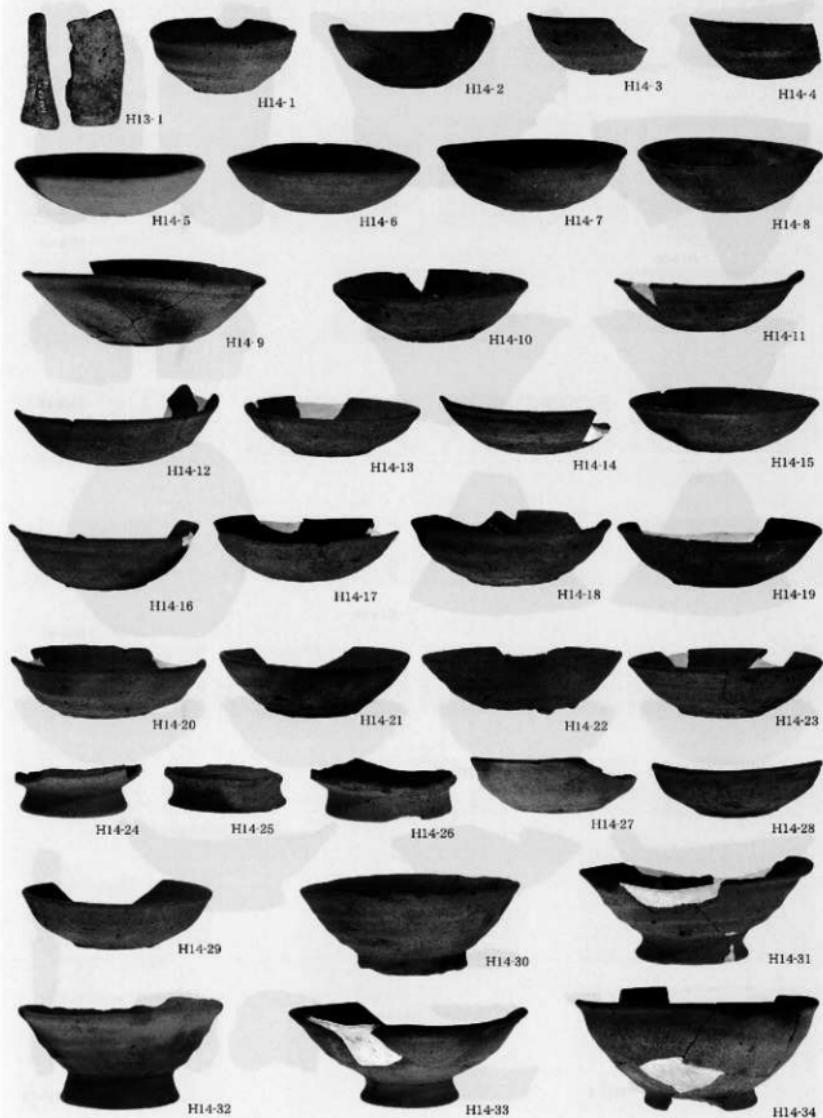


H4・5・6・7号住居址出土遺物

図版
24

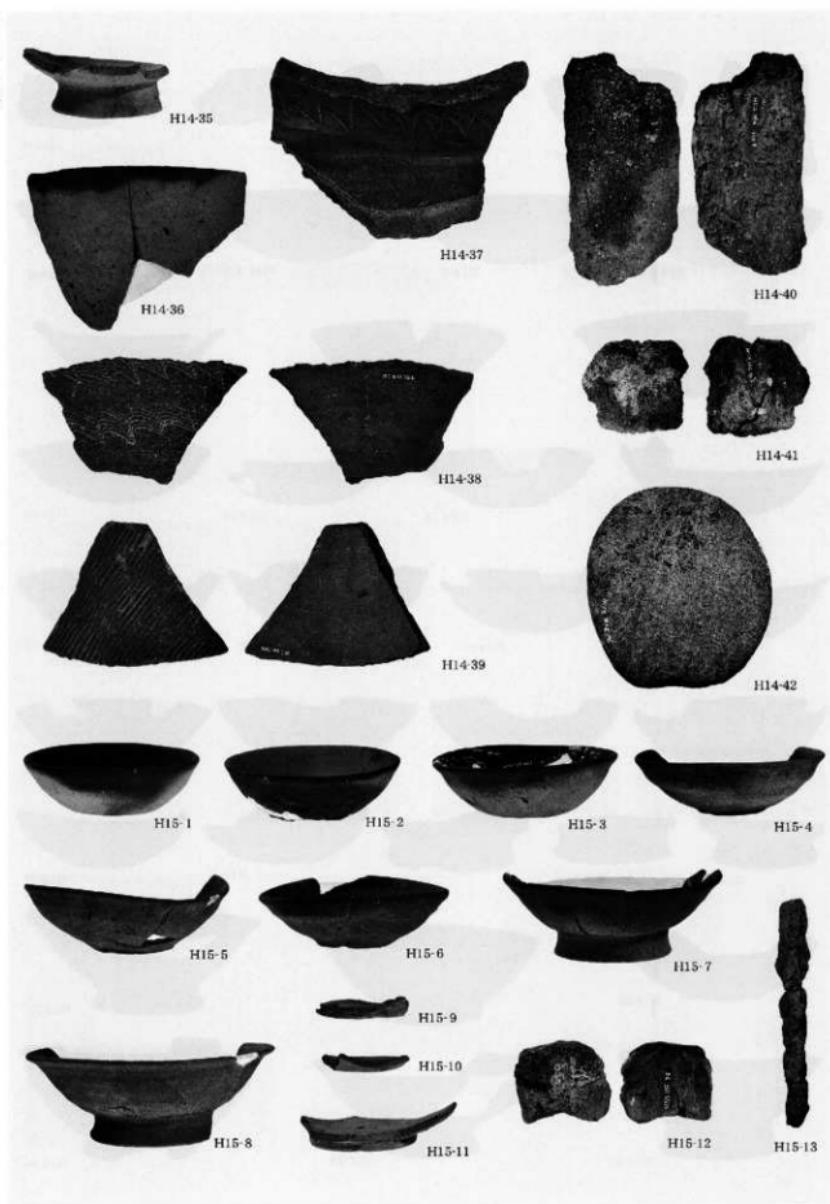


H 8・9・10・11・12号住居址出土遺物

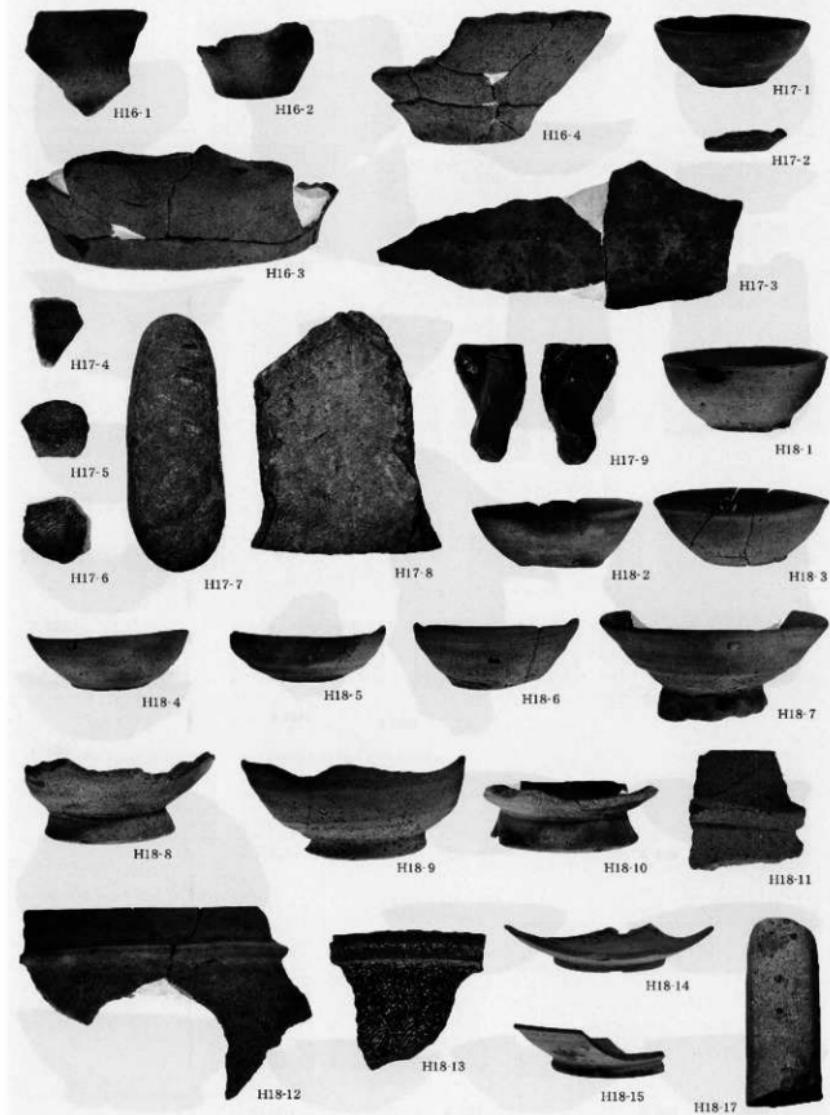


H13・14号住居址出土遺物

図版
26

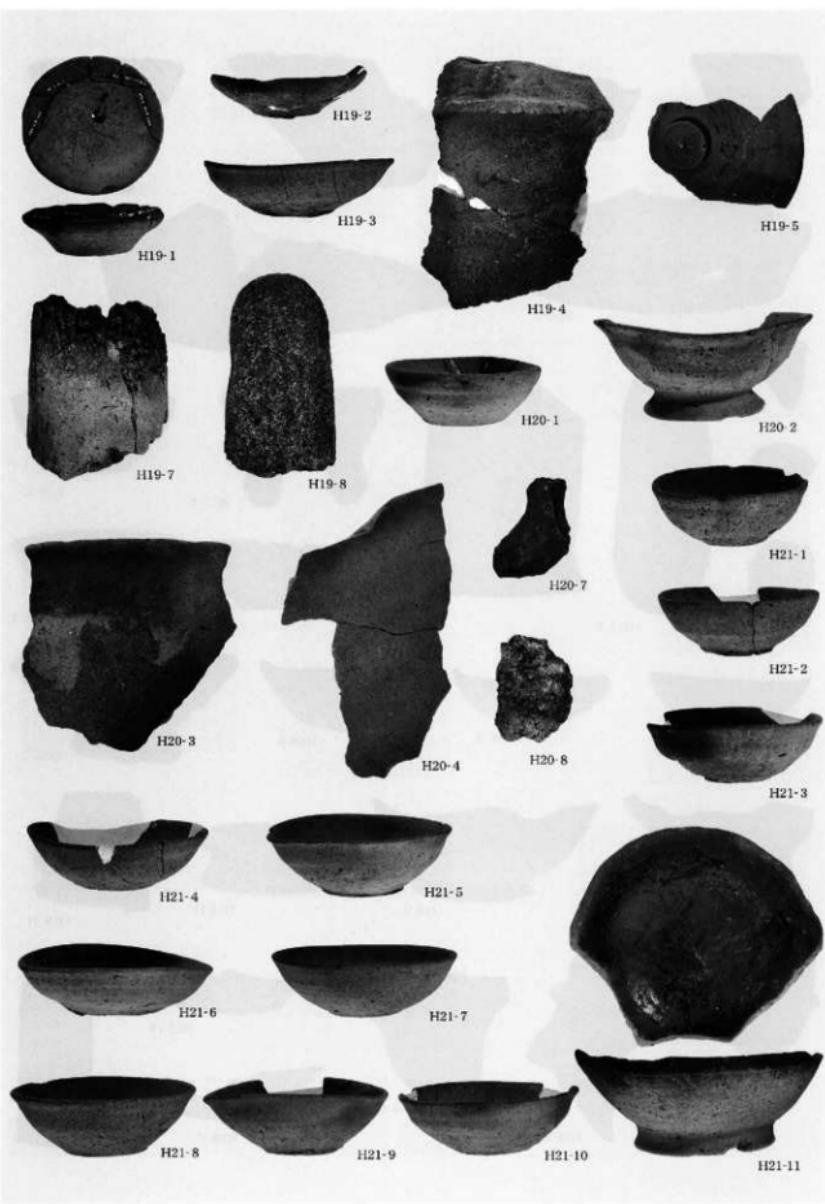


H14・15号住居址出土遺物

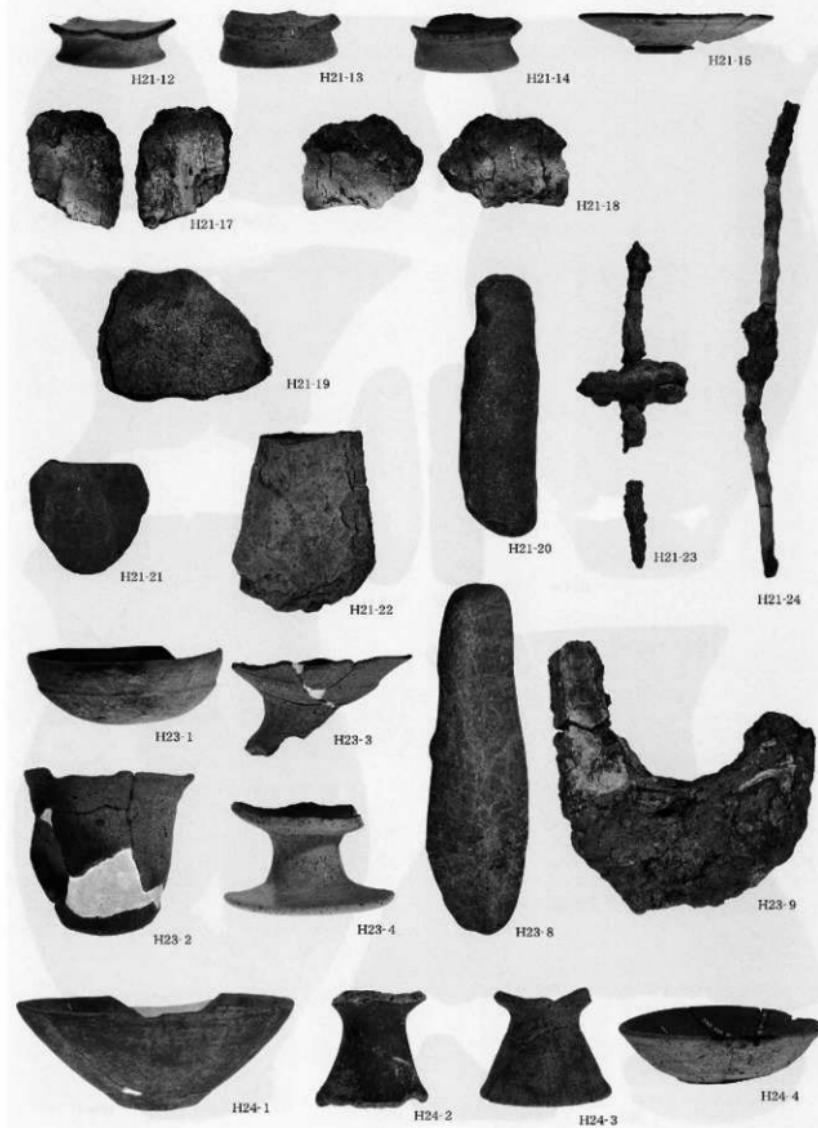


H16-17・18号住居址出土遺物

図版
28

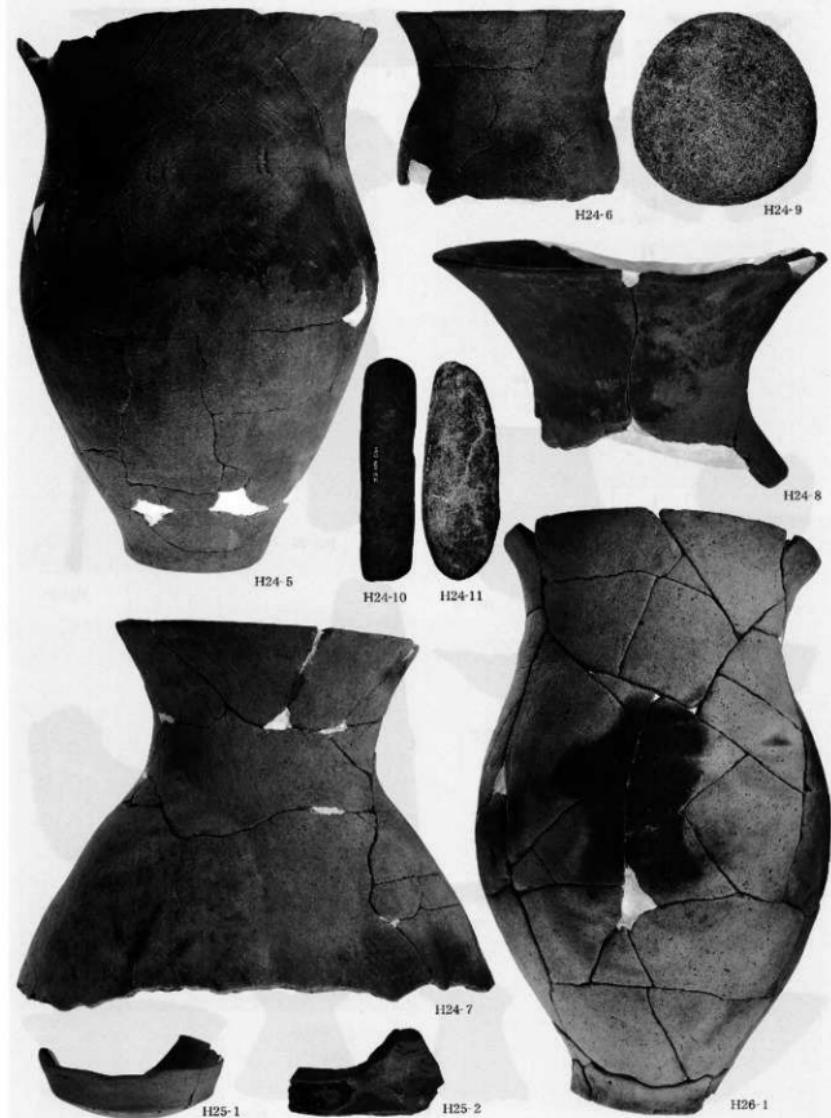


H19-20-21号住居址出土遺物

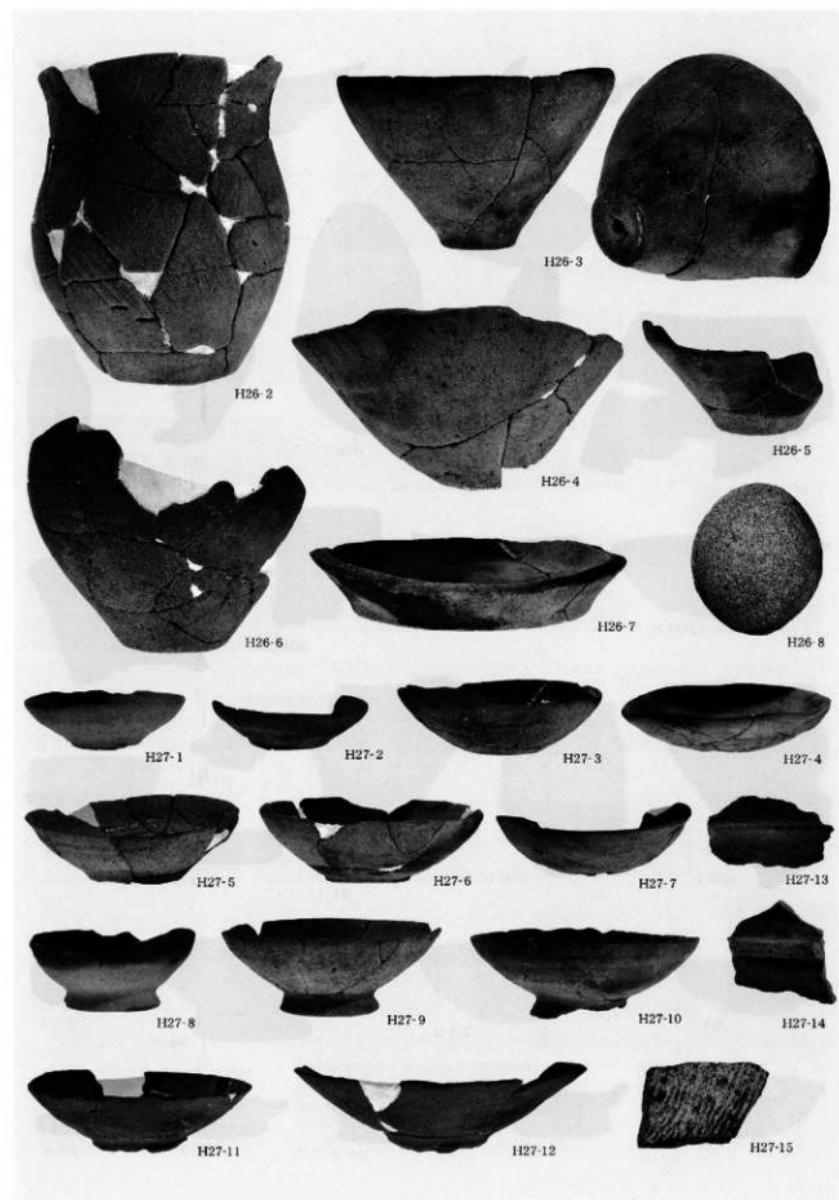


H21・23・24号住居址出土遺物

図版
30

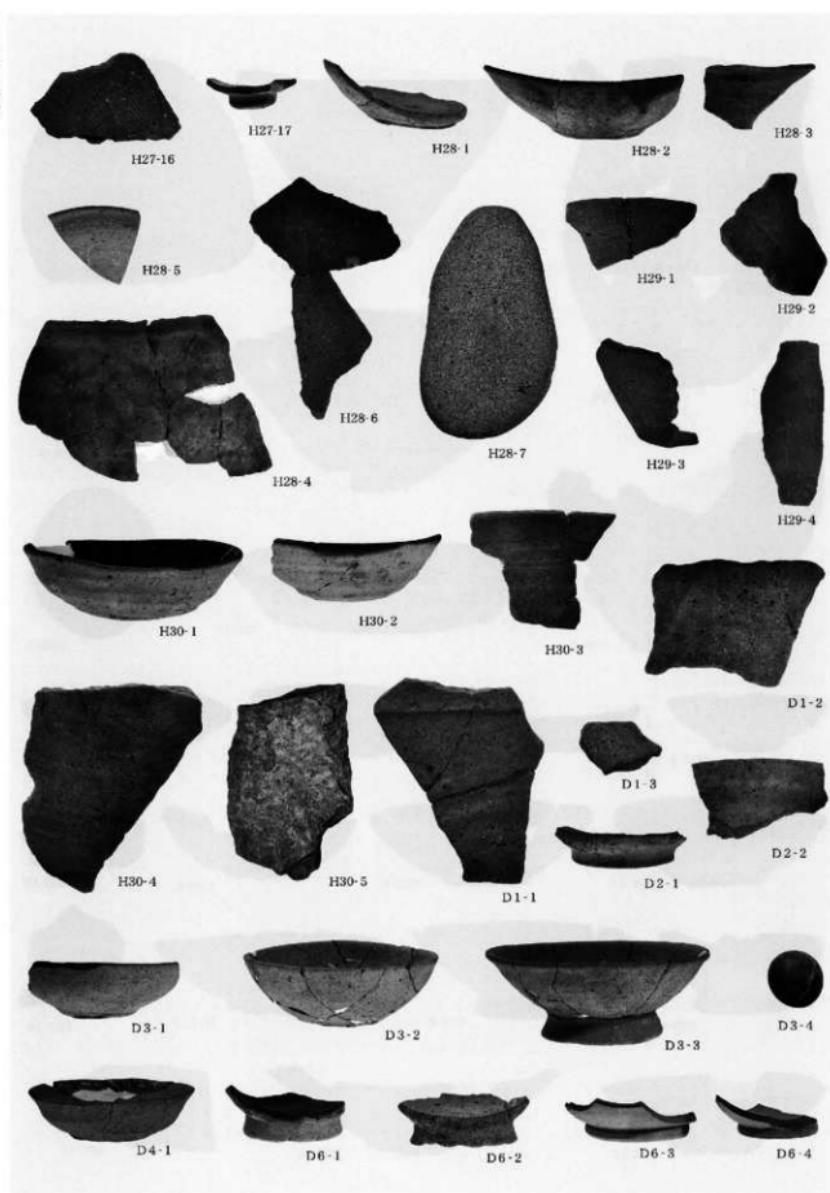


H24・25・26号住居址出土遺物

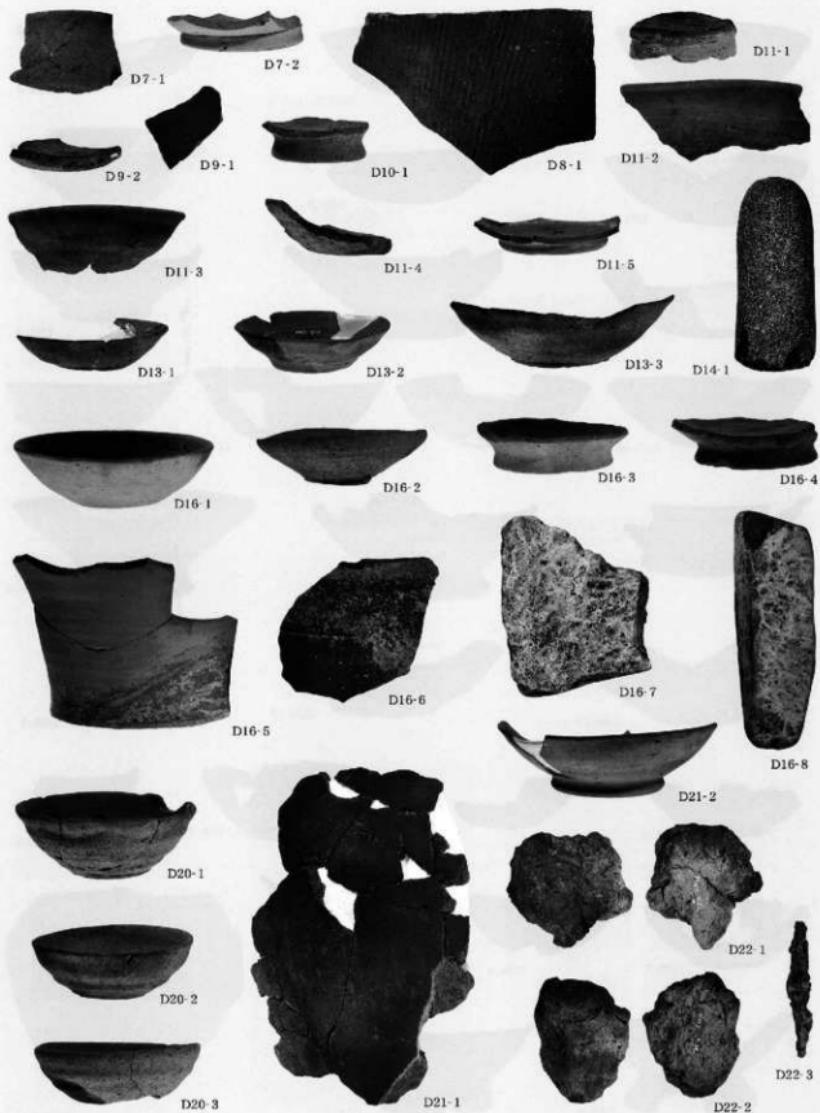


H26・27号住居址出土遺物

図版
32

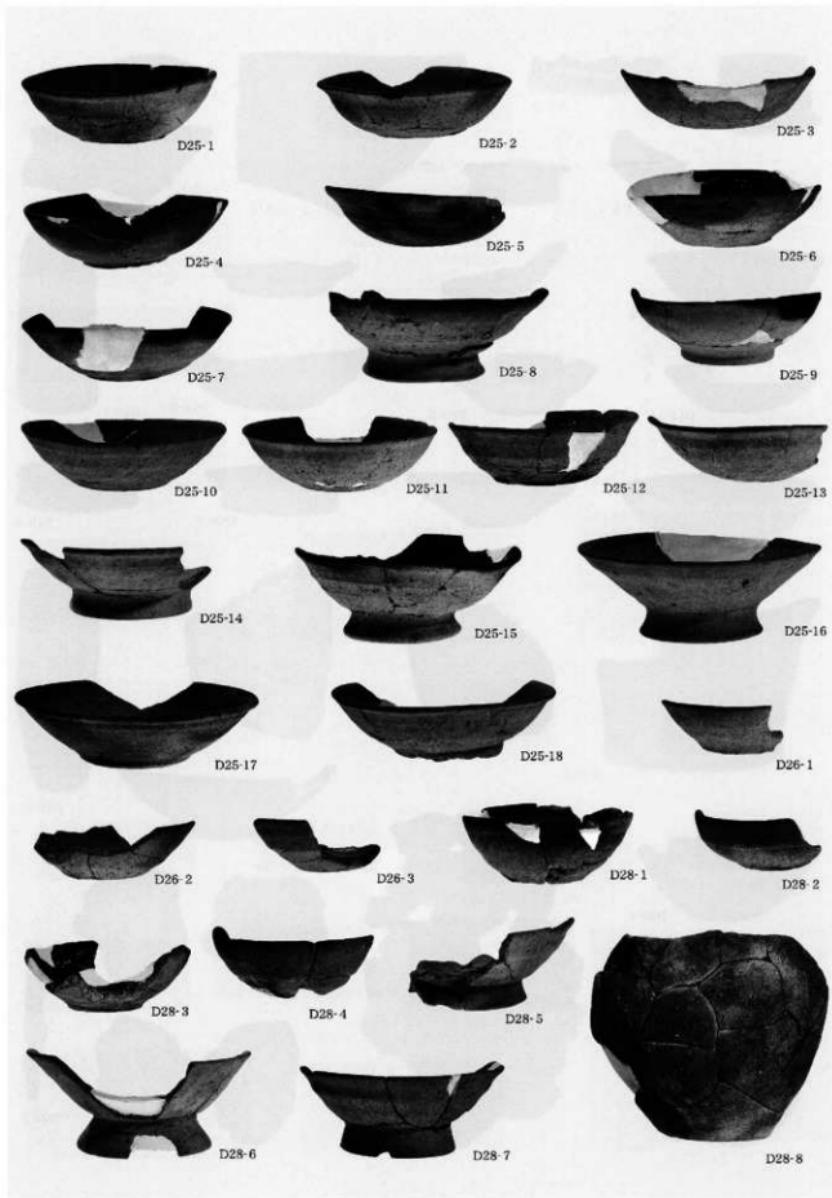


H27・28・29・30号住居址、D 1・2・3・4・6号土坑出土遺物

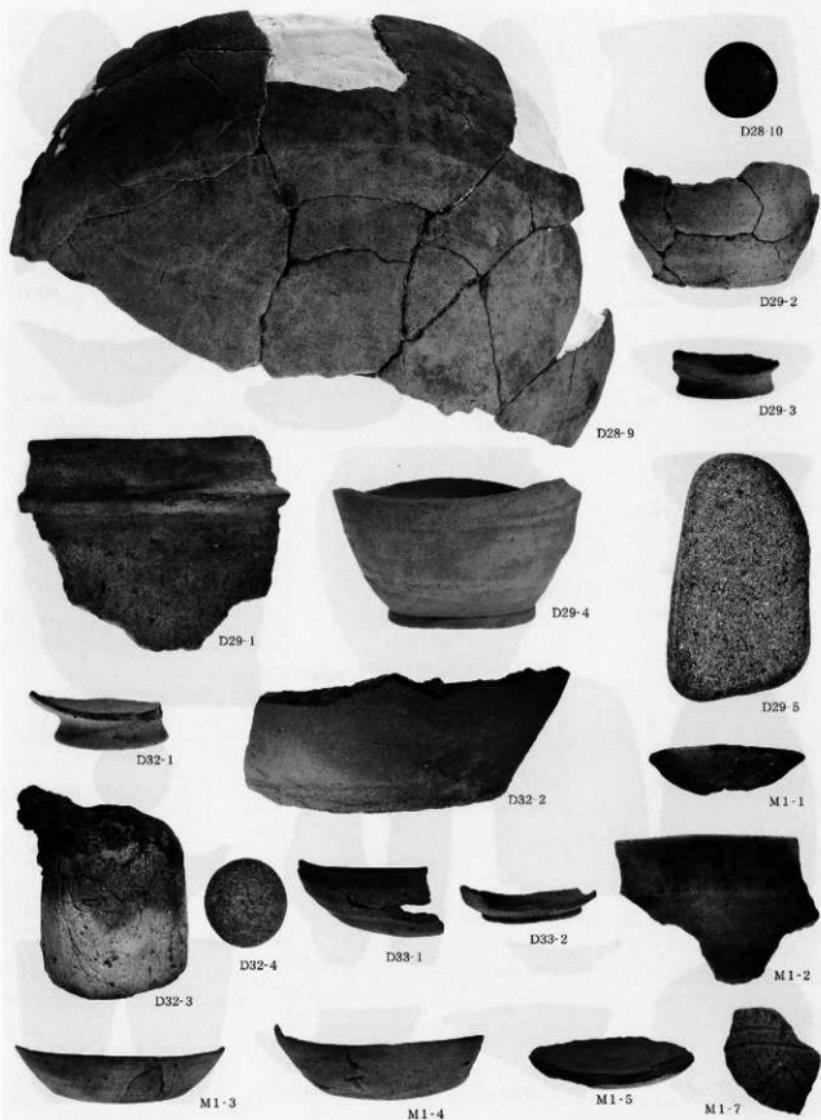


D 7・8・9・10・11・13・14・16・20・21・22号土坑出土遺物

図版
34

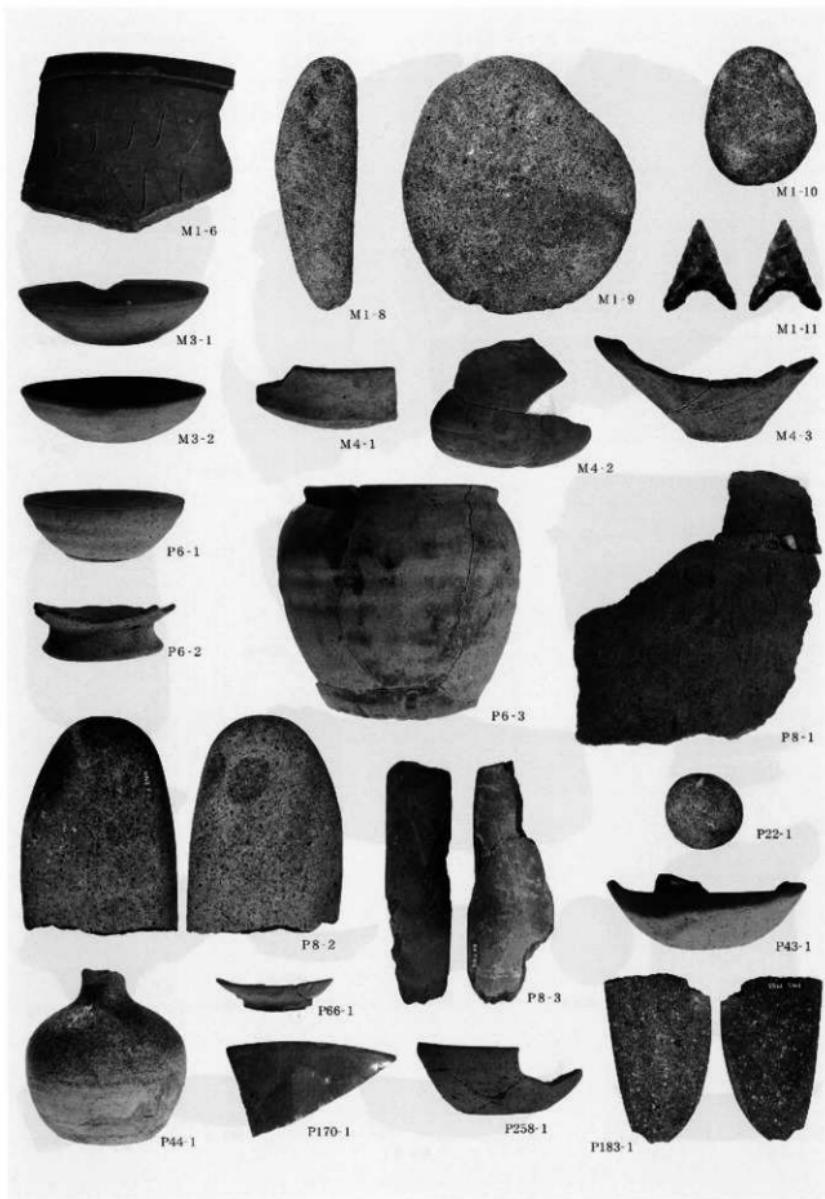


D25・26・28号土坑出土遺物

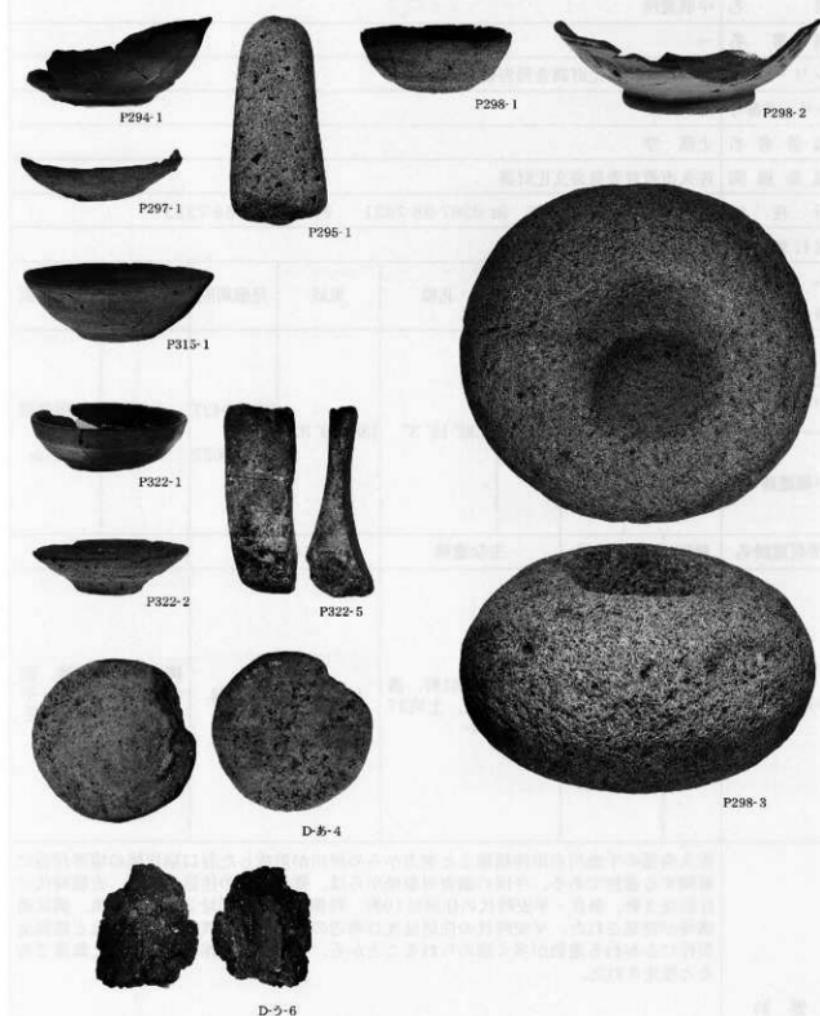


D28-29-32-33号土坑、M1号溝状遺構出土遺物

図版
36



M 1・3・4号溝状遺構、P 6・8・22・43・44・66・170・183・258号ピット出土遺物



P 294・295・297・298・315・322号ビット、グリッド出土遺物

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第202集
中壇遺跡
平成25年（2013）1月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
tel0267-68-7321

印 刷 所 キクハラリンク有限会社

